

# 資 料



## 第 1 部 保育士資格取得段階における保育士の専門性（知識、技術、判断、倫理）の相違に関する比較考察

### 第 1 章 養成校方式と試験方式に関する調査（I-1）資料

資料 1-1 施設長調査票

資料 1-2 施設長調査結果

資料 2-1 試験保育士調査票

資料 2-2 試験保育士調査結果

資料 3-1 養成校調査票

資料 3-2 養成校調査結果

資料 4 ヒアリング内容



## 保育士養成のある方に関する調査

「平成 27 年度子ども・子育て支援推進調査研究事業」

この調査票は、保育所、児童養護施設、乳児院の各施設長の皆様を対象に、保育士養成および保育士試験制度についてお尋ねし、今後の保育士養成課程および保育士試験のあり方を検討する基礎資料を収集することを目的としています。ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

**お忙しいところ誠に恐縮ですが、ご記入いただいた調査票は、2月5日(金)までにご返送ください。**

○本調査票での用語について

1. 保育所、保育園等の呼称は「保育所」と表記しています。児童養護施設、乳児院については「施設」と表記しています。それらの組織の長の方は、すべて「施設長」と表記しています。
2. 旧称「保育」は、現称「保育士」に統一しています。
3. 本調査票では、保育士試験により保育士資格を取得された保育士の方を「試験保育士」、指定保育士養成施設を卒業して保育士資格を取得された保育士の方を「養成校卒保育士」と表記しています。

○ご記入にあたってのお願い

1. 質問の回答には、選択肢の中から選ぶものと、具体的に記述していただくものとがあります。
2. 質問の回答では、特に指定をしていない場合は、どれか一つを選んで記号に○印をつけてください。「5 つ以内」とある場合は、最大 5 つまで○印をつけてください。また、「複数回答」とある場合は、該当するものいくつでも○印をつけてください。
3. ご記入は、黒のボールペンか濃い目の鉛筆でお願いします。

なお、本調査票には、県・市名などを具体的に書いていただいておりますが、回答は無記名で回答内容はコンピュータで機械的・統計的に処理いたします。個別名をあげての集計や報告はいたしません。また、調査結果は本調査の目的以外には使用いたしません。ご回答者や勤務先にご迷惑をかけることのないよう個人情報の取り扱いには十分配慮いたしますので、ご協力くださいますようお願いいたします。

平成 28 年 1 月  
一般社団法人 全国保育士養成協議会

〒171-8536 東京都豊島区高田 3-19-10  
全国保育士養成協議会 事業調査課  
TEL 03-3590-5571 FAX 03-3590-5591  
E-mail hyk@hoyokyo.or.jp

1. あなた自身のことについてお伺いします。

- Q1. あなたの性別は 1. 男 2. 女  
Q2. あなたの年齢は 1. 20 歳代 2. 30 歳代 3. 40 歳代 4. 50 歳代 5. 60 歳代以上

- Q3. あなたが勤務する児童福祉施設は 1. 保育所 2. 児童養護施設 3. 乳児院 4. その他

- Q4. あなたの勤務する施設・保育所は 1. 公立 2. 私立  
Q5. あなたが勤務する施設・保育所の所在地は ( ) 都・道・府・県 ( ) 市・区

- Q6. あなたの現在の施設・保育所での立場をお聞かせください。  
1. 施設長 2. 副施設長 3. その他(具体的に )

- Q7. 施設・保育所に最初に就職したのはいつでしたか。  
昭和・平成 ( ) 年 ( ) 月  
— SQ7-2 その施設・保育所は認可施設でしたか。  
1. はい 2. いいえ

- SQ7-3 その時の立場は何でしたか。  
1. 施設長 2. 副施設長 3. 主任保育士 4. 保育士(常勤)  
5. 保育士(非常勤) 6. その他(具体的に )

- SQ7-4 その時保育士資格はもっていましたか。  
1. もっていた 2. もっていません

- Q8. 施設・保育所に勤めた経験は通算してどれだけになりますか。  
( ) 年 ( ) カ月になる

- Q9. 最終の卒業学校をお聞かせください。  
1. 中学校 2. 高等学校 3. 短期大学 4. 4 年制大学  
5. 大学院 6. 専修学校 7. その他 ( )  
— SQ9-2 その学校の卒業はいつでしたか  
昭和・平成 ( ) 年

- Q10. 現在あなたは保育士資格をもっていますか。  
1. もっている 2. もっていません

- SQ10-2 その保育士資格の取得の方法は何でしたか。  
1. 保育士の養成校を卒業 2. 保育士試験に合格 3. その他 ( )

Q11. 現在あなたは保育士資格の他に資格・免許をもっていますか。

- 1. もっている      2. もっていない
- SQ11-2— その資格・免許は何ですか (複数回答可) —SQ11-3— 該当する種類に○をして下さい
- 1. 幼稚園教諭免許状 \_\_\_\_\_ 専修 ・ 一種 ・ 二種
  - 2. 小学校教諭免許状 \_\_\_\_\_ 専修 ・ 一種 ・ 二種
  - 3. 中学・高等学校教諭免許状 \_\_\_\_\_ 専修 ・ 一種 ・ 二種
  - 4. 特別支援学校教諭免許状 \_\_\_\_\_ 専修 ・ 一種 ・ 二種
  - 5. 養護教諭免許状 \_\_\_\_\_ 専修 ・ 一種 ・ 二種
  - 6. 介護福祉士 \_\_\_\_\_
  - 7. 社会福祉士 \_\_\_\_\_
  - 8. 看護師 \_\_\_\_\_
  - 9. 保健師 \_\_\_\_\_
  - 10. 栄養士 \_\_\_\_\_ 管理栄養士 ・ 栄養士
  - 11. その他 ( \_\_\_\_\_ )

Q12. あなたの勤務する施設・保育所では、過去5年間のうちに試験保育士(常勤・非常勤を含む)が勤務していたこと、あるいは過去5年間のうちに試験保育士を採用したことはありますか。

- 1. ある ( \_\_\_\_\_ 人)      2. ない
- SQ12-2— その保育士は今も仕事を続けていますか。
- 1. 全員続けている (産休・育休を含む)      2. 一部退職している      3. 全員退職している
  - 4. その他 ( \_\_\_\_\_ )

II. 施設・保育所で採用された試験保育士と養成校卒保育士についてお尋ねします。

Q13. 「保育士としての成長プロセス」の中で、以下のような内容はどの時期までに育つことが求められると思いますか。当てはまるもの1つに○をつけてください。

	勤務するまでに	勤務年数1年までに	勤務年数3年までに	勤務年数5年までに
1. 子どもの成長に喜びを感じるができる	1	2	3	4
2. 家事や料理・洗濯など、自らの生活体験を生かした保育を行うことができる	1	2	3	4
3. 保育士自身の豊かな遊びの経験を保育・援助に生かすことができる	1	2	3	4
4. 状況に応じた柔軟な態度で保育を行うことができる	1	2	3	4
5. 子どもに安心感を与えるような対応ができる	1	2	3	4
6. 保育士集団の中でリーダーシップを発揮することができる	1	2	3	4
7. チームワークを意識して保育・援助することができる	1	2	3	4
8. 保育士として適切な行動規範を子どもに示すことができる	1	2	3	4
9. 保護者をはじめ地域の人々に対して適切なコミュニケーションをとることができる	1	2	3	4
10. 民生委員、児童委員、地域の専門機関などとの連携を図ることができる	1	2	3	4
11. 個と集団の関係を踏まえて子どもにかかわることができる	1	2	3	4
12. 身のまわりのモノの特性を考慮して環境構成や援助を行うことができる	1	2	3	4
13. 常に子どもの最善の利益を意識した保育・援助をすることができる	1	2	3	4
14. 子どもの状況を読み取り、必要な場面で援助をすることができる	1	2	3	4
15. 課題を設定して実践に取り組みることができる	1	2	3	4

Q 14. 勤務 3 年未満の試験保育士と養成校卒保育士のそれぞれに対して、どのような内容の研修が特に必要だと思いますか。保育士の経験年数別の欄に各々5つ以内○をつけてください。

	研修の内容	試験保育士の 経験年数		養成校卒保育士の 経験年数	
		着任 1年目の人	勤務3年 未満の人	着任 1年目の人	勤務3年 未満の人
1	子どもの福祉の考え方（社会的養護を含む）や制度についての理解				
2	保育の理論（原理）についての理解				
3	子どもの発達についての理解				
4	保育の内容（養護・教育）についての理解				
5	保育の方法についての知識・技術				
6	音楽、造形、言語等の保育表現の技術				
7	乳児の保育についての理解				
8	障がいのある子どもの保育の理解				
9	子どもの食と栄養についての理解				
10	子どもの健康（保健）についての理解				
11	保育の計画の作成についての理解				
12	子どもの生活援助及び個別支援計画（アセスメント・プランニングなど）の作成についての理解				
13	保護者に対する相談支援についての理解				
14	課題のある保護者への対応に関する理解				
15	虐待についての理解				
16	ソーシャルワーク及び地域連携に関する知識・技術				
17	民生委員、児童委員、地域の専門機関などとの連携に関する理解				
18	退所後の子どもや家庭（親子関係）への支援についての理解				
19	対人援助職としての職業倫理についての理解				

Q 15. 試験保育士と養成校卒保育士を比べてみて、専門性や資質などに違いを感じたことがありますか。

1. 非常に感じた
  2. かなり感じた
  3. どちらともいえない
  4. あまり感じなかった
  5. まったく感じなかった
- SQ15-2 それほどのようなところか、具体的にどこ記入ください。

### Ⅲ 保育士試験の内容と保育実践との関係についてお尋ねします。

Q 16. 保育士試験には一般教養に関する試験科目はありますが、施設・保育所に就職するにあたって一般教養科目の重要性を感じますか。

1. 非常に感じる
  2. かなり感じる
  3. どちらともいえない
  4. あまり感じない
  5. まったく必要ない
- SQ16-2 その理由をお書きください。

Q 17. 保育士試験の「保育実習」は、実技試験は「音楽表現」、「造形表現」、「言語表現」の実技と筆記試験（保育実習理論）ですが、「実習」の試験として適当だと思いますか。それぞれ理由も併せてご記入ください。

1. 適当である
  2. 適当でない
  3. どちらともいえない
- SQ17-2 その理由をお書きください。

Q 1 8. 保育士試験の実技試験は「音楽表現」、「造形表現」、「言語表現」の 3 分野から 2 分野を選択する方式ですが、この方式は適当だと思いますか。それぞれ理由も併せてご記入ください。

- 1. 適当である
- 2. 適当でない
- 3. どちらともいえない

→SQ18-2 その理由をお書きください。

1 9. 保育士試験制度では、施設・保育所における現場での実習はありませんが、その体験（保育現場の実習）は必要だと思いますか。

- 1. 必要だと思う
- 2. 必要はないと思う
- 3. どちらともいえない

→SQ19-2 保育現場の実習は、どのようにすればよいと思いますか。

1. 保育現場の実習をしていることを保育士試験の受験資格とする
2. 保育士試験に一部合格したら保育現場の実習をする
3. 全科目合格後、一定期間内に保育現場の実習をする
4. 全科目合格後、就職前までの都合のつくときに保育現場の実習をする
5. その他 ( )

→SQ19-3 その理由をご記入ください。

Q 2 0. 保育士試験制度は継続した方がよいと思いますか。

- 1. ぜひ継続すべきである
- 2. 出来れば継続すべきである
- 3. どちらともいえない
- 4. どちらかといえは廃止すべきである
- 5. 廃止すべきである

→SQ20-2 その理由を具体的に記入ください。

Q 2 1. 保育士養成校が、保育士試験受験者に対して何か役割を果たすとすれば、それは何だと考えますか。(複数回答可)

1. 保育士試験についての学習の援助（講習会、試験対策など）をする
2. 音楽表現、造形表現、言語表現等の実技指導をする
3. 保育現場の実習に関する機会を提供する
4. 保育士試験についての相談にのる
5. 試験保育士のための研修の機会を提供する
6. 保育士試験に関して養成校の果たす役割は特にない
7. わからない
8. その他 ( )

#### IV. 保育士の採用及び保育士資格制度についてお尋ねします。

Q 2 2. 試験保育士を採用する際には、施設・保育所における現場実習を就職前に課した方がよいと思いますか。(思いましたか)。

1. 必ず課した方がよい
2. できれば課した方がよい
3. どちらともいえない
4. なるべくなら課さない方がよい
5. 課さない方がよい

Q 2 3. 試験保育士を採用する際に、養成校卒保育士との処遇に違いがありますか(ありましたか)。

- 1. ある
- 2. ない

→SQ23-2 違いがある場合には具体的に書きください。

Q 2 4. 試験保育士を採用する際に、特に配慮していることはありますか(ありましたか)。

- 1. 配慮している
- 2. 特に配慮していない

→SQ24-2 配慮していること(配慮していたこと)を可能な限り具体的に書きください。



資料 1-1 施設長調査票

Q 2.5. 施設・保育所に勤務している（勤務していた）試験保育士のエピソード（採用の際の経緯・期待していること・課題）等について、なにかありましたらお聞かせください。

Q 2.6. 保育士資格取得に際して、養成校卒業に加えて国家試験を課すことについて、どのようにお考えですか。下記の中から1つだけ選び、○をつけてください。

1. 現行のままでよい（国家試験をしない）
2. 必要最低限のレベルを確認する程度の国家試験を課す
3. 難易度の高い国家試験を課す
4. その他（ ）

SQ-2. 上記 Q26 で「2」、「3」に○をつけた方にお聞きます。その理由をお書きください。

Q 2.7. その他、今後の保育士養成のあり方について、あなたのお考えをご自由にお書きください。

質問は以上です。長時間にわたりご協力いただきましてありがとうございます。

資料 1-2 施設長調査結果

Q1	あなただけ別は	N	%
1	男	772	100.0%
2	女	272	35.2%
3	未回答	498	64.5%
	<b>全体</b>	2	0.2%

Q2	あなただけ別は	N	%
1	幼稚園	772	100.0%
2	10歳代	0	0.0%
3	10歳代	25	3.2%
4	10歳代	54	7.0%
5	10歳代以上	312	40.2%
6	未回答	6	0.8%
	<b>全体</b>	772	100.0%

Q3	あなただけ勤務する児童福祉施設は	N	%
1	保育所	772	100.0%
2	児童発達支援センター	430	61.7%
3	児童発達支援	94	13.1%
4	その他	11	1.4%
5	未回答	2	0.3%
	<b>全体</b>	772	100.0%

Q4	あなただけ勤務する施設・保育所は	N	%
1	公立	772	100.0%
2	私立	558	77.1%
3	未回答	12	1.6%
	<b>全体</b>	772	100.0%

Q5-2	あなただけ勤務する施設・保育所の所在地【市・区】	N	%
1	都	772	100.0%
2	道	35	5.1%
3	府	27	3.6%
4	支庁	6	0.8%
5	未回答	32	4.1%
	<b>全体</b>	772	100.0%

Q5-4	あなただけ勤務する施設・保育所の所在地【市・区】	N	%
1	市	760	100.0%
2	区	509	89.6%
3	未回答	31	4.2%
	<b>全体</b>	110	14.8%

Q6	あなただけの主任の施設・保育所での立派さを評価してください。	N	%
1	立派	772	100.0%
2	やや立派	702	90.6%
3	普通	40	5.6%
4	未回答	3	0.4%
	<b>全体</b>	772	100.0%

Q7-1	施設・保育所に最初就職したのはいつでしたか。	N	%
1	1970	772	100.0%
2	1975	422	54.5%
3	未回答	258	33.4%
	<b>全体</b>	772	100.0%

Q7-2	施設・保育所に最初就職したのはいつでしたか。その施設・保育所は認可施設ですか。	N	%
1	はい	700	100.0%
2	いいえ	672	96.0%
3	未回答	7	1.0%
	<b>全体</b>	700	100.0%

Q7-3	施設・保育所に最初就職したのはいつでしたか。その時の立派さを評価してください。	N	%
1	立派	700	100.0%
2	やや立派	102	14.6%
3	普通	42	5.9%
4	未回答	327	46.7%
5	保育士（非認可）	33	4.7%
6	その他	179	25.6%
7	未回答	2	0.3%
	<b>全体</b>	700	100.0%

Q7-4	施設・保育所に最初就職したのはいつでしたか。その時の保育士資格はどのようなものでしたか。	N	%
1	1つもない	350	100.0%
2	1つだけあった	300	42.9%
3	複数あった	9	1.3%
	<b>全体</b>	350	100.0%

Q7-1	現在あなただけ勤務する児童福祉施設は	N	%
1	保育所	772	100.0%
2	児童発達支援センター	352	45.7%
3	児童発達支援	58	7.5%
4	その他	89	11.5%
5	未回答	4	0.5%
	<b>全体</b>	772	100.0%

Q7-2	現在あなただけ勤務する施設・保育所は	N	%
1	公立	772	100.0%
2	私立	558	77.1%
3	未回答	12	1.6%
	<b>全体</b>	772	100.0%

Q7-3	現在あなただけ勤務する施設・保育所の所在地【市・区】	N	%
1	都	772	100.0%
2	道	35	5.1%
3	府	27	3.6%
4	支庁	6	0.8%
5	未回答	32	4.1%
	<b>全体</b>	772	100.0%

Q7-4	現在あなただけ勤務する施設・保育所の所在地【市・区】	N	%
1	市	760	100.0%
2	区	509	89.6%
3	未回答	31	4.2%
	<b>全体</b>	110	14.8%

Q7-1	あなただけの主任の施設・保育所での立派さを評価してください。	N	%
1	立派	772	100.0%
2	やや立派	702	90.6%
3	普通	40	5.6%
4	未回答	3	0.4%
	<b>全体</b>	772	100.0%

Q7-2	施設・保育所に最初就職したのはいつでしたか。	N	%
1	1970	772	100.0%
2	1975	422	54.5%
3	未回答	258	33.4%
	<b>全体</b>	772	100.0%

Q7-3	施設・保育所に最初就職したのはいつでしたか。その時の立派さを評価してください。	N	%
1	立派	700	100.0%
2	やや立派	102	14.6%
3	普通	42	5.9%
4	未回答	327	46.7%
5	保育士（非認可）	33	4.7%
6	その他	179	25.6%
7	未回答	2	0.3%
	<b>全体</b>	700	100.0%

Q7-4	現在あなただけ勤務する児童福祉施設は	N	%
1	保育所	772	100.0%
2	児童発達支援センター	352	45.7%
3	児童発達支援	58	7.5%
4	その他	89	11.5%
5	未回答	4	0.5%
	<b>全体</b>	772	100.0%

Q7-1	現在あなただけ勤務する施設・保育所は	N	%
1	公立	772	100.0%
2	私立	558	77.1%
3	未回答	12	1.6%
	<b>全体</b>	772	100.0%

Q7-2	現在あなただけ勤務する施設・保育所の所在地【市・区】	N	%
1	都	772	100.0%
2	道	35	5.1%
3	府	27	3.6%
4	支庁	6	0.8%
5	未回答	32	4.1%
	<b>全体</b>	772	100.0%

Q7-3	現在あなただけ勤務する施設・保育所の所在地【市・区】	N	%
1	市	760	100.0%
2	区	509	89.6%
3	未回答	31	4.2%
	<b>全体</b>	110	14.8%

Q7-4	現在あなただけ勤務する児童福祉施設は	N	%
1	保育所	772	100.0%
2	児童発達支援センター	352	45.7%
3	児童発達支援	58	7.5%
4	その他	89	11.5%
5	未回答	4	0.5%
	<b>全体</b>	772	100.0%



資料 1-2 施設長調査結果

Q16-1	Q17-1	Q18-1	Q19-1	Q19-2	Q20-1	Q21																																																																																																																																																																																																																																							
<p>016-1 係長は試験に一般教養に関する試験科目はありますか。施設・保育所には試験科目はありますか。施設・保育所に試験科目はありますか。試験科目の範囲を教えてください。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回答</th> <th>N</th> <th>%</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1. 必要に応じて</td> <td>12</td> <td>100.0</td> </tr> <tr> <td>2. 必要に応じて</td> <td>12</td> <td>100.0</td> </tr> <tr> <td>3. 必要に応じて</td> <td>10</td> <td>83.3</td> </tr> <tr> <td>4. 必要に応じて</td> <td>10</td> <td>83.3</td> </tr> <tr> <td>5. 必要に応じて</td> <td>10</td> <td>83.3</td> </tr> <tr> <td>6. 必要に応じて</td> <td>10</td> <td>83.3</td> </tr> <tr> <td>7. 必要に応じて</td> <td>10</td> <td>83.3</td> </tr> <tr> <td>8. 必要に応じて</td> <td>10</td> <td>83.3</td> </tr> <tr> <td>9. 必要に応じて</td> <td>10</td> <td>83.3</td> </tr> <tr> <td>10. 必要に応じて</td> <td>10</td> <td>83.3</td> </tr> </tbody> </table>	回答	N	%	1. 必要に応じて	12	100.0	2. 必要に応じて	12	100.0	3. 必要に応じて	10	83.3	4. 必要に応じて	10	83.3	5. 必要に応じて	10	83.3	6. 必要に応じて	10	83.3	7. 必要に応じて	10	83.3	8. 必要に応じて	10	83.3	9. 必要に応じて	10	83.3	10. 必要に応じて	10	83.3	<p>017-1 係長は試験の受験科目は「普通教養」、「専門知識」、「言語理解」、「数量関係」、「図形推理」、「資料整理」の6科目ですか。試験科目の範囲を教えてください。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回答</th> <th>N</th> <th>%</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1. 必要に応じて</td> <td>12</td> <td>100.0</td> </tr> <tr> <td>2. 必要に応じて</td> <td>12</td> <td>100.0</td> </tr> <tr> <td>3. 必要に応じて</td> <td>10</td> <td>83.3</td> </tr> <tr> <td>4. 必要に応じて</td> <td>10</td> <td>83.3</td> </tr> <tr> <td>5. 必要に応じて</td> <td>10</td> <td>83.3</td> </tr> <tr> <td>6. 必要に応じて</td> <td>10</td> <td>83.3</td> </tr> <tr> <td>7. 必要に応じて</td> <td>10</td> <td>83.3</td> </tr> <tr> <td>8. 必要に応じて</td> <td>10</td> <td>83.3</td> </tr> <tr> <td>9. 必要に応じて</td> <td>10</td> <td>83.3</td> </tr> <tr> <td>10. 必要に応じて</td> <td>10</td> <td>83.3</td> </tr> </tbody> </table>	回答	N	%	1. 必要に応じて	12	100.0	2. 必要に応じて	12	100.0	3. 必要に応じて	10	83.3	4. 必要に応じて	10	83.3	5. 必要に応じて	10	83.3	6. 必要に応じて	10	83.3	7. 必要に応じて	10	83.3	8. 必要に応じて	10	83.3	9. 必要に応じて	10	83.3	10. 必要に応じて	10	83.3	<p>018-1 係長は試験の受験科目は「普通教養」、「専門知識」、「言語理解」、「数量関係」、「図形推理」、「資料整理」の6科目ですか。試験科目の範囲を教えてください。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回答</th> <th>N</th> <th>%</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1. 必要に応じて</td> <td>12</td> <td>100.0</td> </tr> <tr> <td>2. 必要に応じて</td> <td>12</td> <td>100.0</td> </tr> <tr> <td>3. 必要に応じて</td> <td>10</td> <td>83.3</td> </tr> <tr> <td>4. 必要に応じて</td> <td>10</td> <td>83.3</td> </tr> <tr> <td>5. 必要に応じて</td> <td>10</td> <td>83.3</td> </tr> <tr> <td>6. 必要に応じて</td> <td>10</td> <td>83.3</td> </tr> <tr> <td>7. 必要に応じて</td> <td>10</td> <td>83.3</td> </tr> <tr> <td>8. 必要に応じて</td> <td>10</td> <td>83.3</td> </tr> <tr> <td>9. 必要に応じて</td> <td>10</td> <td>83.3</td> </tr> <tr> <td>10. 必要に応じて</td> <td>10</td> <td>83.3</td> </tr> </tbody> </table>	回答	N	%	1. 必要に応じて	12	100.0	2. 必要に応じて	12	100.0	3. 必要に応じて	10	83.3	4. 必要に応じて	10	83.3	5. 必要に応じて	10	83.3	6. 必要に応じて	10	83.3	7. 必要に応じて	10	83.3	8. 必要に応じて	10	83.3	9. 必要に応じて	10	83.3	10. 必要に応じて	10	83.3	<p>019-1 係長は試験の受験科目は「普通教養」、「専門知識」、「言語理解」、「数量関係」、「図形推理」、「資料整理」の6科目ですか。試験科目の範囲を教えてください。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回答</th> <th>N</th> <th>%</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1. 必要に応じて</td> <td>12</td> <td>100.0</td> </tr> <tr> <td>2. 必要に応じて</td> <td>12</td> <td>100.0</td> </tr> <tr> <td>3. 必要に応じて</td> <td>10</td> <td>83.3</td> </tr> <tr> <td>4. 必要に応じて</td> <td>10</td> <td>83.3</td> </tr> <tr> <td>5. 必要に応じて</td> <td>10</td> <td>83.3</td> </tr> <tr> <td>6. 必要に応じて</td> <td>10</td> <td>83.3</td> </tr> <tr> <td>7. 必要に応じて</td> <td>10</td> <td>83.3</td> </tr> <tr> <td>8. 必要に応じて</td> <td>10</td> <td>83.3</td> </tr> <tr> <td>9. 必要に応じて</td> <td>10</td> <td>83.3</td> </tr> <tr> <td>10. 必要に応じて</td> <td>10</td> <td>83.3</td> </tr> </tbody> </table>	回答	N	%	1. 必要に応じて	12	100.0	2. 必要に応じて	12	100.0	3. 必要に応じて	10	83.3	4. 必要に応じて	10	83.3	5. 必要に応じて	10	83.3	6. 必要に応じて	10	83.3	7. 必要に応じて	10	83.3	8. 必要に応じて	10	83.3	9. 必要に応じて	10	83.3	10. 必要に応じて	10	83.3	<p>019-2 係長は試験の受験科目は「普通教養」、「専門知識」、「言語理解」、「数量関係」、「図形推理」、「資料整理」の6科目ですか。試験科目の範囲を教えてください。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回答</th> <th>N</th> <th>%</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1. 必要に応じて</td> <td>12</td> <td>100.0</td> </tr> <tr> <td>2. 必要に応じて</td> <td>12</td> <td>100.0</td> </tr> <tr> <td>3. 必要に応じて</td> <td>10</td> <td>83.3</td> </tr> <tr> <td>4. 必要に応じて</td> <td>10</td> <td>83.3</td> </tr> <tr> <td>5. 必要に応じて</td> <td>10</td> <td>83.3</td> </tr> <tr> <td>6. 必要に応じて</td> <td>10</td> <td>83.3</td> </tr> <tr> <td>7. 必要に応じて</td> <td>10</td> <td>83.3</td> </tr> <tr> <td>8. 必要に応じて</td> <td>10</td> <td>83.3</td> </tr> <tr> <td>9. 必要に応じて</td> <td>10</td> <td>83.3</td> </tr> <tr> <td>10. 必要に応じて</td> <td>10</td> <td>83.3</td> </tr> </tbody> </table>	回答	N	%	1. 必要に応じて	12	100.0	2. 必要に応じて	12	100.0	3. 必要に応じて	10	83.3	4. 必要に応じて	10	83.3	5. 必要に応じて	10	83.3	6. 必要に応じて	10	83.3	7. 必要に応じて	10	83.3	8. 必要に応じて	10	83.3	9. 必要に応じて	10	83.3	10. 必要に応じて	10	83.3	<p>020-1 係長は試験の受験科目は「普通教養」、「専門知識」、「言語理解」、「数量関係」、「図形推理」、「資料整理」の6科目ですか。試験科目の範囲を教えてください。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回答</th> <th>N</th> <th>%</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1. 必要に応じて</td> <td>12</td> <td>100.0</td> </tr> <tr> <td>2. 必要に応じて</td> <td>12</td> <td>100.0</td> </tr> <tr> <td>3. 必要に応じて</td> <td>10</td> <td>83.3</td> </tr> <tr> <td>4. 必要に応じて</td> <td>10</td> <td>83.3</td> </tr> <tr> <td>5. 必要に応じて</td> <td>10</td> <td>83.3</td> </tr> <tr> <td>6. 必要に応じて</td> <td>10</td> <td>83.3</td> </tr> <tr> <td>7. 必要に応じて</td> <td>10</td> <td>83.3</td> </tr> <tr> <td>8. 必要に応じて</td> <td>10</td> <td>83.3</td> </tr> <tr> <td>9. 必要に応じて</td> <td>10</td> <td>83.3</td> </tr> <tr> <td>10. 必要に応じて</td> <td>10</td> <td>83.3</td> </tr> </tbody> </table>	回答	N	%	1. 必要に応じて	12	100.0	2. 必要に応じて	12	100.0	3. 必要に応じて	10	83.3	4. 必要に応じて	10	83.3	5. 必要に応じて	10	83.3	6. 必要に応じて	10	83.3	7. 必要に応じて	10	83.3	8. 必要に応じて	10	83.3	9. 必要に応じて	10	83.3	10. 必要に応じて	10	83.3	<p>021 係長は試験の受験科目は「普通教養」、「専門知識」、「言語理解」、「数量関係」、「図形推理」、「資料整理」の6科目ですか。試験科目の範囲を教えてください。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回答</th> <th>N</th> <th>%</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1. 必要に応じて</td> <td>12</td> <td>100.0</td> </tr> <tr> <td>2. 必要に応じて</td> <td>12</td> <td>100.0</td> </tr> <tr> <td>3. 必要に応じて</td> <td>10</td> <td>83.3</td> </tr> <tr> <td>4. 必要に応じて</td> <td>10</td> <td>83.3</td> </tr> <tr> <td>5. 必要に応じて</td> <td>10</td> <td>83.3</td> </tr> <tr> <td>6. 必要に応じて</td> <td>10</td> <td>83.3</td> </tr> <tr> <td>7. 必要に応じて</td> <td>10</td> <td>83.3</td> </tr> <tr> <td>8. 必要に応じて</td> <td>10</td> <td>83.3</td> </tr> <tr> <td>9. 必要に応じて</td> <td>10</td> <td>83.3</td> </tr> <tr> <td>10. 必要に応じて</td> <td>10</td> <td>83.3</td> </tr> </tbody> </table>	回答	N	%	1. 必要に応じて	12	100.0	2. 必要に応じて	12	100.0	3. 必要に応じて	10	83.3	4. 必要に応じて	10	83.3	5. 必要に応じて	10	83.3	6. 必要に応じて	10	83.3	7. 必要に応じて	10	83.3	8. 必要に応じて	10	83.3	9. 必要に応じて	10	83.3	10. 必要に応じて	10	83.3
回答	N	%																																																																																																																																																																																																																																											
1. 必要に応じて	12	100.0																																																																																																																																																																																																																																											
2. 必要に応じて	12	100.0																																																																																																																																																																																																																																											
3. 必要に応じて	10	83.3																																																																																																																																																																																																																																											
4. 必要に応じて	10	83.3																																																																																																																																																																																																																																											
5. 必要に応じて	10	83.3																																																																																																																																																																																																																																											
6. 必要に応じて	10	83.3																																																																																																																																																																																																																																											
7. 必要に応じて	10	83.3																																																																																																																																																																																																																																											
8. 必要に応じて	10	83.3																																																																																																																																																																																																																																											
9. 必要に応じて	10	83.3																																																																																																																																																																																																																																											
10. 必要に応じて	10	83.3																																																																																																																																																																																																																																											
回答	N	%																																																																																																																																																																																																																																											
1. 必要に応じて	12	100.0																																																																																																																																																																																																																																											
2. 必要に応じて	12	100.0																																																																																																																																																																																																																																											
3. 必要に応じて	10	83.3																																																																																																																																																																																																																																											
4. 必要に応じて	10	83.3																																																																																																																																																																																																																																											
5. 必要に応じて	10	83.3																																																																																																																																																																																																																																											
6. 必要に応じて	10	83.3																																																																																																																																																																																																																																											
7. 必要に応じて	10	83.3																																																																																																																																																																																																																																											
8. 必要に応じて	10	83.3																																																																																																																																																																																																																																											
9. 必要に応じて	10	83.3																																																																																																																																																																																																																																											
10. 必要に応じて	10	83.3																																																																																																																																																																																																																																											
回答	N	%																																																																																																																																																																																																																																											
1. 必要に応じて	12	100.0																																																																																																																																																																																																																																											
2. 必要に応じて	12	100.0																																																																																																																																																																																																																																											
3. 必要に応じて	10	83.3																																																																																																																																																																																																																																											
4. 必要に応じて	10	83.3																																																																																																																																																																																																																																											
5. 必要に応じて	10	83.3																																																																																																																																																																																																																																											
6. 必要に応じて	10	83.3																																																																																																																																																																																																																																											
7. 必要に応じて	10	83.3																																																																																																																																																																																																																																											
8. 必要に応じて	10	83.3																																																																																																																																																																																																																																											
9. 必要に応じて	10	83.3																																																																																																																																																																																																																																											
10. 必要に応じて	10	83.3																																																																																																																																																																																																																																											
回答	N	%																																																																																																																																																																																																																																											
1. 必要に応じて	12	100.0																																																																																																																																																																																																																																											
2. 必要に応じて	12	100.0																																																																																																																																																																																																																																											
3. 必要に応じて	10	83.3																																																																																																																																																																																																																																											
4. 必要に応じて	10	83.3																																																																																																																																																																																																																																											
5. 必要に応じて	10	83.3																																																																																																																																																																																																																																											
6. 必要に応じて	10	83.3																																																																																																																																																																																																																																											
7. 必要に応じて	10	83.3																																																																																																																																																																																																																																											
8. 必要に応じて	10	83.3																																																																																																																																																																																																																																											
9. 必要に応じて	10	83.3																																																																																																																																																																																																																																											
10. 必要に応じて	10	83.3																																																																																																																																																																																																																																											
回答	N	%																																																																																																																																																																																																																																											
1. 必要に応じて	12	100.0																																																																																																																																																																																																																																											
2. 必要に応じて	12	100.0																																																																																																																																																																																																																																											
3. 必要に応じて	10	83.3																																																																																																																																																																																																																																											
4. 必要に応じて	10	83.3																																																																																																																																																																																																																																											
5. 必要に応じて	10	83.3																																																																																																																																																																																																																																											
6. 必要に応じて	10	83.3																																																																																																																																																																																																																																											
7. 必要に応じて	10	83.3																																																																																																																																																																																																																																											
8. 必要に応じて	10	83.3																																																																																																																																																																																																																																											
9. 必要に応じて	10	83.3																																																																																																																																																																																																																																											
10. 必要に応じて	10	83.3																																																																																																																																																																																																																																											
回答	N	%																																																																																																																																																																																																																																											
1. 必要に応じて	12	100.0																																																																																																																																																																																																																																											
2. 必要に応じて	12	100.0																																																																																																																																																																																																																																											
3. 必要に応じて	10	83.3																																																																																																																																																																																																																																											
4. 必要に応じて	10	83.3																																																																																																																																																																																																																																											
5. 必要に応じて	10	83.3																																																																																																																																																																																																																																											
6. 必要に応じて	10	83.3																																																																																																																																																																																																																																											
7. 必要に応じて	10	83.3																																																																																																																																																																																																																																											
8. 必要に応じて	10	83.3																																																																																																																																																																																																																																											
9. 必要に応じて	10	83.3																																																																																																																																																																																																																																											
10. 必要に応じて	10	83.3																																																																																																																																																																																																																																											
回答	N	%																																																																																																																																																																																																																																											
1. 必要に応じて	12	100.0																																																																																																																																																																																																																																											
2. 必要に応じて	12	100.0																																																																																																																																																																																																																																											
3. 必要に応じて	10	83.3																																																																																																																																																																																																																																											
4. 必要に応じて	10	83.3																																																																																																																																																																																																																																											
5. 必要に応じて	10	83.3																																																																																																																																																																																																																																											
6. 必要に応じて	10	83.3																																																																																																																																																																																																																																											
7. 必要に応じて	10	83.3																																																																																																																																																																																																																																											
8. 必要に応じて	10	83.3																																																																																																																																																																																																																																											
9. 必要に応じて	10	83.3																																																																																																																																																																																																																																											
10. 必要に応じて	10	83.3																																																																																																																																																																																																																																											

## 保育士養成のあり方に関する調査

「平成 27 年度子ども・子育て支援推進調査研究事業」

この調査票は、保育士試験で保育士資格を取得された方に、保育士試験についてお尋ねし、今後の保育士養成課程及び保育士試験のあり方を検討する資料を集めることを目的としています。ご協力のほどよろしくお願いいたします。

**お忙しいところ誠に恐縮ですが、ご記入いただいた調査票は、2月5日(金)までにご返送ください。**

○本調査票での用語について

1. 保育所、保育園等の呼称は「保育所」と表記しています。児童養護施設、乳児院については「施設」と表記しています。
2. 旧称「保母」は、現称「保育士」に統一しています。
3. 本調査票では、保育士試験により保育士資格を取得された保育士の方を「試験保育士」、指定保育士養成施設を卒業して保育士資格を取得された保育士の方を「養成校卒保育士」と表記しています。

○ご記入にあたってのお願い

1. 質問の回答には、選択肢の中から選ぶものと、具体的に記述していただくものがあります。
2. 質問の回答について、特に指示していない場合は、どれか一つを選んで記号に○印をつけてください。「(複数回答)」とある場合は、該当するものいくつでも○印をつけてください。
3. 保育士等の職種のうち、「常勤」は正規職員及び正規職員に準じて就労する者、「非常勤」は例えば週 2 日や 1 日 4 時間など限られた時間に就労する者をいいます。
4. 記入は、黒のボールペンか濃い目の鉛筆をお願いします。

なお、本調査票には、県・市名などを具体的に書いていただいておりますが、回答は無記名で回答内容はコンピュータで機械的・統計的に処理いたします。個別名をあげての集計や報告はいたしません。また、調査結果は本調査の目的以外には使用いたしません。ご回答者や勤務先にご迷惑をかけることのないよう個人情報取り扱いには十分配慮いたしますので、ご協力くださいますようお願いいたします。

平成 28 年 1 月  
一般社団法人 全国保育士養成協議会

本調査についてのご質問、お問い合わせなどがございましたら下記までご連絡ください。

〒171-8536 東京都豊島区高田 3-19-10  
全国保育士養成協議会 事業調査課  
TEL 03-3590-5571 FAX 03-3590-5591  
E-mail hyk@hoyokyo.or.jp

### I. あなた自身のことについてお伺いします。

- Q 1. あなたの性別は 1. 男 2. 女
- Q 2. あなたの年齢は 1. 20 歳代 2. 30 歳代 3. 40 歳代 4. 50 歳代 5. 60 歳代以上
- Q 3. あなたが勤務する児童福祉施設は 1. 保育所 2. 児童養護施設 3. 乳児院 4. その他 ( )
- Q 4. あなたの勤務する施設・保育所は 1. 公立 ( ) 2. 私立 ( )
- Q 5. あなたが勤務する施設・保育所の所在地は ( ) 都・道・府・県 ( ) 市・区
- Q 6. あなたの現在の施設・保育所 (園) での立場をお聞かせください。  
1. 施設長 (園長) 2. 副施設長 (副園長) 3. 主任保育士 4. 保育士 (常勤) 5. 保育士 (非常勤) 6. その他 (具体的に )
- Q 7. 施設・保育所に最初に就職したのはいつですか。  
昭和・平成 ( ) 年 ( ) 月  
— SQ7-2 その施設・保育所は認可園でしたか。 1. はい 2. いいえ  
— SQ7-3 その時の立場は何でしたか。 1. 施設長 (園長) 2. 副施設長 (副園長) 3. 主任保育士 4. 保育士 (常勤) 5. 保育士 (非常勤) 6. その他 (具体的に )  
— SQ7-4 その時保育士資格はもっていましたか。 1. もっていた 2. もっていません
- Q 8. 施設・保育所に勤めた経験は通算してどれだけになりますか ( ) 年 ( ) 月になる
- Q 9. 最終の卒業学校をお聞かせください。  
1. 中学校 2. 高等学校 3. 短期大学 4. 4 年制大学 5. 大学院 6. 専修学校 7. その他 ( )  
— SQ9-2 その学校の卒業はいつでしたか 昭和・平成 ( ) 年

## II. 保育士試験の受験についてお尋ねします。

Q10. 保育士試験を受験したとき、職業に就いていましたか。

1. 就いていた

- 1. 常勤として勤めていた
- 2. 非常勤として勤めていた
- 3. その他 ( )

2. 就いていなかった

- 就いていた職業は
  - 1. 施設職員 (種別 )
  - 2. 保育所職員
  - 3. それ以外 (具体的にお書きください )

- 1. 子育てや家事などをしていた
- 2. 学生であった
- 3. 特に何もしていなかった
- 4. その他

Q11. あなたが保育士試験を受験した動機あるいは理由は何ですか (3つまで複数回答可)。

- 1. 職務上の指示命令により
- 2. 無資格で保育所 (園) で働いていて資格が必要になった (ほしくなった) から
- 3. 同僚や友人からのアドバイスを受けて
- 4. 在学中の学校の方針により
- 5. 保育士試験の一部科目免除の指定を受けている学校を卒業している (在学していた) から
- 6. 幼稚園教諭免許などの他に保育士資格もほしかったから
- 7. 職業選択の幅を広げるために
- 8. 保育士への転職を考えたから
- 9. いつか役に立つかも知れないと思ったから
- 10. ただなんとなく
- 11. その他 ( )

Q12. 保育士試験で保育士資格を取得するのに (一部科目合格から全科目まで) 全部で何年かかりましたか。

( ) 年かかった

— SQ12-2 初めて保育士試験を受けたのはいつですか。また、その時何歳でしたか。

昭和、平成 ( ) 年 ( ) 歳

— SQ12-3 合格するまでに一部科目の受験を含めて全部で何回受験しましたか。

全部で ( ) 回受験した

— SQ12-4 合格するまでに一部科目の受験を含めて保育士試験はいくつの都道府県で受けましたか。

— ( ) の都道府県で受験した

— SQ12-4-2 その都道府県名をできれば全部お書きください。

( )

Q13. 保育士資格を取得したのはいつですか。またその時あなたは何歳でしたか。

昭和・平成 ( ) 年 ( ) 歳

Q14. 保育士証を取得した都道府県はどこですか。

( ) 都道府県から取得した

Q15. 保育士試験の受験に際して、そのための事前の講習等を受けましたか。

□ 1. 受けた

□ 2. 受けなかった

□ SQ15-2 それはどのような講習 (講座) でしたか。(複数回答可)

- 1. 都道府県社会福祉協議会・保育士会等の主催による講習
- 2. 大学等による保育士試験受験のための講習
- 3. 業者が開催する保育士試験受験のための講習
- 4. 業者による保育士試験受験のための通信教育講習
- 5. その他 ( )

Q16. 「音楽表現」、「造形表現」、「言語表現」など実技を伴う科目の受験勉強に個人として特別な指導 (レッスン) を受けましたか。

□ 1. 受けた

□ 2. 受けなかった

□ SQ16-2 それはどのような内容ですか (複数回答可)

- 1. 音楽表現 (ピアノ、ギター、アコーディオン) のレッスン
- 2. 造形表現 (絵画制作等) のレッスン
- 3. 言語表現 (絵本の読み聞かせ等) のレッスン
- 4. その他 ( )

Q17. 現在あなたは保育人資格の他に資格・免許をもっていますか

□ 1. もっている 2. もっていない

↳ SQ17-2 その資格・免許は何ですか(複数回答可) → SQ17-3 該当する種類に○をして下さい

- |                 |       |    |     |
|-----------------|-------|----|-----|
| 1. 幼稚園教諭免許状     | 専修    | 一種 | 二種  |
| 2. 小学校教諭免許状     | 専修    | 一種 | 二種  |
| 3. 中学・高等学校教諭免許状 | 専修    | 一種 | 二種  |
| 4. 特別支援学校教諭免許状  | 専修    | 一種 | 二種  |
| 5. 養護教諭免許状      | 専修    | 一種 | 二種  |
| 6. 介護福祉士        |       |    |     |
| 7. 社会福祉士        |       |    |     |
| 8. 看護師          |       |    |     |
| 9. 保健師          |       |    |     |
| 10. 栄養士         | 管理栄養士 | ・  | 栄養士 |
| 11. その他 ( )     |       |    |     |

Ⅲ. 保育人試験の受験科目についてお尋ねします。

Q18. 保育人試験の科目と保育人養成の学校で学習する科目とが、科目名でも科目数でも一致していないことを知っていますか。

□ 1. 知っている 2. 知らない

↳ SQ18-2 そのことについて、あなたはどの様に思っていますか

1. 一致していないのは不合理だ
2. 両者いずれでも保育人資格としては同じであるから、教科目は同じにするべきだ
3. 基本的な科目だけは同じにするべきだ
4. 両者は違うのだから、一致しないのは当然である
5. 保育人として最小限必要なものを試験科目として照しているのだから一致しなくても仕方がない
6. 試験は試験、養成校は養成校として科目を考えればよい
7. そのことについては何も思わない
8. その他 ( )

Q19. 保育人試験には一部科目免除の制度がありますが、この制度をどう思いますか。

1. ぜひあったほうがよい
2. なるべくあつたほうがよい
3. どちらともいえない・わからない
4. どちらかといえなければよい
5. ないほうがよい

Q20. 保育人試験制度は今後も継続した方がよいと思いますか。

□ 1. ぜひ継続すべきである

□ 2. 出来れば継続すべきである

□ 3. どちらともいえない

□ 4. どちらかといえれば廃止すべきである

□ 5. 廃止すべきである

SQ19-2 その理由を具体的に記入下さい。

Ⅳ. 保育人試験の内容と保育人実践の関係についてお尋ねします。

Q21. 保育人試験で資格を取得し現場に入る際に、何か困ったことなどを感じましたか。

- 1. 非常に感じた
- 2. かなり感じた
- 3. どちらともいえない
- 4. あまり感じない
- 5. まったく感じない

↳ SQ21-2 それはどの様な事柄について感じて感じましたか。具体的に記入下さい。

Q22. 保育人試験には一般教養に関する試験科目はありませんが、施設・保育人所に就職してみても一般教養の重要性を感じますか。

- 1. 非常に感じる
- 2. かなり感じる
- 3. どちらともいえない
- 4. あまり感じない
- 5. まったく感じない

↳ SQ22-2 その理由を記入下さい。

Q23. 保育士試験の「保育実習」は、実技試験は「音楽表現」、「造形表現」、「言語表現」の実技と筆記試験（「保育実習理論」）ですが、「実習」の試験として適当だと思いますか。それぞれ理由も併せてご記入ください。

- 1. 適当である  
 →2. 適当でない  
 →3. どちらともいえない

→SQ23-2 その理由をお書きください。

Q24. 保育士試験の実技試験は「音楽表現」、「造形表現」、「言語表現」の3分野から2分野を選択する方式ですが、この方式は適当だと思いますか。それぞれ理由も併せてご記入ください。

1. 適当である 2. 適当でない 3. どちらともいえない

SQ24-2 その理由をご記入下さい。

Q25. 保育士試験制度では保育現場の実習はありませんが、保育現場の実習は必要だったと思いますか。

- 1. 必要だったと思う 2. 必要はなかったと思う 3. どちらともいえない

→SQ25-2 保育現場の実習は、どのようにすればよいと思いますか。

1. 保育現場の実習をしていることを保育士試験の受験資格とする  
 2. 保育士試験に一部合格したら保育現場の実習をする  
 3. 全科目合格後、一定期間内に保育現場の実習をする  
 4. 全科目合格後、就職前までの都合のつくときに保育現場の実習をする  
 5. その他（ ）

→SQ25-3 その理由をご記入下さい。

Q26. 保育士としての仕事をする上で次に示す事項に関する知識や技術などに不十分さを感じたことがありますか、5段階でお答えください。

1. 非常にある 2. かなりある 3. どちらでもない 4. あまりない 5. 全くない

	1	2	3	4	5
(例) 保育のねらいについての理解		+			
1. 子どもの福祉の考え方や制度についての理解					
2. 保育の理論（原理）の理解					
3. 子どもの発達についての理解					
4. 保育の内容（養護・教育）についての理解					
5. 保育の方法についての知識・技術の理解					
6. 表現（音楽・絵画・絵本の読み聞かせ）に関する技術					
7. 乳児の保育の理解					
8. 障がいのある子どもへの保育の理解					
9. 子どもの食と栄養についての理解					
10. 子どもの健康（保健）についての理解					
11. 保育の計画の立案と作成についての理解					
12. 子どもの生活援助及び個別支援計画（アセスメント・プランニングなど）の作成についての理解					
13. 保護者に対する相談支援についての理解					
14. 課題のある保護者への対応に関する理解					
15. 虐待についての理解					
16. ソーシャルワーク及び地域連携に関する知識・技術					
17. 民生委員、児童委員、地域の専門機関などとの連携に関する理解					
18. 退所後の子どもや家庭（親子関係）への支援についての理解					
19. 対人援助職としての職業倫理についての理解					





Q31. 試験で資格を取得した保育士の立場から、保育士を養成する学校に対して、ご要望やご期待があれば何でも自由にご記入下さい。

**V. 試験で資格を取得した保育士の処遇に関してお尋ねします。**

Q32. あなたが保育士試験によって保育士資格を取得したということで、採用などの際に不利益を受けたと感じたことがありますか。

- 1. 非常に感じた
- 2. かなり感じた
- 3. どちらともいえない
- 4. あまり感じない
- 5. まったく感じない

→ SQ32-2 それはどの様な事柄について感じましたか。差支えない範囲で具体的に記入下さい。

Q33. 試験で資格を取得した保育士であるために給与・格付けなどに不利益を受けたと感じたことがありますか。

- 1. 非常に感じた
- 2. かなり感じた
- 3. どちらともいえない
- 4. あまり感じない
- 5. まったく感じない

→ SQ33-2 それはどの様な事柄について感じましたか。差支えない範囲で具体的に記入下さい。

Q34. 保育士試験制度があっってよかったと思っただこととはありますか。

- 1. ある
- 2. ない

→ SQ34-2 それはどの様な事柄ですか。差支えない範囲で具体的に記入下さい。

Q35. 保育士試験や保育士資格制度について、ご要望やご期待があれば、何でも自由にご記入下さい。

質問は以上です。長時間にわたりご協力いただきましてありがとうございます。

資料 2-2 試験保士調査結果

01 あなたの性別は

Table with 3 columns: Gender, N, %

02

Table with 3 columns: Age, N, %

03

Table with 3 columns: Education, N, %

04

Table with 3 columns: Employment, N, %

05-2

Table with 3 columns: Reason for becoming a guard, N, %

05-4

Table with 3 columns: Reason for becoming a guard, N, %

06

Table with 3 columns: Reason for becoming a guard, N, %

07-1

Table with 3 columns: Reason for becoming a guard, N, %

07-2

Table with 3 columns: Reason for becoming a guard, N, %

07-3

Table with 3 columns: Reason for becoming a guard, N, %

07-4

Table with 3 columns: Reason for becoming a guard, N, %

09-1

Table with 3 columns: School type, N, %

09-2

Table with 3 columns: School type, N, %

09-1

Table with 3 columns: School type, N, %

09-2

Table with 3 columns: School type, N, %

09-3

Table with 3 columns: School type, N, %

09-4

Table with 3 columns: School type, N, %

09-1

Table with 3 columns: School type, N, %

09-2

Table with 3 columns: School type, N, %

09-3

Table with 3 columns: School type, N, %

09-1

Table with 3 columns: School type, N, %

09-2

Table with 3 columns: School type, N, %

09-1

Table with 3 columns: School type, N, %

09-2

Table with 3 columns: School type, N, %

09-1

Table with 3 columns: School type, N, %

09-2

Table with 3 columns: School type, N, %

09-1

Table with 3 columns: School type, N, %

09-2

Table with 3 columns: School type, N, %

09-1

Table with 3 columns: School type, N, %

09-2

Table with 3 columns: School type, N, %

09-1-3-4

Table with 3 columns: School type, N, %

09-1-3-5

Table with 3 columns: School type, N, %

09-1-4

Table with 3 columns: School type, N, %

09-1-1

Table with 3 columns: School type, N, %

09-1-2

Table with 3 columns: School type, N, %

09-1

Table with 3 columns: School type, N, %

09-1

Table with 3 columns: School type, N, %

09-1

Table with 3 columns: School type, N, %





## 保育士養成のあり方に関する調査

「平成 27 年度子ども・子育て支援推進調査研究事業」

この調査票は、**保育士養成校において保育実習を担当している教員の方に**、保育士養成および保育士試験制度についてお尋ねし、今後の保育士養成課程および保育士試験のあり方を検討する基礎資料を収集することを目的としています。ご協力のほどよろしくお願いいたします。

**お忙しいところ誠に恐縮ですが、ご記入いただいた調査票は 2 月 5 日（金）までにご返送ください。**

○ご記入にあたってのお願い

1. 質問の回答には、選択肢の中から選ぶものと、具体的に記述していただくものがあります。
2. 記入は、黒のボールペンか濃い目の鉛筆でお願いします。

なお、調査票は、無記名で回答内容はコンピュータにより機械的・統計的に処理いたします。また、結果は本調査の目的以外には使用いたしません。回答者やその勤務先にご迷惑をかけることのないよう個人情報取り扱いには十分配慮いたしますのでご協力よろしくお願いいたします。

平成 28 年 1 月  
一般社団法人 全国保育士養成協議会

〒171-8536 東京都豊島区高田 3-19-10  
全国保育士養成協議会 事業調査課  
TEL 03-3590-5571 FAX 03-3590-5591  
E-mail hyk@hoyokyo.or.jp

### I. あなた自身についてお伺いします。

F1. 性別をお答えください。

1. 女性
2. 男性

F2. 年齢をお答えください。

1. 20 歳代
2. 30 歳代
3. 40 歳代
4. 50 歳代
5. 60 歳以上

F3. 職位をお答えください。

1. 教授
2. 准教授
3. 専任講師
4. 助教
5. その他 ( )

F4. 養成校での全勤務年数（非常勤を除く）を合計し、当てはまるもの 1 つに○をつけてください。

1. 5 年未満
2. 5 年～10 年未満
3. 10 年～20 年未満
4. 20 年～30 年未満
5. 30 年以上

F5. 現在の養成校での勤務年数（非常勤を除く）について、当てはまるもの 1 つに○をつけてください。

1. 5 年未満
2. 5 年～10 年未満
3. 10 年～20 年未満
4. 20 年～30 年未満
5. 30 年以上

F6. 現在の養成校での雇用形態（非常勤を除く）について、当てはまるもの 1 つに○をつけてください。

1. 期限のない雇用(常勤)
2. 期限つき雇用 ( ) 年
3. その他 ( )

F7. 以下の中からあなたの専門領域にもっとも近いもの 1 つに○をつけてください。

1. 保育系
2. 福祉系
3. 心理系
4. 教育系
5. 音楽系
6. 美術系
7. 体育系
8. 栄養系
9. 保健・医療系
10. 他の人文科学系
11. 他の社会科学系
12. 他の自然科学系
13. その他 ( )

F8. 以下の中で、あなたが**所有している教育・福祉・医療に関する資格・免許**、全てに○をつけてください。

1. 保育士
2. 幼稚園教諭
3. 小学校教諭
4. 中学校教諭
5. 高等学校教諭
6. 特別支援学校教諭(養護学校教諭)
7. 養護教諭
8. 社会福祉士
9. 介護福祉士
10. 精神保健福祉士
11. 医師
12. 保健師
13. 看護師
14. 助産師
15. 管理栄養士
16. 栄養士
17. 臨床心理士
18. 臨床発達心理士
19. その他 ( )

F9. あなたが担当する実習指導について、当てはまるもの全てに○をつけてください。

1. 保育実習Ⅰ（保育所）
2. 保育実習Ⅰ（施設）
3. 保育実習Ⅱ（保育所）
4. 保育実習Ⅲ（施設）
5. 教育実習（幼稚園）
6. その他の実習指導（ ）

II あなたの所属先についてお伺いします。

F10. 養成校の設置主体についてお伺いします。当てはまるもの1つに○をつけてください。

1. 国立大学法人
2. 公立大学法人・公立大学
3. 学校法人
4. その他（ ）

F11. 養成施設の種別についてお伺いします。当てはまるもの1つに○をつけてください。

1. 短期大学
2. 専修学校（専門学校）
3. 四年制大学
4. その他（ ）

F12. 貴校が所属する全国保育士養成協議会の地域ブロックについてお伺いします。当てはまるもの1つに○をつけてください。

1. 北海道ブロック
2. 東北ブロック
3. 関東ブロック
4. 中部ブロック
5. 近畿ブロック
6. 中・四国ブロック
7. 九州ブロック

F13. 所属する養成校の学科・専攻において、以下の資格・免許の中で、学生が保育士資格と同時取得が可能なもの全てに○をつけてください。

1. 幼稚園教諭（一種）
1. 幼稚園教諭（二種）
3. 小学校教諭
4. 養護教諭
5. 特別支援学校教諭
6. 社会福祉士（受験資格）
7. 介護福祉士（受験資格）
8. 精神保健福祉士（受験資格）
9. 図書館司書教諭
10. 図書館司書
11. その他（ ）

F14. 所属する養成校の学科・専攻の1学年あたりの定員数について、当てはまるもの1つに○をつけてください。

1. 50人以下
2. 51人～100人
3. 101人～150人
4. 151人～200人
5. 201人～250人
6. 251人以上

F15. 最後に貴校の保育士養成に関する教育方針、教育目標、について伺います。求める学生像、育てたい学生像など、具体的にお答えください。

※アドミツジョンポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーなどをお書きいただくか、資料を添付していただいてもかまいません。

F16. 養成校内において保育士試験対策講座を有していますか。当てはまるもの1つに○をつけて下さい。

1. 有していない
2. 学内の教員が担当して学内（学外）で開催
3. 非常勤教員を雇用して学内（学外）で開催
3. 学外の専門業者が担当
4. その他（ ）

### Ⅲ. 保育士試験についてお伺いします。

Q 1. 現行では、保育士資格を養成校で取得する方法と保育士試験で取得する方法がありますが、それについてどのようなお考えですか。下記の中から1つだけ選び、○をつけてください。

1. 今まで通りの2つの方法でよい
2. 変更が必要である
3. 保育士試験を廃止した方がよい
4. その他 ( )

—SQ-2 上記で「2」に○をつけた方にお聞きします。試験には講義や実習などがありますが、新たに条件をつけるのとすると、どのような内容が必要だと思いますか。下記の中からいくつでも選び、○をつけてください。(複数回答可)

1. 児童福祉施設 (保育所も含む) における就業体験やボランティアを行う
2. 実習を課す
3. スクーリングを課す
4. その他 ( )

—SQ-3. 上記SQ-2で「1」「2」に○をつけた方にお聞きします。保育士試験により資格を取得した保育士が、試験合格後に実習や就業体験、ボランティアを行うことについて、あなたのお考えを自由にお書きください。

SQ-4. 保育士試験および試験により資格を取得した保育士について、あなたのお考えを自由にお書きください。

### Ⅳ. 保育士資格についてお伺いします。

Q 2. 現行通りの保育士資格とするか、あるいは領域別に分けた資格とするかについて、どのようにお考えですか。下記の中から1つだけ選び、○をつけてください。

1. 現行のとおり、保育士資格は18歳までの児童をすべての児童を対象とした領域とする
2. 保育士資格は、領域別 (保育・障害・医療・社会的養護・家庭支援など) に分けた複数の資格とする
3. その他 ( )

Q 3. 貴校の養成年限とその養成年限が十分かどうかについてどのようにお考えですか。下記(A-C) (1-3)の中からそれぞれ1つずつ選び、○をつけてください。

A 2年間                      B 3年間                      C 4年間

1. 十分である
2. 十分でない
3. その他 ( )

—SQ-2. その理由を、特に該当すると思われるものを5つ以内で選び、○をつけてください。

1. より高度な保育の専門性が求められるから
2. より高度な教育の専門性が求められるから
3. より高度な養護の専門性が求められるから
4. より高度な障害児保育の専門性が求められるから
5. 被虐待児等の心のケアを必要とする子どもに対応できる専門性が求められているから
6. 入所児童の保護者に対応できる相談援助技術の専門性が求められているから
7. 地域の子育て支援に対応できる専門性が求められているから
8. 地域関連機関・施設 (児童相談所を含む) と連携できる専門性が求められているから
9. 地域のニーズとサービスをコーディネートできる専門性が求められているから
10. 実習等体験学習の時間が不足しているから
11. 他の職員に対する指導的な保育士等が必要だから
12. 他の職種と協働する上で必要だから
13. 人間の<sup>脳</sup>機能に必要十分な時間が求められているから
14. 園運営に関するより高度なマネジメント能力が求められているから
15. カリキュラムを充実させたいから
16. 経済的負担が少ないから
17. 養成校で基礎的な力を身につけ、現場で実践力を高めることが望ましいから
18. その他 ( )

Q 4. 保育士資格を階層的な資格とすることについて、どのようにお考えですか。下記の中から1つだけ選び、○をつけてください。

1. 現行のままよい
2. 二種（短期大学・専修学校等）・一種（大学）・専修（大学院）のような階層的な資格とする
3. その他（ ）

SQ-2. 大学院での保育士養成についてどのようにお考えですか。下記の中からいくつでも選び、○をつけてください。（複数回答可）

1. 研究を中心とする大学院による保育士養成が必要である
2. 専門職養成を行う大学院（専門職大学院）での保育士養成が必要である
3. その他（ ）

SQ-3. 階層的な資格となった場合に、一定の現場経験を考慮したキャリアアップの仕組みを設けることが必要とお考えですか。下記の中から1つだけ選び、○をつけてください。

1. キャリアアップの仕組みが必要である
2. そのような仕組みは必要ない
3. その他（ ）

Q 5. 現在、保育士資格を有する者は、1年間の介護福祉養成課程で介護福祉資格を取得できます。このような保育士資格と介護福祉資格との関連づけを今後も図るべきだとお考えですか。下記の中から1つだけ選び、○をつけてください。

1. 現行のとおりに継続していく
2. 介護福祉士資格と関連を持たなくてよい
3. その他（ ）

Q 6. 現行では、保育士資格と社会福祉士資格については、関連がありません。保育士と社会福祉士の関連づけを図るべきだとお考えですか。下記の中から1つだけ選び、○をつけてください。

1. 今後、社会福祉士資格と関連づけていく
2. 社会福祉士資格と関連を持たなくてよい
3. その他（ ）

## V. 保育士の専門性についてお伺いします

Q 7. 「保育士としての成長プロセス」の中で、以下のような内容はどの時期までに育つことが求められると思いますか。当てはまるもの1つに○をつけてください。

	勤務するまでに	勤務年数1年までに	勤務年数3年までに	勤務年数5年までに
1. 子どもの成長に喜びを感じることができる	1	2	3	4
2. 家事や料理・洗濯など、自らの生活体験を生かした保育を行うことができる	1	2	3	4
3. 保育士自身の豊かな遊びの経験を保育・援助に生かすことができる	1	2	3	4
4. 状況に応じた柔軟な態度で保育を行うことができる	1	2	3	4
5. 子どもに安心感を与えるような対応ができる	1	2	3	4
6. 保育士集団の中でリーダーシップを発揮することができる	1	2	3	4
7. チームワークを意識して保育・援助することができる	1	2	3	4
8. 保育士として適切な行動規範を示すことができる	1	2	3	4
9. 保護者をはじめ地域の人々に対して適切なコミュニケーションをとることができる	1	2	3	4
10. 民生委員、児童委員、地域の専門機関などとの連携を図ることができる	1	2	3	4
11. 個と集団の関係を踏まえて子どもにかかわることができる	1	2	3	4
12. 身のまわりのモノの特性を考慮して環境構成や援助を行うことができる	1	2	3	4
13. 常に子どもの最善の利益を意識した保育・援助をすることができる	1	2	3	4
14. 子どもの状況を読み取り、必要な場面で援助をすることができる	1	2	3	4
15. 課題を設定して実践に取り組むことができる	1	2	3	4

Q 8. 保育士が就職後、5年までに特に必要と思われる職場で行う実践的な研修について、あなたのお考えをご自由にお書きください。（例）メンター制度の導入やビデオ・カンファレンスによる子ども理解の深化など



Q 9. 保育士の待遇の改善やキャリアアップの仕組みなどについて、あなたのお考えを自由に書き  
ください。

---

---

---

---

Q 10. 保育士資格取得に際して、養成校卒業に加えて国家試験を課すことについて、どのようにお考  
えですか。下記の中から1つだけ選び、○をつけてください。

1. 現行のままよい (国家試験をしない)

2. 必要最低限のレベルを確認する程度に国家試験を課す

3. 難易度の高い国家試験を課す

4. その他 ( )

—SQ-2. 上記Q10で「2」「3」に○をつけた方にお聞きします。その理由をお書きください。

---

---

---

---

Q 11. その他、今後の保育士養成のあり方について、あなたのお考えを自由に書きください。

---

---

---

---

以上でアンケートは終わります。ご協力ありがとうございました。



資料 3-2 施設長調査結果

Q7-9

「調査票としての履歴プロセスの中で、以下のよう内容ほどの特種まで書くことが求められ、記入しづらいと感じていない。【調査票とは別紙の入力に対して履歴プロセスを別紙に記入していただく】

	N	%
1. 記入するまでに	200	100.0%
2. 履歴数値までに	40	14.8%
3. 履歴数値までに	18	2.6%
4. 履歴数値までに	41	14.6%
5. 未回答	5	1.8%

Q7-10

「調査票としての履歴プロセスの中で、以下のよう内容ほどの特種まで書くことが求められ、記入しづらいと感じていない。【調査票とは別紙の入力に対して履歴プロセスを別紙に記入していただく】

	N	%
1. 記入するまでに	200	100.0%
2. 履歴数値までに	3	1.1%
3. 履歴数値までに	60	22.1%
4. 履歴数値までに	172	61.4%
5. 未回答	4	1.4%

Q7-11

「調査票としての履歴プロセスの中で、以下のよう内容ほどの特種まで書くことが求められ、記入しづらいと感じていない。【調査票とは別紙の入力に対して履歴プロセスを別紙に記入していただく】

	N	%
1. 記入するまでに	200	100.0%
2. 履歴数値までに	40	14.8%
3. 履歴数値までに	101	38.1%
4. 履歴数値までに	26	7.1%
5. 未回答	3	1.2%

Q7-12

「調査票としての履歴プロセスの中で、以下のよう内容ほどの特種まで書くことが求められ、記入しづらいと感じていない。【調査票とは別紙の入力に対して履歴プロセスを別紙に記入していただく】

	N	%
1. 記入するまでに	200	100.0%
2. 履歴数値までに	101	38.1%
3. 履歴数値までに	109	37.1%
4. 履歴数値までに	17	6.1%
5. 未回答	6	2.1%

Q7-13

「調査票としての履歴プロセスの中で、以下のよう内容ほどの特種まで書くことが求められ、記入しづらいと感じていない。【調査票とは別紙の入力に対して履歴プロセスを別紙に記入していただく】

	N	%
1. 記入するまでに	200	100.0%
2. 履歴数値までに	104	37.1%
3. 履歴数値までに	100	37.1%
4. 履歴数値までに	23	10.0%
5. 未回答	3	1.1%

Q7-14

「調査票としての履歴プロセスの中で、以下のよう内容ほどの特種まで書くことが求められ、記入しづらいと感じていない。【調査票とは別紙の入力に対して履歴プロセスを別紙に記入していただく】

	N	%
1. 記入するまでに	200	100.0%
2. 履歴数値までに	21	10.5%
3. 履歴数値までに	103	38.8%
4. 履歴数値までに	20	7.1%
5. 未回答	5	2.1%

Q7-15

「調査票としての履歴プロセスの中で、以下のよう内容ほどの特種まで書くことが求められ、記入しづらいと感じていない。【調査票とは別紙の入力に対して履歴プロセスを別紙に記入していただく】

	N	%
1. 記入するまでに	200	100.0%
2. 履歴数値までに	3	1.5%
3. 履歴数値までに	104	37.1%
4. 履歴数値までに	23	10.0%
5. 未回答	3	1.5%

Q10501

「調査票としての履歴プロセスの中で、以下のよう内容ほどの特種まで書くことが求められ、記入しづらいと感じていない。【調査票とは別紙の入力に対して履歴プロセスを別紙に記入していただく】

	N	%
1. 記入するまでに	100	50.0%
2. 履歴数値までに	104	37.1%
3. 履歴数値までに	10	2.6%
4. 履歴数値までに	3	1.1%
5. 未回答	3	1.1%

## (1) A氏

## 1) 現在、保育士資格取得の方法が2つ（養成校・保育士試験）併存していることについて

試験保育士は実習もないことに懸念はある。今後は少し整理、階層化する必要がある。養成校卒でも2年卒業、4年卒業が混在している。

## 2) 現在の保育士資格について

① 本来は、0～18歳までの資格である。全保協という組織に加入する施設で働く保育士は0歳～就学前の子どもの対象としている。それ以降の18歳までのところは、組織として協議していないので大きな課題だと思っている。

福祉の資格として18歳までの資格は大切だと思う。今後しっかり練り直す必要がある。

## ② 領域や専門性

保育士資格も将来的に、栄養士と管理栄養士のように考えられないかと思っている。2年間で卒業したら保育士資格を与えて、その上で実務経験を2年積んで保育士の上位資格にあたるような資格を創設（保育専門士等）し、その時点で、一律に国家試験の受験を課すようにする。そうすると専門性がしっかり見えてくる。

## 3) 保育士の専門性の向上・成長プロセスについて

勤務前：基本的な生活習慣、人間性、意欲（やる気）、コミュニケーション力が必要である。

1年目：発達過程を十分学ぶ

3年目：ベテランの後につくのではなく、自主的な姿勢を身につける。研究や研修の姿勢に繋がる。

5年目：保護者支援、子どもの背景についても理解できるようにする。

園での意欲的な学びを続けるために、園内研修などの体制も整える必要が有る。

## ① 試験保育士と養成校出身保育士の違い

試験で入ってくる方には実習がないということから、発達というものがわからない方も中にはいる。学力、点数がよければよいというわけではない。180時間の実習があるなしで違う。試験組の保育者は、同じ資格なのに自信がない保育者が多いように感じている。働き方を自ら限定しがちである。

## ② 養成校の実習のあり方について

養成校と園で姿勢や認識が大きく違うことがある。実習の在り方についてもきちんと話し合う必要がある。

## ③ 保育士試験科目での実習

実習を選ぶとき、評価方法で課題がある。実習を評価する（主任などの）研修保障が全国規模で必要である。それには国としての大枠整理と養成校とのタイアップがいる。

## ④ 研修について

新人研修は福岡では1泊2日である。半年から1年の現任訓練は大事である。

## 4) 保育士の待遇の改善やキャリアアップについて

他職種と月10万円ぐらい処遇が異なる。自分の仕事に誇りが持てないと若い方が思うのは当然と思う。財源配分について見直す必要がある。

処遇をきっちり上げる、例えば小学校の先生と同じくらいの処遇があってもいい。保育園の教育の内容と、幼稚園の教育の内容は同じである。保育士は保護者の保育に関する支援や、福祉的な支援など、幅広く多くの仕事をしている。そのための働く環境作りをしていただきたい。先に述べた、上位の資格の保有者の処遇は、そうではない保育士と違いを設けることを想定する。

## 5) 現在の2年生養成を基盤とする保育士養成過程の養成のあり方について

将来的に養成校を卒業しても国家試験は必要だと思っている。保育士会で作っているキャリアパスも国家試験を前提としている。名称独占だが、業務独占になっていくといいと思っている。

国家試験導入として、短大2年のときは全員に資格を。そこから極めていくときにもう2年学んで、国家試験を受けるということを構想している。そのあとの更新的は大事（研修を受けてのポイント制、又は幼稚園教諭と同じ形でもいい。）である。そのスパンは、10年でよい。

## 6) その他新たな動きも含めて保育士養成のあり方について

① 保育教諭について

就学前、乳幼児期の資格は保育教諭というふうになるかと思うが、社会的養護として施設で働いている保育士も多く、大きな課題がある。福祉としての保育士資格をなくしてはいけないと思う。

② 初任研修、現任研修の重要性

試験での資格取得後、養成校卒と同等の就職前の実習や研修は、予算がないことには難しいだろう。現場で初任研修、現任研修をすることだと思う。実際に、一年目はベテラン保育士をつけているところが多い。ベテランや新人とが保育を語り合うゆとりが大切だと思う。これをシステム化していくことだと思う。

(2) B氏

1) 現在、保育士資格取得の方法が2つ(養成校・保育士試験)併存していることについて

資格取得にはいろいろな方法があってよい。保育士になる希望のある人にとって取りやすい仕組みを用意すべきである。国家試験で保育士という制度は、学校教育でなくて、福祉という制度の中だからこそ可能である。

養成校で資格を取った学生と、試験で資格を取った方を区別せず、どちらも資格があるという前提で採用・配属をする。その保育者がどれだけの保育に対しての理解を持っているか、魅力あるものを身につけているかによって配属や担当を決める。取得の方法が2つあることは不都合ではない。

併存については、取得にも選択肢があるのでよい。試験保育士の状況を見ると、他の仕事に就き、その中で自分にとっていい職業として保育士をもう一度改めて選んだ場合、ある程度の年齢になっていても、また経済的なことなどで養成校に行くのが難しくなった時に、選択肢として保育士試験があるとよい。

今まである試験科目プラス、現場での実習を加えれば質を高められる。調理師試験などは実務経験があつて試験を受けるが、保育士も現場での実務経験(2~3年)があるとよいのではないか。ペーパーテストだけでなく、実務なり実習の経験がプラスされることが望ましい。

2) 現在の保育士資格について

① 0~18歳を対象とする現行のままがよいか、領域や専門性によって資格を変えるか

乳幼児を専門にした保育士というのも大切である。小学校の教諭でも保育士になれるということではなく、0歳から就学前を中心としたより専門的な資格ともなるべき。子どもを大事にするという考え方を大切に、若手や主婦や様々な人が資格を取った上で育っていく仕組みがあれば良い。

② 養成年限について

短大は短いとはいえないし、4大の中味が濃いかというところでもなく、年限は長ければ良いというわけではない。また、保育士の修士課程を作れば質が高まるかというところでもない。

③ 階層的な資格とするかどうか

専門性によって資格を分けることはこれからの課題として考えていくことも大事である。乳幼児の施設、それ以上の入所の施設。そこでは、保育士としてのかかわり方も少し違ってくる。保育所と施設とではやはり違ってくるころがあるので、専門的なものをプラスしていくということ、もしかしたら階層的な資格という形になるか。一種・二種ではなく、どこの専門性(児童福祉・入所の施設・保育所…)かによって異なる。基本的な保育士の素養の上に、専門的な領域ごとに学ぶ。

④ 例えば試験保育士や2年間養成の保育士が現場で経験等を生かしたキャリアアップのシステムの必要性について

キャリアアップの仕組みは必要である。幼稚園は10年目に免許更新講習があるが、保育士でもそういう仕組みは必要である。その仕組みの中で内容は考えないといけない。ただ参加すれば良いだけの研修では意味がない。研修体系が必要だし、受けられる環境を作ることも必要である。

3) 保育士の専門性の向上・成長プロセスについて

現場の経験がない事は、学生としての読み取り方(理論・知識に基づく読み取り)になるだろう。勤務する前までというのは、標準的ではない。最低現場で1年経験してから再リサーチする。たとえば、スカンジナビアだと再リサーチ(教育)センターがある。3年間、または5年間勤務して1年間の研修・研究を休職ではなくて勤務としてできるような仕組みを作ってほしい。人を育てていく理念を国が作っていくことが必要である。勤務年数に応じた再教育

の仕組みが必要である。

勤務する前までには、保育者として、社会人としてどうあるべきかを学ぶべきである。チームワークのこと、言葉遣いのこと、その場にふさわしい服装を身につけることなどの社会人、職業人としての基本的な学びが大事である。自分が人を育てることを自覚するためには、自らが子どもにとってのモデルになれるかどうかを意識することである。1年目には、子どもたちの育ちを現場で見て、学んできた机上での学び（発達の特徴など）と照らし合わせる。3年目には、自分のことを考えられるようになり、自分の課題を見つける。課題からグループで仕事をしていくことを考え、子どもを観る目を養う。5年目では、自分の課題を研修に結びつける。研修に出ることによってスキルアップできるようにする。

養成校卒業の保育士と試験保育士の違いがあれば、それはいい意味での個性として見ている。園内研修で様々なことについて共通認識を図っているのだから、そんなにこだわらない。研修の内容によって、新任が参加した方がいいものと経験者が参加した方がいいものがある。

4月の時点で全員が毎年「社会の1人」として始まる。そのような形をとれば、ここで保育する1人、チームとして働く1人なので、差が出ないような配慮をしている。こういうものが何もないと違が出る。むしろ、養成校間によつての差もある。

#### 4) 保育士の待遇の改善やキャリアアップについて

最低でも小学校の教員と同等であると良い。しかし、小学校の先生以上に、0歳からの「子どもの命」を預かっているのを考えれば、看護師くらいの待遇が必要である。

#### 5) 現在の2年制養成を基盤とする保育士養成課程の養成のあり方について

##### ① 養成課程のあり方について

学生が4年制を選ぶ理由は、4年間でゆっくり学んでいきたい（専門＋教養、その他）希望が多いためではないか。短大は、2年で集中して学んで早く現場に出たいと、基にある考え方が違う。そうであれば両方あってもよい。

願わくは4年間あってもよいと思う。社会人としての心構えや保育者としての心得など。これから育つ子どもへの支援が深くなるのではないかと考えるからである。4年間の中だからこそできることも大切である。現場として願うことは、目先のことや専門的技術を早くマスターすることではなく、その子どもの人生に影響するようなかかわりかたを目指すことができるような学びをして欲しいということである。養成校には、これから生きていく中で幅広く身につけられるようなカリキュラムを望む。人としてどうあるべきかを考えられるもの、コミュニケーション力等、座学だけでなく、授業の中で学生自身が考えられるような経験が必要（作物を考えて植えて育てる経験等）である。自然の野山に宿泊するなどして、五感を通して考える経験が必要である。

##### ② 国家試験について

国家資格であれば、どの養成校も共通のレベルを担保する共通の試験が、可能ならば大事である。個々の養成校での指導は違うが、ある一定の、最低限度の知識を問うものであればよいのではないかと。国家試験があり、社会に認められるということも処遇改善の意味からも必要ではないか。

#### 6) その他、新たな動きも含めて保育士養成の在り方について

「養護と教育」を4年間の中で学生に伝えてほしいし、養成校の教員の理解も必要である。単位や資格は必要だが、これからの時代の豊かな人間性を身につけるための養成をしてほしい。

保育教諭という意味をきちんと理解し、伝えていく体制が必要である。ただ、幼稚園教諭と保育士をしっかりと学んだうえで、最終学年で、もう一つの選択肢や理解がなされるとよい。意味や役割など。バラバラの授業の中でではなく、まとめて共通に理解できるようなものがほしい。

#### (3) C氏

##### 1) 現在、保育士資格取得の方法が2つ（養成校・保育士試験）併存することについて

両方とも問題はあつたが、両方ともあつても構わない。特に今のように人材不足であるので、保育士になりたい人が幅広く選択できることが望ましい。ただ、現在の養成においては、社会的養護や養育の専門家が養成出来ていないので、社会的養護福祉士のような資格があることが望ましい。日本児童養護実践学会で養成しているような学会認定資

格のようなものでも構わない。要は保育士自体が基礎資格になって、勤めてからの研修によって上位の資格を取っていただけるような制度が必要である。だから、保育士資格の取り方も2つあっても構わない。

将来的に社会的養護福祉士の養成所も必要である。また、社会的養護を考えたときに、養成校と現場が協力することが必要であり、インターンシップのような1年位かけての現場での研修が必要だと考える。

試験についても実習を課したらいいと思う。しかし、実技試験でピアノが本当に必要とは思わない。

## 2) 現在の保育士資格について

### ① 0～18歳を対象とする現行のままがよいか、領域や専門性によって資格を変えるか

対象は0歳から20歳までが望ましいが、児童福祉法が改正されない限り（児童保護を20歳までとする）は、現状のままでよい。

保育士はあくまでも基礎資格として取得できるようにして、就職後に専門性のある上位の資格を取れるようにすること。

### ② 養成年限について

2年制だと人生経験の少なさを感じるので、4年制が良いと考える。2年制に1年のインターン期間を設けるのも一策。

### ③ 階層的な資格とするかどうか

保育士を社会福祉分野の基礎資格として、さらにその上に、社会的養護福祉士養成所のようなところを作ることが望ましい。

④ 例えば試験保育士や2年間養成の保育士が現場で経験等を生かしたキャリアアップのシステムの必要性について  
保育士を基礎資格として、就職後に研修を受けて、キャリアアップの出来るような制度が必要。

## 3) 保育士の専門性の向上・成長プロセスについて

### ① 専門性の向上・成長プロセスについて

全国児童養護施設協議会において、勤務年数に合わせた研修体系を作り、それに沿った研修を行なおうとしている。

### ② 養成校卒業の保育士と試験保育士の違いについて

試験保育士は、優秀であるが、実習の経験がないことがあるので、子どもとの関わり方が難しいようだ。

## 4) 保育士の待遇の改善やキャリアアップについて

待遇の改善は必要である。現状では、人材確保ができない。

## 5) 現在の2年制養成を基盤とする保育士養成課程の養成のあり方について

### ① 養成課程のあり方について

保育園に教育的な要素を盛り込むのであれば、2年課程では短すぎる。最低でも3年課程は必要である。

国において社会的養護のカリキュラムを作成することが必要である。

### ② 国家試験について

国家試験の導入は不要である。むしろ間口を広くしておいて、就職後に研修によって積み上げていくほうが良い。

保育士資格は広く取れるようにして、上級の資格を試験で取れるようにすれば良い。例えば、保育士資格を持っていても、社会福祉士を取れるような道を作るべきだ。

## 6) その他、新制度がスタートし保育教諭も生まれるなど新たな動きも含めて保育士養成のあり方について

保護者支援もあるので、ソーシャルワーカーとしての学びが必要である。

## (4) D氏

### 1) 現在保育士資格取得の方法が2つ（養成校・保育士試験）併存することについて

本院では、二通りの方法で資格を取得した職員がいる。養成校も、四大から短大、3年制、また夜学も含めているような形である。そこで、一概に国試だからどうか、養成校だからどうという言い方はできない。例えば職員の中に出産後、保育士の資格を取り、乳児院で保育を担っているという実態からも、資格取得に2つの方法があることはいいことだと思っている。

しかし、試験保育士には、実習がないことが問題である。また、乳児院、児童養護施設、障害児施設など先々広く

しっかりと勉強できる形が欲しいことから、資格取得後に実習のような形で補強をすることができればよいと思う。

## 2) 現在の保育士資格について

カリキュラムに基づき学んでいるはずであるが、特に乳児院では、乳児に関する理解が不十分なのではないかと感じている。まず、基本的な保育士の資格を得て、その後にそれぞれの領域や専門性によって資格を変えるというのではないと思う。

現場として2年養成でも十分戦力になっているという受け止めもある。では4年制のよさは、何かといえば、4年間という時間や学習により、子どもと向き合うときの落ちつきであるとか、子ども理解といったものもあるのかなど思っているが、年限ではなく、個人差とも考えられる。

保育園はじめ障害児や社会的養護の施設などにも対応できるようになるには、学びながら現場に入っていくしくみ作りが必要である。インターンのようなしくみが保育士には必要である。期間については、半年か1年半か色々考えられるが、経験と学びを絡ませてながら、その後の進路を選んでいくことにつながるというのではないかと考える。

## 3) 保育士の専門性の向上・成長プロセスについて

勤務前：一般教養的、挨拶、コミュニケーションができること

対象の子どもの成長、発達、月齢に応じたあり方、どんな病気にかかりやすいか基本を知っておくこと。保育園を利用している保護者や子どもはどんな状況なのかとか、乳児院に入っている子どもにはどんな背景があり、どんな状態なのかは養成の中でも十分やられていると思うが。

1年目：対象の子どもの成長、発達に応じた成長のあり方とか、月齢に応じてどんな病気にかかりやすいかとか、実践的に学んでいくことと、それらの基本として権利擁護について理解することである。自分も大事にされるべきだし、もちろん子どもも大事にされるべきということを、どれだけしっかりと意識しているかである。保育者自身がどのような子どものころを過ごしたか、どのような親のもとで自分は育ってきて、保育という道を選んだのかを1年目までにはしっかりと認識すること。

3年目：自身の保育園なら保育園、乳児院なら乳児院の仕事を客観的に後輩に伝えることができる、また、対象の子ども理解に基づき保護者の方へ説明ができるなどが大事だと思っている。仕事の領域の幅がちょっとずつ広がり、それを丁寧にやっていくことが求められる。

5年目：外部に、保育園、乳児院など自身の施設や園の説明が十分できる、また、国、県とか地域において、その位置づけや全体的なところへの視野が広がっていくことである。さらに、課題を挙げ、自分としてどういったプランでやっていけるのかなどを考え、それを施設長はじめ上司にしっかりと意見として言うことができるのが望ましい。

研修について：職員に必要なフォローアップのための研修については、同じ法人内に保育園、児童養護もあるので、例えば職員の交換研修のような形で行っている。OJTの仕組みはどうしても必要だと思っている。そこで本人がどんな気づきをしながら次に進んでいくかである。メンター制も一時期導入はした。

## 4) 保育士の待遇の改善やキャリアアップについて

保育士の処遇については、初任給が低いことが問題である。誇りを持ってやるには低い。給与を上げていくにしても、20歳、大学生なら3年の時にインターンで入っていくしくみを持っていけばいいと思う。

キャリアアップについてだが、現場に入って、5年ぐらいまでは初任者だと思う。即戦力としてやっていくにしても、経験を積みながらじっくりと育てられるしくみが必要である。乳児院や児童養護施設等の保育士はより特化した職員が必要である。

処遇改善は、根本的にベースアップしかない。ベースアップから全ての給与がついてくるため、底上げをやっていかないと集まらない。誇りを持って仕事ができない。

ベースアップとキャリアアップを交差して、段階を追った研修を受けていき、個人個人がデータとして持つ。そのベースを持ちながら、違う施設等に異動しても、そこ（そのベース）から始めることができる。いろいろな団体で認めながら続けていくしかない。

## 5) 現在の2年制要請を基盤とする保育士養成課程の養成のあり方について

2年間で保育士の資格を取れるところはいいと思っている。その後、スキルアップしていったりキャリアアップをしていったりする中で、資格自体を取ることによって給与も上がっていくことが大事である。



2年間では詰め込みで土日もなくやっているという感じを受ける。養成校はしっかりと勉強をしていると受け止めている。しかし、2年間で伝えられることは限られている。一般教養含め人間の幅の部分は3年、4年の中でやっと理解できていくのではないかなと思う。

2年制でもプラス1年で専修科を置くなど工夫している。2年より3年、3年より4年と思う。

実習後の振り返りの仕方、学生同士で語りあう場など、2年の中ではできにくいのではないかな。繰り返しの中できか理解できないと思うので、2年制の人たちが就職をした後に学校に戻ったり、大学に編入する職員を、限定した就労日数で採用したりしている。

社会的評価を高めるには、保育士も国家試験を課した方が良いのではないかなと思う。その反面、そのことにより学生が入学しなくなるのではと思う。

保育士資格は取るのが本当に難しいんだと思われることも一方ではあっていいとは思いますが、ただ、大学にしてみれば人が集まらなくなると思うので、難しいところかなと思う。保育士資格を取るのには、簡単にといいわけにはいかないが、7割ぐらいの合格率があればいいのかなと思っている。

試験保育士の中には、ピアノが苦手だとか、正直にそれを言う保育士がいる。学力的にはきっちり持っている。本院でも何人かは一回で受かっている。しかし、課題として、知識はあっても、経験を積むことがないところである。

一方、養成校での実習体験は、多様な経験や学びが、その振り返り等に大学のフォローアップもあり、現場の実態を理解して卒業後の選択をしているのではないかな。

6) その他、新制度がスタートし保育教諭も生まれるなど、新たな動きも含めて保育士養成のあり方について

保育教諭について : 本院のある地域でこども園についての検討の際、幼稚園教諭と保育士の関係等さまざまな課題があったが、どちらが上、下ということではないと考える。遊びを通して育つことが大事だと思っている。今後、教育的な視点が強く言われる中で、保育士と幼稚園教諭を統合するようになっていかなないと難しいのかなと思っている。

## (5) E氏

1) 現在、保育士資格取得の方法が2つ(養成校・保育士試験)併存について

養成校では、多くの時間を「子ども理解」というカリキュラムに時間をかける。それは、ケアという点で非常に素晴らしい。そして、実習に行く前には長い準備期間があり、終わった後には振り返りの時間がある。これが養成校で保育士資格を取得した人には、非常に大きな力になっている。しかし、保育士試験で取得する人には、子ども理解という視点がほとんどない。実習がないことが決定的である。勤務後、戸惑いながら見よう見まねで何とかできると経験値で関わろうとするが、うまくいかないことも多い。子どもがぐずったり、当然の年齢の要求を力ごなしに関わってしまうようなところに出てきてしまう。

2) 現在の保育士資格について

就学前の子どものケア、学童期、思春期、この3つの対応の仕方は全く異なるので、資格が複雑になることを考えないのであれば、それらの対象者に合わせた資格やカリキュラムが並んでいると良い。

ただ、児童養護施設で採用するにあたっては、資格ごとに一人一人を雇うわけにはいかないので、最低限保育と社会福祉をミックスしたカリキュラムがあると一番ありがたい。

当園では、4年制保育者のほうが多い。その理由は、児童養護施設の高校生と短大卒業生の年齢が近過ぎて指導という点においての説得力がないため、保育士を採用する場合は4年制を対象にしている。保育については積み重ねられた技術と教育の密度が非常に高く理論的にも成熟しているため、2年制でも十分な力は感じられるが、人間的な成長という点では、あと2年あればもう少し子どもとゆとりのある接し方ができるということ、クライアントと年齢が近過ぎる関係になってしまうということから、2年制よりは4年制と考えているところがある。

当園の職員にも、専門性を高めることを求めている。キャリアアップ部門をつくり、一人一人の成長を図るため、研修の履歴を作り、どのような勉強が足りないかなどのアドバイスを受けながら、さらに勉強できるようにしている。

1級、2級というような形で励んでいくということは必要である。

今、子育て支援が非常に重要になってきている。児童養護施設に来る前の予防的視点として、地域福祉、家族を支援するための知識、技術、そして地域にあるさまざまな機関とネットワークをつくり困っている家庭をどう支援して

いくかということが出来るほどの力が、現場に入ってからさらに上の技術として、また、専門性として身につけられるようキャリアアップしていけると良い。

### 3) 保育士の専門性の向上・成長プロセスについて

当園は、職員の成長目的を作成している。

まず3年間は、子どもとの関係性をどう結ぶのかというケアを中心に学ぶ。多くの失敗のなかで、子どもが自分の思うとおりにならないときにどう振る舞うのか、自己覚知をしながら、声かけや行動の仕方などのやりとりを中心に学び、それから子どもとの関係性を構築していくというところを目標にしている。

次の3年間は、グループワークの力をつけることを目標とする。子どもとの関係性がきちんとできた上でないとグループワークは成立しない。居住型のグループワークでは、子どもとの信頼関係のもと小さなグループ（小舎制）をまとめ、レクリエーション型グループワークでは、施設全体の行事などを行う。

それ以後は、全体を見渡す力、いわゆる幹部的な視点で後輩を育てられる力をつけることを目標とする。また、対外的に、地域福祉の視点で地域との関係性をつなげられる力をつけ、最終的には園長や副園長になれるような段階になる。

### 4) 保育士の待遇の改善やキャリアアップについて

保育士の賃金は低すぎる。当園は、良い人材が欲しいので、処遇においてもトップクラスにしたいと考えている。児童養護施設の場合は、宿泊の手当てが入るのでその分保育所保育士よりも給与は高いが、さまざまな改善を試みてもなお、一般企業から見ると低い。また、残業が増えることがあるので、いかにして減らすかが課題となる。残業しなければならぬのはどこに問題があるのかという研究を行い、発表している。

昨年の配置基準改正により、職員にとってプラスになることを取り入れている。処遇面の改善と専門性を高く積み上げることの両輪をあわせ持たないとバランスはとれない。

当園は、処遇面は高く、専門性も高いことを望んでいる。インターン制度を導入し、将来性のある人を雇っている。児童養護施設は、就職してすぐに宿泊の仕事があるなどベテランと同じルーチンを行わなければならない。インターン制を利用することで、子どもとの関係性をつくることができ、施設について理解を深められ、職員との人間関係を築くことができるため、採用後のスタートがスムーズになる。インターン生であっても就職を望まなければ拒否できる権利があり、園側も退いてもらう権限がある。優秀な人材を確保でき、双方にとってスムーズに4月からのスタートが切れ、子どもたちに大きなしわ寄せがこないことから、インターン制度を取り入れるべきだと思う。

研修制度について、当園は Off-JT、On-JT、研究の3本柱を立てている。

Off-JT については、外部研修にそれぞれが参加し、何を学んだか報告を行う。報告のなかに、研修自体も評価し、低評価の研修については次回からは参加しないなど、より意味のある研修を取り入れるようにしている。園内研修では、園内の問題を課題にしたり、安全面、料理、挨拶、マナー教室をしたり、園内独自の事情に応じた研修を行っている。新人、中間層、リーダー層のための OJT を行い、お互いに話し合ったりもする。ホーム長級になるとお互いに研修し合うことを行っている。

また、ワークショップという小研究機関を設け、3年間かけて研究をしている。昨年、成果として紀要を出した。研修で学んだことを現場の視点でどう理論づけるかを研究し、学会にも発表している。そのようなときに、大学院等々で研究の手法を学んでいると良い。ただ、研究の成果よりも、研究の過程の方が非常に大きな力になるので、そこを重視している。

### 5) 現在の2年制養成を基盤とする保育士養成課程の養成のあり方についてのお考えをお聞かせください。

児童養護施設の職員という視点からみると、ケアだけでは足りず、ケースワークができなければならないという問題がある。当園は特に、子どもの親の存在率が9割前後で、子どもと親を抱えた中で支援をしていくということが非常に重要になっている。子どものアドボカシーも親と早く住みたいという希望が非常に強い。すると、ケースワークの Plan・Do・See のなかで、正確な情報を得、その情報を正しく分析していくアセスメントの力、それに基づいた適切な計画、実施計画を立てる力、実施計画を正しく評価する力が今の保育養成の中には足りない。社会福祉士の場合は、ケースワークについては十分に学ぶが、肝心の子ども理解という意味では全く足りないもので、両方合わせたものが必要である。今のカリキュラムは、児童養護施設という視点に限って言えば足りないところがある。

ケア専門の保育士であれば2年制でも良いが、いまの児童養護施設に求められる子どもと親の再統合となると2年制では難しい。4年制や大学院での学びが必要である。また、12日間の施設実習期間では、子どもとの関係が作れないまま終わることが多い。施設の子どもの理解し、施設保育士になるためには短過ぎる。

養成校も社会福祉士と同じように、最後に国家資格の試験を受けるということであれば、保育者の学びがもっと真剣になるかもしれない。そうなる受験対策にはしる養成校も出てくるなどマイナス面も考えられる。社会福祉士のように3割程度しか合格しない試験もあるが、それが現場でどのくらい役に立つのかという疑問もあり、試験が現場で生かされていない部分もある。しかし、保育士は資格を取得していないと働くことができないため、保育士の資格の広さと価値の高さは社会福祉士と断然違う。その点からも親子の問題を解決していく視点の力や学びがあると良い。

#### 6) その他、新たな動きも含めて保育士養成のあり方について

子育て支援が大きなベースになっているので、ケアだけではなく子どもと家族を含めた問題家庭の支援ができると良い。そして、もっともっと地域に存在意義のある保育の視点が必要だろう。養成校でもそれに合わせたカリキュラムがあると良い。

現在、児童養護実践学会を立ち上げ、ケアと福祉の両者の間を持つものとして、児童養護福祉士という資格を出している。4~5日の研修ではケアの部分が弱いので、しっかりと1~2年のカリキュラムのうえで、子ども理解には時間をかけて養成しなければならないと考えている。

#### (6) F氏

##### 1) 現在、保育士視覚取得の方法が2つ並存していることについて

保育士資格と幼稚園教諭と2本立ての場合は今までのことでよいが、入り口は二つあるのはいいと思う。いきなり試験でとって実習もしないのはいいか、実習と試験を絡めて考えていくといいのではないかとは思ふ。

##### 2) 現在の保育士資格について

###### ① 保育士の対象年齢

乳幼児教育として特化していいのかと思う。幼稚園教諭免許と絡めて、保育教諭もあり、保育士も幼稚園も同じ資格であっていいのではないかと思う。幼保一本化ということもある。

###### ② 領域や専門性

勉強だけなら2年でいいが、実習もあると4年くらいかけて、学んでいくと保育所の質もあがるのではないかと思う。保護者対応、地域対応は2年では難しい。

そういう意味では4年制が望ましい。

###### ③ 2年間の次に上乗せの資格にするという考えについて

資格によって、給料が支払われるのはどうなのか、1本でいいと思う。子どもとかかわる世界に上下関係のような環境を作りたくない。階層的な資格となると、キャリアアップのシステムやフリーエージェント的な仕事の環境ができればそれもよいが、そうでないなら階層的な考えは難しい。

経験を生かしたキャリアアップはかなり難しい。仕事のチェックができない。保育園によって保育内容が違うので、それをここまで、とか一律にできない。一年目のスタッフはその園の保育の文化を学ぶことになる。

##### 3) 保育士の専門性の向上・成長プロセスについて

学校で学んだことと、現場とギャップがある。養成校と現場と一緒に考えてかなければならない。そういう意味では現場と養成校がもっと話をしなくてはならない。養成校と保育現場がもっとうまくつながっていかないといけないと、その仕組みを考えていく中に、園内研修だとか1年後、2年後、3年後という、何を学ばなくてはいけないということも一緒に考えていけるシステムが必要である。

法人内であれば、園内研、公開保育などを通して学んでいく。

養成校と試験で資格をとった人との違いはあまり感じない。その人の人間を見る力であったりとか、理解する力だとか、コミュニケーション力だったりとか、そういうところがすごく大きい。

##### 4) 保育士の待遇の改善やキャリアアップについて

保育指針が改正され、指針はよくなったが保育士の仕事が増えた。長時間保育も、保護者対応もあらゆることで

んじがらめになった。お金（待遇）の問題だけで片付けられない。仲間と子どもを語る時間が本当に持てない、保証していかないといけない。子どものことを語り合うことがキャリアアップにもつながるし、スキルアップにもつながる。子どもが育つ環境がそうとう劣悪。保育士の処遇も大事だが、子どもの環境をなんとかしないとイケない。子どもにもっとお金をかけて、子どもが幸せになるように考えていけば、保育士の処遇は絶対上がる。

#### 5) 現在の2年生養成を基盤とする保育士養成過程の養成の在り方について

子どもを取り巻く環境が大事であり、関心を持つことが求められる。社会のしくみがどうなっているか、分かってないとモノも言えない。子どものことだけ考えるのではなく、自分のやっている仕事が社会に対してどんな意味があるのかということまで考えられないとイケなくて、そういうことを考えるには、社会学とか経済学とかもちゃんと学んだほうがいい。

養成校も色々なので国家試験の導入はあってもいいと思う。

#### 6) その他、新たな動きも含めて保育士養成の在り方について

何が専門なのか、子育て上手な人もいる中で、保育士の専門性ってなんなのかを明確にする必要がある。子ども理解で言えば子どもの気持ちを理解するより、自分の言うとおりになってくれた子どもがいい子だというふうに考えられがち、根本そこを何とかしたい。

いろいろな情報を子どもたちが表現する中で、それをいかに受けとめながらその子らしさを発揮させるという専門性は、頭だけよくてもだめというふうに思っていて、その辺の養成校の進め方として、体験してみ、実習してみ、学び直して、実習して学び直すというのがもっとたくさんないと、人間性って磨かれていかないだろう。

また資格の一本化をする。6歳までの子どもの育ちについて、指針と要領がほとんど一緒で、やっていることも同じようなことをしているのに、入り口が違うだけで片や学校教育と言われ、保育ではどうか、1つになった方がいい。

#### (7) G氏

##### 1) 現在、保育士資格取得の方法が2つ（養成校・保育士試験）併存していることについて

保育士に求められているものが幅広くなっている中で、相談援助などの実技部分が評価されていないことが試験制度の課題である。試験保育士の技術分野、実技試験は3つの中から2つ選ぶというのは現場に対応した能力を問われていく中で飲み込めない部分である。

保育士資格は就学前とそれ以降の18歳までに分かれている。問われるのは就学前に力点を置いている形が多いので、保育士資格そのもののあり方も問う必要が有る。就学以上の通所でない福祉施設のようなところでも保育士資格が必要だとすると、2段階の養成が必要かと思う。

##### ① 保育士試験の実習について

現実的なことから言えば、これ以上現場で実習を受け入れるのはむずかしい。実習に変わる何か、例えばケアワーク的なものを実際に体験できるような試験科目などはないだろうか。受験生が模擬的に子どもになったりするグループワークをしながら、適性も含めて判断できるようなものなどである。

##### 2) 現在の保育士資格について

今の保育士登録の段階と、現場に出てからの試験という2つが必要になる。

養成校の資格と試験の次の段階に、もっと専門性を評価されるようなことにもつながる、国家試験を義務付けていく仕組みが必要である。

専門職としての資格にもかかわらず保育の定義がなされていない。法律によって就学前の子どもを“幼児”“児童”と呼ぶなど定義が異なる。小学校以上の児童福祉施設で生活を支える保育の専門性はまた異なるものである。それを確認したり高めるためにもう1つ先の試験が必要になってくる。

就学前の保育を担うものとそうでないところで働いているものを分断すればわかりやすいが、就学前の保育士が圧倒的に多いので、分断して新たな資格を作るのは厳しい。基礎資格として保育士の中に両方位置づけながら、就学前の専門性・社会福祉士等を付与する試験のような二段階のあり方が必要である。

保育現場では、高度な専門性を持った人と、基礎資格を持った人が一緒に働きながら、それぞれの担うものが違うような体制がとれたらいい。

### ① 受験資格について

4年制の養成課程を終えたら受験資格が出る、2年制の基礎資格と、2年ぐらゐの実験を積み重ねたときに受験資格になる。

保育のような仕事は子どもに限りなく年齢が近い方が基本的に子どもに共感するなどという点で合っている。しかしその段階では専門性が磨かれるところまでは難しい。現場に出るための基礎資格（今の保育士）があり、さらに専門性を磨いてキャリアアップする仕組みとしての試験が必要である。

### 3) 保育士の専門性の向上・成長プロセスについて

#### ① 研修について

法的に未整備なところがたくさんある。諸外国には子どもに対する法律、定義が様々ある。

例えば、10代前半で一定時間“ボランティア育児体験”のように、一定時間子どもと触れあう時間を持ち、その上で資格として保育者になりたい人という養成を担うとするなどである。それには養成校だけでは無理がある。

#### ② 保育者の機能そのものが社会的にもっと評価されて良い。

専門職が行う保育、その保育を受けられるということが全ての子に必要だと思う。保育認定を分けるのは良いが、子どもたちの育ちを支える専門職としてその保育を受けられる仕組みが国全体にあればいい。その際保育士にはかなり高いレベルが求められる。

#### ③ 社会的な評価について

「保育」「教育」という言葉で分けられるのではなく、保育という機能の中に養護を基盤とした教育がしっかりある。保育という定義そのものを、法的に専門職が行う保育という定義ができたなら養成などに絡み全て変わる。

#### ④ 成長プロセスについて

基本的に保育者は子ども、保護者などに対する対人援助の仕事をしている。目の前の人に寄り添い、かかわりながらそれを受け止めて、困難や育ちを支える役割がある。人と関わる過程をもっと充実させなければいけないのではないかな。

「知ること」よりも「感じること」を優先することが乳幼児期の保育の基本だと思う。そういう経験をたくさん積むべきである。対人援助の中身を充実させた経験をして、人と人とが折りあっていきながら、生きていく力を持つ子ども達が育っていくというのが全体でとらえられていくべきである。

#### ⑤ 対人援助を高めるためには

筆記試験のようなものでは身につかない。対人ワーク的な体験がたくさん必要である。試験や、養成校での学び直しのリカレント学習のコースにそういうワークがあるといいと思う。

#### ⑥ 研修システムについて

全国保育士会の研修体系も作り直す必要がある。

知識は身につけてはいるものの、そこからストンと理解する、腑に落ちるところは、実体験を伴ってから身につけていく。そのためにも段階的な資格が必要である。

養成する側と受け入れる保育士会側を含めてディスカッションしながら保育者が育っていく研修体系を作ることが手始めにできると考える。

### 4) 保育士の待遇の改善やキャリアアップについて

基礎資格を基盤に、階層制をつくる必要がある。

保育士の待遇改善は、必須であり、早急に取り組まなければならない。キャリアアップと関連づけた待遇にする。

### 5) 現在の2年制養成を基盤とする保育士養成課程の養成のあり方について

#### 6) その他新たな動きも含めて保育士養成のあり方について

制度の変遷があり、保育教諭の議論の中で先延ばしになったが、保育士の対象とする年齢も乳幼児期、就学以降と変わってしまう可能性がある。仮に一本化した際には養成のあり方や資格、免許のあり方が根本的に問われるのではないかな。

#### ① 階層性について

基礎資格と、国家試験という二段構えがあるべきである。

この国の子どもたちには福祉的なことを基盤とした幼児期の教育を提供することが必要だと思う。幼稚園でおこなう保育と法律的には立ち位置が違っていても、保育所と幼稚園に1つの機能として福祉的な機能、養護的な昨日を基盤とする保育を担う資格・免許が将来的にはあってもよいのでは。就学前の子どもたちの保育をすることが可能となる資格が一本化されるべき、その時には受験資格に基づき試験を受けていく仕組みが良いのではないかと。

#### ② 保育教諭というネーミングについて

「保育」が曖昧な定義なため、保育教諭という定義そのものが浅い理解になっている。就学前の子どもにたいする専門職として保育をする人の職種、資格を一本化すべきである。

#### ③ 幼稚園の免許更新制

30時間で一体何ができるのか。子どもと向き合う、あるいは保護者を支えることの学び直しは意味がある。生涯有効だったり、管理職だと更新しなくてもよい仕組みは改善すべきである。教職に就いたときに問われる専門性を講習で修得するものでなければならない。

#### ④ 保育の定義について

11年前の中教審の答申では、幼児教育は幼児が生活する全ての場で行われる教育であり、そこは乳児、家庭も含んでいる。集団で行う、家庭では得られない幼児教育のことを保育と定義しなおすべきである。ケアも入っていることが前提であり、家庭で養育はできている子どもも含めて全ての子どもに保育を受けられる機会を広げていく。

### (8) H氏

#### 1) 現在、保育士資格取得の方法が2つ（養成校・保育士試験）併存していることについて

現状として、養成校における資格取得と保育士試験どちらも必要と思っている。問題は国家試験化すべきこと。その意味で養成校、試験保育士の持つ意味は本来違うのではないかと。

試験保育士は深いところでの勉強、段階を踏んだ実習がない。なんらかの形で実地をする、キャリアアップではなく補足をする仕組みをつけてあげるのが良い。もともとの考え方として現場で働いていて資格を持っていない人が取る為のものであり、前後のフォローが必要である。

#### 2) 現在の保育士資格について

0～18歳を対象とするこのままで良いと思う。

##### ① 領域、専門性による資格について

養成年限については、本来、2年で良しとして、2年の上に領域や専門性により資格を加えていく仕組みと、それらが働きながら取れる仕組みを併存すべきである。その上に大学院で学べることもあれば階層的な資格とするか、否かが考えられる。

② 短大も4年も試験保育士も、給与の面で実際に差異をつけられない。もう少し養成年限で差異がある幅広い形が良い。本来スタートは同じで、4年の人が働く部分の少なかった部分を足す、2年働いた人は何かしらの講習を受けるという仕組みを作れば、キャリアアップシステムの土台になる。試験を受けた人はもう1段階違うところで考える。その上に研修制度を作るべきである。例えば上級保育士を設置して、大きく2つ i 管理職（保育課程、保育の計画の指導） ii 実地指導するという道を作るべき。 i ii のオールマイティーになってもいい。

##### ③ 階層化について

20歳くらいまでに基礎資格をとる。それから10年間くらいで上級が取れるような仕組みを作っていくべきである。その上には園長の資格があつて当然である。児童福祉法に園長、主任の記述はない。保育士、調理員のみが必要で園長の資格の要件はない。乳幼児期の教育の仕組みを知ることは大切である。全部資格を取るまでは思わないが相当のフォローアップは必要である。

#### 3) 保育士の専門性の向上・成長プロセスについて

養成校が大事にしている人間性や子どもに対する人権、真摯な取り組みは非常に重要だと思っている。自法人ではプログラムを決めて行っている。とくに1,2年目を対象の研修を行い、他施設の見学をしたり、要領や自己評価を中心に学ぶ。1,2年がつながり3年目になると相当な戦力になるので時間をかけている。

## 成長プロセスについて

勤務前：5領域や養護をきちんと勉強してきてほしい。現場で子どもたちからいろいろ学んで欲しい。その場の適応力が必要。今の学生は子どもに関わっている絶対量が足りない。それを増やすことが一番である。

1年目：子どもの発達と園における生活のしくみを知る。体調の整え方を考える。園の仕組みに1年間慣れれば2年目ははずいぶん楽になる。

3年目：ある程度の目的意識を持たせる。(自法人では年長を任せるという目標を示すことによって)取り組みや考え方が深まる。書くことと話すことの練習期である。

5年目：自分がやっている保育をある程度説明ができる。自法人に試験保育士は1人しかいないが、成長プロセスは相当違うだろうと思う。教頭、主幹、主任なりがフォローアップのための研修の仕組みを作れる力がないといけない。日々の行事に追われる仕組みにはならないようにしている。

## 4) 保育士の待遇の改善やキャリアアップについて

公定価格、ベースアップを今年1.9%、昨年2.0%とあげる努力をしたが全然足りない。国は待遇とともに、仕事の状況を緩和させる仕組みが必要である。保育士の周辺業務を担当する人が園に一人、二人でもいれば違う。ある程度定員数のところには、何年間か人件費の確保をする、などの仕組みも必要である。

今は保育士不足だが5年後には保育士余りが来る。後から国家試験を導入するなど、いろんな箔をつけて保育士資格を高める。3歳以上の教育が認められている以上、これからは3歳未満の子どもたちの育ちをアピールしていかなければいけない。

## 5) 現在の2年制養成を基盤とする保育士養成過程の養成の在り方について

子ども子育て支援の考え方が主流となっているのはよいのではないか。5領域の相関性、教科間の連携について考えるところまでいっていない。実習などの総合指導で現場と連携してもいいのではないか。

休み期間でないと実習ができない仕組みになっていて、大変だと思う。

国家試験が導入されることは当然だと思う。国家試験の試験資格に4年間の養成ということと、保育士試験が3年を経た人ということは、それをやらずに待遇をあげるには限界がある。

## 6) その他新たな動きも含めて保育士養成のあり方について

① 現在の保育所保育指針、幼稚園教育要領、さらに子ども要領のようなものではなく、一本化した、「子ども要領」といったものをつくって、その解説書をつくったらどうかと思っている。

② 現在は保育教諭養成課程がない、現場では3歳以上児に書かれている要領の全ては3歳未満児にもかかわる、3歳未満児に書かれていることは3歳以上児にもかかわると指導している。保育教諭像のようなものがあり、そこから専門性に分かれていくところを勉強していくのが(本来は)正しいのではないか。

③ 今後は保養協と3団体(日保協、私保連、全保協)で実務者会議を作り話し合わなければいけない。現場(三団体)と保養協のようなところがタイアップしていくことが必要。

④ 保育士の高度化、処遇の問題は今でないとこれからは難しくなる。(2025年頃には老人問題の方に予算が回ってしまうため)保育士の給与を単にあげるか、資格の高度化のために使うか、どこに焦点を当てるのか。3年後にその選択をすることを心づもりしておく必要がある。

## (9) I氏

### 1) 現在、保育士資格取得の方法が2つ併存していることについて

家庭的保育、小規模保育等の保育所の周辺にある保育では、それまで保育とは別の仕事をしてきた方などが保育に関わることも多い。試験で保育士資格を取得した人もたくさんいる。人生のどこかで資格が必要になった時に取れる仕組みがあるのはキャリアを積むためにも必要である。例えば、いったん社会人になった方々にとっては養成校でしか資格が取れない仕組みでは資格取得自体を諦めることになる。そういったことを考えると、試験制度はあったほうが良い。一方、資格がなくても研修を受ければ保育の仕事ができる仕組みを促進することには危惧している。保育士資格が必須にならなければいけない。

### ① 保育士試験の科目が養成校と違うことについて

必ず両者を揃えなければならないかについては判断できない。実習は必要ではあるが、実習を義務付ける仕組みは、その運用を考えれば相当大変だろうと思う。その実習は誰が責任を持って行うかという問題が生じる。資格取得の時より、働き始める前の実習が必要であり、有効なのではないか。採用された保育所等での実習を義務づけることが考えられないだろうか。

## ② 家庭的保育の研修の例

保育士でも基礎研修が義務づけられている。保育所等の集団保育とは異なる特徴を持つ保育について学んだ上で従事することを求めている。保育士として働いた経験があっても、学び直しが大切である。

## 2) 現在の保育士資格について

基礎の保育士資格をベースに置き、その対象は0～18歳までという、現行のままで良いと思う。その上に領域ごとの専門を乗せるのが良いのではないか。

ベースは同じでその上の専門については、大学4年の間に1つしか取得できないかもしれないが、その後も専門領域を増やせる仕組みがよい。社会に出ているいろいろ経験する中で選択し直せる、追加で学ぶことができる仕組みになっていればよい。

### ① 養成年限

基礎資格2年、その上に2年必要であると考え。長く学ぶにこしたことはないが、保護者が経済的に短大なら行かせられる、4年制大学なら難しいということも考えられるので、2年制は残す。

### ② 階層的な資格について

2年と4年学んだそれぞれの専門性を明確にした階層制で、専門性が評価されることが大切である。

### ③ キャリアアップのシステムはあったほうが良い。

現場に出て働きながら学びたい人もいると思う。保育に限らないことかもしれないが、研修受講への評価が社会の仕組みの中に全くない。デンマークなどの家庭的保育者の仕組みでは研修受講により、手当や保育できる人数が変わるなど、目に見えてわかりやすい仕組みがあり、しかも、研修受講のための休暇も取りやすい体制がある。日本でも、学んだことや、専門性を身につけていることへの評価が見える形になればいいと思う。新制度でキャリアパスの仕組みが地域型保育事業にも取り入れられることになり、そのことにより、資格取得や研修受講の目標がより明確になったところはある。

## 3) 保育士の専門性の向上・成長プロセスについて

初めて勤めた保育所はその保育士にとって大きな影響を与えると思う。その保育所以外にも、できるだけ多くの保育現場や保育実践を知る機会を持ってもらうことが必要だと思う。初年度は、勤務した保育所での業務をこなすだけで精一杯かもしれないかもしれないが、1～3年くらいの時期は、保育の実践をどのようにすればよいか、身につく時期でもある。たくさんの保育実践を知ることも必要であり、他の保育所はどうしているのか、知る機会がもっとあればだいぶ違うのではないかと思う。

若い保育者は保護者支援が一番難しく感じている。保護者への対応については、職場内で研修やカンファレンスを行なっていく仕組み作りが大切である。

① 保育士資格以外の資格を持ち家庭的保育を長年実践してきた方や、認定研修(保育士と同等以上の知識と経験を持つと認めるための研修)を修了して家庭的保育者となった人もいるが、長い保育経験があったとしてもやはり保育士資格はあったほうが良い。現場の感覚だけで経験として積み上げたものを理論づけて学ぶことは必要。しかし保育士試験の受験勉強では体系付けて学ぶことが少なく、受験テクニックになっていく。試験保育士だけでなく、資格を持たずに働く補助者にも発達の基本や保育者の基本の段階を学ぶ機会を設けることが必要である。

### ② フォローアップについて

経験、背景や困り感人はによって異なる(環境整備、事務作業、異年齢保育など)。たくさんの研修メニューがあってその人その人に合わせて組み立て足り、選択できる仕組みが必要と思う。全ての保育で共通にやることと、個別の保育形態ごとに同時並行で研修をすることに効果があるのではないか。

## 4) 保育士の待遇の改善やキャリアアップについて

① 処遇改善は絶対に必要である。一度勤めた人が辞めたら二度と戻らないのではないかととても心配している。他



の職場を選んでもなんら変わりはない。保育士として資格を持って働く場合の処遇が低すぎる。加えて、長く働くことが評価される仕組みも必要である。新制度以前は、家庭的保育ではベテランも始めたばかりの人も同じ収入だった。新制度になってから、保育所の保育士と同様に処遇改善の仕組みが入り、また有資格者への加算が盛り込まれた。有資格者であることや、勤続年数が評価される仕組みになったので、やる気につながっている。

## ② キャリアアップについて

子育て等で一旦やめて、戻る時に正職で戻れないことが多い。常勤ということだけが重視されるのではなく、勤続や経験が評価されると良い。ある程度の年齢になると保育所では中心的な仕事はさせてもらえないから、自分を中心になってやりたい保育ができる家庭的保育を始める人がいる。給料等の処遇もちろん大事だが、働く喜びや働き続けられるための評価があれば良い。

## 5) 現在の2年生養成を基盤とする保育士養成課程の養成のあり方について

最低限の基礎知識が身についたということを確認するために、足切りのための試験があったほうがよい。単一の養成校だけで行うのではなく、共通のツールを使って客観的な判定することができる仕組みがあれば良い。その程度の厳しさを保育士という資格に求めたい。

養成校の教員の方も一度は現場に出ている人が多い。一度現場を知ってまた戻ってきてさらに学ぶ、研究をするなど、戻れるところがあることがオープンになっている、そういう人がたくさんいることが大事なことだと思う。一方、4年制や大学院を出ても処遇面で評価されない、雇用されにくいということもあるのではないかと。保育士資格だけで院を出ても勤務しにくい、社会福祉士と保育士を両方持っているとならぬ資格を活かしやすい、ということもある。

## 6) その他新たな動きも含めて保育士養成の在り方について

保育士不足は深刻な問題であるが、保育士資格を持たない人で不足する部分を埋めようという動きには不安を感じる。幼稚園の免許で保育所の4,5歳児の保育ができるという案が制度化されつつあるが、保育所で働きたいと思う幼稚園免許を持っている人、看護師が増えるか。恐らく増えない。待機児童を解消するまでの間を乗り切ろうとしている場当たりの方策が続くわけでもない。限定的にしていかなないと、保育士の存在意義が薄れてしまう。

### ① 若い保育士の就業動向

若い保育者に、小規模な場で働きたいという声を多く聞く。人の中に揉まれることに慣れていないため、大きな保育所等に行きたくないのか。一方、出産、育児等の理由で一旦退職した人にとっては、シフト制で働きやすいということもあり、地域型保育には若い保育者が多い。

② 今激増している小規模保育は待機児童が解消されると、自然淘汰され、良いものだけが残ると思う。家庭的保育は何年前から今の仕組みになっているので激増も激減もしないのではないかと考えている。

## (10) J氏

### 1) 現在、保育資格取得の方法が2つ(養成校・保育士試験)併存していることについて

養成校と保育士試験では、養成している資質に違いがある。保護者は、そのような実態や養成校と保育士試験という2つの道があることについては知らないと思うが、保育の質にとって保育士資格は重要であるという認識を持っている。同じ資格であるので、両者の違いをなくすように制度改革する必要がある。

本質的な力を育てるためには、養成校で理論面から実技面まで、ていねいに指導して養成する必要がある。今すぐ保育士試験をなくすということは、保育士不足の現状からは難しいように思われるが、実習前指導も含め、実習終了ということ合格の要件とするほうがよいのではないかと。

### 2) 現在の保育士資格について

児童福祉施設のことを考えると、18歳までを対象とする必要があるが、幼稚園教諭との整合性を考えると就学前と就学後で資格を分けたほうが良いという考え方もあるかもしれない。

幼稚園教諭も保育士も社会的養護で働く職員も、実際に知っておかなくてはならない基本的な事項に大きな違いはないのではないかと。基本的な事項とは、子どもの権利・子ども最善の利益の理解から、教育・福祉・心理学の理論、心身の発達、保健(障害を含む)、子どもや家庭の現状、子ども関係諸制度の知識などの基本などである。そのうえで、対象年齢や勤務先によって、保育所・幼稚園の保育者には5領域の保育の多様な知識や技術、社会的養護施設の保育

者にはより専門的な援助技術などを学ぶ必要性がでてくるというような分け方もできる。そうすると、養成年限が2年では足りないかもしれない。階層的な資格にする場合、最も低い段階の資格者への待遇を現行保育者以上にしないと、資格の切り下げになってしまう。それでは、保育士不足や保育士の資質の低下を促してしまうので、現場でキャリアアップする制度を設け、待遇の向上に結びつけても良いのではないか。

### 3) 保育士の専門性の向上・成長プロセスについて

勤務前：養成課程で学ぶこと、施設の方針、安全・衛生管理など初日から必要なこと

勤務年数1年目：保育実践、クラス運営の見習い

勤務年数3年目まで：クラスリーダーとなれる素養の蓄積、保護者支援、障害児保育、その他の専門性の学び

勤務年数5年目まで：クラスリーダーとしての実践の積み重ね、専門性をもった保育の研究、後進を指導する、園のマネジメントを主体的に考える

現状では、勤務年数5年目までにじっくり育つ暇がないままに、いろいろなことを背負わされている人が多いのではないか。保育士試験での資格取得は、実習前指導も含めて、実習を終了することで初めて資格証が出たというくらいのもにすべきである。実習の段階で最低限の要件を満たせなかった筆記試験合格者は、不合格になるくらいことは本来必要である。養成校でも、学生の資質や力に格差があると思われるので、卒業後に国家試験を受けるというプロセスもあったほうが良いかもしれない。試験があれば、学生の授業への意欲や取り組みがもっと高められるのではないかという期待もある。ただ、国家試験の難易度については慎重に考える必要がある。知識偏重の高度なものにならないようなもの、保育士としての基本的な理解を確認する、という意味での国家試験になると良いのではないか。

保育士試験による合格者にも「実習」という要件を入れる場合、実習期間は子どもたちに保育者と認められて関係性ができる期間、20日間くらいはあったほうが良い。そして、就業が決まったらそこでまた、その施設のやり方や環境を熟知できるよう研修があると良い。

### 4) 保育士の待遇の改善やキャリアアップについて

保育士の専門性や責任などに現在の待遇が全く見合っていない。保育士としての向上心を待遇である程度動機づけながら全体として質の向上ということを図っていくのであれば、キャリアアップする制度を設けて動機付けしていくことが有効である。子育て支援や障害児保育、ソーシャルワークなどについて、キャリアを認める制度を設け、待遇の向上に結び付けても良いのではないか。また、二種、一種のようにステップアップの階段をつくることには意義があると考えられる。

### 5) 現在の2年制養成を基盤とする保育士養成課程の養成のあり方について

まず現場で役立つことが2年制課程で教えられて、さらに保育者として教育者として、ソーシャルワーカーとしての視点を広げていけるというのが4年制課程で行われ、一番下の待遇が今より落ちないことが保証されれば資格が階層化されても良いのではないか。

### 6) その他、新制度での保育教諭など、新たな動きも含めて保育士養成のあり方について

将来的には資格の体系を組み替えて、保育士・幼稚園教諭の資格を統合することが望ましい。そのときに、現保育所保育士指針の体系を基本とし、子どもの福祉（子ども最善の利益）の理念を入れるとともに、0歳からの養護と教育をしっかりとさえる必要があると思う。

## (11) K氏

### 1) 現在、保育士資格取得の方法が2つ（養成校・保育士試験）併存していることについて

新制度で保育教諭が出てきて、就学前のところを一本化していくのであれば、保育教諭も試験でとれるようにした方がよいのではないか。その場合、(保育士・幼稚園教諭)共通の試験があってもいいのではないか。

0歳から就学前の時期は幼児教育として共通の資格で、将来的には1本化するべきである。保育士試験の受験資格は中学卒でも可能であるが、専門職としてとらえると、その点については再考すべきと考える。

### 2) 現在の保育士資格について

① 基本は児童福祉法に基づくので、0歳から18歳までを対象とする。就学前、就学後の内容が異なるので、保育園、幼稚園、こども園を一つに固めて、保育士資格の中で独立させたほうが良いのではないか。小学校以降、社会的養護

は分けた方がいいが、保育士という名前でいいのかも含めて、検討すべきである。また乳児院、児童養護施設の資格についても同様である。

## ② 領域や専門性

2年間の次に上乗せの資格があるのはどうか。養成年限によって、ぜひ階層的な資格になってほしい。しかし、2年間では厳しい、養成には3年間は必要である。4年間の学びが望ましい。さらに、専門性を高めるために大学院での学びを広げていった方がいい。

幼稚園の一種、二種、専修と同じようにそろえるべきだが専門性の違いによって違うコース、障害児保育、地域保育士、社会的養護の専門性を高めるべきではないか。

また現任の中でステップアップできる仕組み、例えば資格とは違うが研修と自己評価との組み合わせによって確実に給与に反映できるなど、キャリアアップしていける仕組みが必要である。

## 3) 保育士の専門性の向上・成長プロセスについて

試験取得保育士の場合は職場での経験や子育て経験、社会的なスキルがあり、視野も広いし、経験を生かせると思われる。ただ試験の場合は実習がないので2週間位の実習やボランティアに入るというようなことが望ましい。

保育士は就職後、先輩から学び、1年目大事なことを実感できるよう現場での経験を積み、3年目以降リーダー的な役割を担えることが望ましい。1年目に十分な経験をした場合は、3年目になったときに、成長し、違った気づきがある。保育は、チームで行うものであり、同僚性を培うことが必要である。多様な開かれた関係を作る。保育所の就学前の保育そのものが多面的な総合性の中で行われるものであり、根底のところから考えるべきである。

## 4) 保育士の待遇の改善やキャリアアップについて

客観的に同一の基準で保育士の研修体系をつくる。どこの組織で受けても資質が向上するという共通の研修内容で、確実にステップアップできるようにする。また経験年数と研修の受講と、自己評価が連動する仕組みを作り、そこにきちんと昇給が伴うことが必要である。本来は国の責任で保育の専門機関ができ、研修体系が作られ、全国どこにもあって、それに基づいて研修を受講し、それと経験年数と自己評価によって確実にキャリアアップできる仕組みをつくらなくてはいけないと思っている。

## 5) 現在の2年生養成を基盤とする保育士養成過程の養成の在り方について

試験よりも、各養成校で確実に最後のまとめのところを卒業試験としてやるべきかと思う。幼稚園教諭の免許は国家試験がないので、違いをなくし、共通の資格となることを目指すのであれば今の段階で保育士だけの国家試験は無理がある。将来的には、乳幼児保育法(乳幼児教育法)などができるのであれば、それに基づく共通の体系づくりが望まれる。

## 6) その他新たな動きも含めて保育士養成のあり方について

幼稚園教諭も保育士も就学前の子供たちの育ちと学びをどう保証し、伸ばしていくかという視点も持って保育のプロにならないといけない。小学校、中学校の学校教育とは異なるおもしろさ、保育の方法、内容、形態、さまざまなことをもっと模索しながら研究していく。その研究も大学の教員と現場の保育者と一緒に行うべきである。そして、地域の全体の保育施設(幼稚園、保育園、こども園等)の人たちが一緒に学ぶようなつながりが重要である。お互いの現場の情報交換だけでなく、そこから保育の研究につなげて、専門性の向上につながるような新制度になってほしいと願っている。

## (12) L氏

### 1) 現在、保育士資格取得の方法が2つ(養成校・保育士試験)併存していることについて

養成と試験と2つあるのは有資格者が足りない状況では致し方ない。試験制度と養成の違いは、実習がないことに尽きる。試験を受けて現場で働く人の状況は客観的によくわからない。主観的には実習がないから大丈夫かということと言える。データを取る必要がある。

試験科目については、その中身の検討が必要である。特に、保育教諭やこども園について、養成校でも試験でも扱っていない。科目の中でもそもそも保育教諭の定義づけや保育教諭とは何かを抑えていかななくてはいけない。認定こども園が増えてくるが、その養成ができていない。

## 2) 現在の保育士資格について

### ① 0～18歳を対象とする現行のままがよいか、領域や専門性によって資格を変えるか

児童福祉法の資格なので、法令上現行のままでないといけない。どんなにすばらしい研究でこうやったと言われても、法令を変えないと難しい。

### ② 領域や専門性によって資格を変える

細分化して一体どうなるのか。領域は多岐に渡っている。そもそも保育士の職務はどこまでか。保育を中心にやっていたのに、保護者支援など後付けされている。何よりも子どもを普通に保育するというのが保育士の本来の職務である。専門性によって資格を変えるといても、ちょっとイメージが湧かない。保育をしっかりやったらいい。

福祉など専門性を培うとしたら、もともと福祉を目指して入学する人は少ない。また、大量に職員を受けられる現場もなく給与も低い。現行のままのほうが、消極的で申しわけないけれども、このままが一番いいのではないか。

### ③ 養成年限

4年制大学から保育園に行っている率は、圧倒的に2年生の短大とか専門学校に行っている率よりも低い。理想はいいが、需要と供給を考えるべき。

経済的に困難な学生が増えている。そういう学生に夢を持つことを保証する必要がある。だから短大の養成は必要である。

### ④ 階層的な資格とするかどうか

むしろ現場に入ってからキャリアアップ・キャリアパスを考える方が現実的だ。国もそこは考えていない。

## 3) 保育士の専門性の向上・成長プロセスについて

日本保育協会が調査した「キャリアパス」結果では(2014年実施)、園長と保育士に調査して、園長が1年目まで、1年以内にやってほしいこと、それから1年目から3年以内にやってほしいこと、3年から5年にやってほしいことを、園長・主任が思っていた部分とそれから、実際に各業務を任せたとの違が出ています。保育士も自分で自信を持ってできるかどうかという数値が出ています。そこでは園長の理想はともかくとして、理想と現実が違うという結果が出た。

実際に理想として任せたいと思っていたが、それができていない項目というのが幾つか(例えば、乳児クラスの主任、3歳児のクラスの主任、子どもの病気やけがへの対応、行政や地域や関係機関の調整を行うこと、実習生の指導を行うこと、新任保育士の指導を行うこと、保護者からの苦情やクレームの対応に関すること)あった。任せたいと思っていたことと、実際的にできているものに差があることが非常に大きかった。

現場の保育士たちは、1年未満で自信を持ってできることはなかったようだ。1～3年の保育士が、自信をもってできたことは、「子どもの生活」「環境整備」「遊具の安全」「おたより」であった。1年未満ではなかった。全社協の研修の体系もあるが、もっと、こうした現場の声を聴きながら作っていかないといけない。

## 4) 保育士の待遇の改善やキャリアアップについて

財源がないのにできないのではないかな。

(前出の)日保協のキャリアパスに関する調査を参照してもらいたい。この調査では、理想と現実の違いが出ています。研修を受けたい内容と実際に受けた研修の差もちろんあったが、何よりも経験年数にかかわらず、受けたい研修は、子どもの病気とけがへの対応とか、保護者の苦情とかクレームの対応、障害のある子どもの保育、これが50%以上超えていた。今の保育士さんのキャリアアップも含めて、養成課程と出た後の研修の課程に関して、研修システムの図をつくっているが、理想としてつくったもので、実際のこういった声を元に作られていない。現場の人たちから聞いて、求めている研修を的確に充てるのが一番大事なことである。それができなければ、キャリアアップもキャリアパスもない。

## 5) 現在の2年制養成を基盤とする保育士養成課程の養成のあり方について

養成課程のあり方、国家試験の導入について

養成では、新任の1年目が自信を持てるレベルでいい。そのときに、教える教授内容は精査しなくてはならない。理論も必要である。

国家試験については、やってもいい。養成校の力が出る。教育が問われる。養成のあり方については養成校の責任

とプライドが問われ、知識や理論、技術、人間性、人への影響等、全て重要である。どのような人を育てるのかという教育方針が問われる。ポリシーの評価である。「お宅の学生がほしい」と言われるような教育をすべきである。

#### 6) その他新たな動きも含めて保育士養成のあり方について

保育士試験の実技の試験が全部終わってから、例えば2日間か3日間か何か現場で実習するか、もしくは養成校で実習に関する講義を受けるか、そのぐらいのことをしないと、保養協が保育士試験をやっている意味がない。結局現場に行くというのは、養成校が絡んでくるので、養成校とも関係を何かつくれるようなものが保育士試験に課されるといい。そうすると子どもたちにとっても頭でっかちではなく、少しは現場のことを理解した保育者がやってくるということでもっと信頼でき、保護者も安心できる。

### (13) M氏

#### 1) 現在、保育資格取得の方法が2つ（養成校・保育士試験）が併存することについて

幅広い人材を集めるということに意義がある試験であり、条件を厳しくするというにはあまり賛成できない。可能であれば一定の、例えば高卒以上という条件はどうだろうか。放課後児童支援員は、高卒プラス実務経験2年以上という規定を置いた。高卒ということは最低限の担保にしていけないと、専門職として認めてもらいにいく、他の専門職と伍してやっていくためには難しいのではないかと。保育士もそこは検討に値するのではないかと思う。なお、実務経験については、保育実技試験のあり方にもよるが、放課後児童支援員程度には求めてもいいのではないかと感じる。

#### 2) 現在の保育士資格について

保育士資格は、他の資格と比べると、かなり限定的な資格だと思われる。国家試験の免除、児童福祉法による規定など、本来ならば児童福祉以外のところでも活躍できる国家資格だと思うが、児童福祉法の枠内という形になっている。それから、栄養士と管理栄養士などのようにステップアップの資格がない。こうした特徴がある。

しかし、それ以前に、まず国家試験でないとだめだと思われる。待遇にもそれが直結してくる。人材が満たされる、満たされないという問題の前に国家試験化すべきだと思う。

保育士資格が国家資格になるときに、国家試験というものを課さなかった。それから、児童福祉法の中に入れてしまったことが問題点である。私は、「社会福祉士及び介護福祉士並びに保育士法」という法律にすべきと主張していたが、それはできなかった。新たな資格をつくっていくときには、階層的な資格にしたほうがいいと思う。つまり、2年間の共通科目にして、その上に1年以上の修業年限のものを入れる。それは恐らく4つか5つであり、就学前集団保育士、療育保育士や社会的養護関係の養育保育士、さらには子育て支援の保育士。それから、医療保育士も必要だと思われるが、そういうコースに分けて養成していく形でいけばいいのではないかと。

#### 3) 保育士の専門性の向上・成長プロセスについて

保育所、あるいは認定こども園も含めてだが、全国保育士会は研修体系をつくっている。これに合わせて何を学ぶべきかを体系化していけるといい。つまり、既存のものがあるので、その既存のものを政策的にオーソライズするというやり方をとっていけばいいと思う。これが研修の体系化の問題だと思う。

#### 4) 保育士の待遇の改善やキャリアアップについて

キャリアアップの資格については、既に全国保育士会で専門保育士という提案がある。また、全国保育協議会では保育活動専門員が認定されている。こういう保育活動専門員の人たちを厚生労働省のほうでオーソライズして、そして運営費に加算すればいい。

キャリアアップの仕方は大きく2つある。1つは保育活動専門員のような、あるいは専門保育士のような、いわばその道のプロをめざす道である。もう一つは管理栄養士のような、言ってみれば管理保育士というような、主任になったりしていく保育士、主幹教諭になったりする人を育成する。この2つの考え方をキャリアパスに反映させていけばいいと思う。そうするとやる気も出てくると思う。

国は、現行の保育士の最低置かなければならない職員数を減らしていこうとしている。それを小学校の先生でもいい、幼稚園教諭でもいい、子育て支援員でもいいというふうにしていこうとしているわけで、それをする前に、保育士のキャリアアップやキャリアパスを整備しておかないといけないと思う。そうしないと、子育て支援員が主任保育

士になることも制度上可能になる。幅広い学びを深く行った専門職が主任になるような担保はしておかないといけない。

#### 5) 現在の2年制養成を基盤とする保育士養成課程の養成のあり方について

国家試験が免除されているということは、教育内容の改善にインセンティブが働かないということである。学科改組や廃止等に伴って、専門性が異なる既存の教員を保育士養成科目担当者とすることもある。国家試験をやれば、試験に出ないことばかりやっていたら絶対批判されるわけで、合格率も競争になるから、インセンティブがはかられて、教員のあり方が問われるという話になる。しかし実際には、そうはならない仕組みになっている。これでは、養成教育自体がおかしくなってしまう。

保育士試験は難し過ぎると思う。私は国家資格を取るときに、より難しいものをつくる方法と、最低限の品質保証をするためのものがあると思うが、保育士資格は品質保証でいいと思う。つまり、国家が品質保証して、この人たちは一定の知識と技術を持ったプロですよというものを決めるためのものとして、尺度として国家試験があつていいと思う。そのうえでの学びは、現任研修の強化で図るべきものとする。

養成の現場においては、もう少し保育士が中心で授業をやらないとならない。社会福祉士では社会福祉士有資格教員が中心になっている。看護師も。医者ももちろんだが、メインの人、つまりその資格を持っている人が中心になって養成を行う。そのほうがアイデンティティを担保できる。そのためには、保育士が修士に行ったり博士に行ったりして、そして研究者として、教育者としてトレーニングを受けてやっていくということがないとだめである。保育士の養成なのだから、保育士が中心になって育てる。それを側面的に臨床心理士や社会福祉士、ドクターや栄養士らが支えるというやり方にしていけないといけない。

養成課程では保護者支援と社会的養護が非常に手薄である。特に保護者支援で言えば、保育相談支援である。相談援助というのは社会福祉士の専門性なので、保育士の専門性ではない。もちろん、隣の専門職の専門性を学ぶのはいいことだが、保育士の専門性を生かした保護者支援の方法を学ばないといけない。保育相談支援が1単位というのは絶対おかしい。そこも変えていけないといけない。もう一つは、社会的養護分野が非常に弱い。養護原理と養護内容ぐらいしかない。18歳までの子どもたちと関わるスキルについて、特に、社会的養護あるいは虐待を受けた子どもたちとかわるための保育スキルについて学ぶ必要がある。

今の実習時間数は適当なところなのかなという感じはしている。圧倒的に就学前の集団保育をめざす学生が多いので、その部分の実習が中心になるのはやむを得ないと思う。

#### 6) その他、新制度での保育教諭など、新たな動きも含めて保育士養成のあり方について

最近の動向といえば、1つは政策的には何でもありの世界になっているということ。待機児童をゼロにするということはとても大事なことだが、そのために40万人、50万人を受け入れるということになれば、保育士も8万人なり10万人なりを増やすこととなり、養成校においても保育士養成の仕組みをどう考えるかが重要である。

増やさなければいけないということになれば、そのためには保育士養成の仕組みをどう考えるか、そこにどう財源を投入していくのかというものがそのままにアドバルーンが上げられてしまうのが問題である。結局しわ寄せが養成制度や資格に来てしまう。保育所がどんどんできていくと、必要な保育士がどんどんふえていくことになる。その人たちは、未だあまり専門職倫理を学んでいない。『全国保育士会倫理綱領』が知られていない。つまり、専門職としての倫理、何を大切にすべきなのかということ、それから法令順守についてしっかり研修していかないとならないけれども、それができていない。養成教育においても、これまでに本当にやってきているのかどうか疑問である。保育士の専門職団体がなくて、倫理綱領もつけれないのは当然である。だがそう考えるのではなく、従事者団体だけでも、全国保育士会という18万5千人の保育士を抱える従事者団体が倫理綱領を作成した。これをみんながちゃんと学び、教えなければいけない。社会福祉士養成では、社会福祉士の倫理綱領をちゃんと教えている。臨床心理士も臨床心理士の倫理綱領をちゃんと教えている。保育士の場合はそれがなくて、専門職団体がなければ、従事者団体がつくっているこの倫理綱領を、従事者団体のものだけでも、これをちゃんと学ぶというのが大事である。

保育教諭については、教育と福祉の素養を一緒に持っている人という意味では、とても大事な専門職で、養成課程もしっかりと考えないといけない。これから養成課程の中心になっていくとすると、考えなければならない専門職かなと思っているが、まだどうしていいのかわからない。教育と福祉の融合が課題で、専門的には、教育福祉学

が確立されていかなければならない。

#### (14) N氏

##### 1) 現在、保育士資格取得の方法が2つ（養成校・保育士試験）が併存することについて

厚生労働省が出している他の国家資格と比較してみると、卒業と同時に卒業試験のような国家試験があるべきではないか。資格の高度化を図ることが、名称独占だけでなく業務独占にもつながっていく。専門性の高い保育士の仕事をより社会にも分かるように、制度化していくことが理想である。

保育士試験で合格された方には実習経験がない場合が多い。国家試験化するとしたら、養成校出身者の国家試験に加えて実践を問い、現場に行った日数の申告やボランティアの経験を報告するなど、可視化することも必要である。

現状では、保育士不足や保育士の勤続勤務年数が短いという実態があるので、すぐに制度は変えられないかもしれない。しかし待遇改善を図るためにも、専門職としてどんな知識と技術を養成校で取得し、それが本当に取得できているかをチェックする国家試験の導入等、制度を早急に整備する必要がある。

国家試験に必要なのは知識と技術の両方を問うことで、2つのハードルが要る。それには養成校で学び、かつ国家試験を課するのが理想であるが、日本の制度は緩い。日本の養成における保育実習は大変短く、就職してから現場で徒弟的に、あるいは研修で学ぶことが多い。ヨーロッパに比べても就職してからの研修の機会が多い。しかし、研修が個人の記録として残されておらず、職階の向上や待遇の向上と関連づけられていない。

##### 2) 現在の保育士資格について

福祉の総合専門職で児童を対象にする0歳から18歳までの福祉の総合職基礎資格というのがあるのはケアの観点や、児童の権利保証、福祉のことをしっかり学べていて悪いことではないと思う。しかし、児童福祉専門職の保育士と社会福祉士との子育て支援については、すみ分けをしたほうが良いということもある。

0歳から18歳までの児童の福祉専門職はケア・ギバーで、就学前の子どもの保育に関しては、発達という観点から、より専門に特化している。それは発達の変化が著しく、5領域という教育の要素があるからである。

保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領で保育士、幼稚園教諭、保育教諭と定義上は違っても、保育者は（乳）幼児を対象とした次世代育成を担う教育専門職であり、発達の観点、発達に応じた乳幼児の教育の「ねらい」や「内容」があるということを考えると、小学校以降の次世代育成の専門職と整合性がとれないため、保育所保育士に関しては18歳までを対象とする保育士と差異化し、専門特化すべきと考える。保育所保育士の資格は幼稚園教諭にあわせて一種、二種、専修にすべきである。

また、保育内容に責任を持つ保育士等の“等”は取って、保育所保育士でいいのではないか。幼稚園教育要領では幼稚園教諭「等」とはなっていない。一元化を図っているイギリスやシンガポール、スウェーデンは、0歳から教師とされている。愛着形成、2歳前後の語彙の習得や、非認知的能力の獲得、その後の人生に与える影響を考えると、教育の観点は0歳児から必要であると考えられる。

専門職として5領域や保育の内容を知るためには、2年の養成期間は短いと思うが、現場に出てからの研修を単位化し、個々人の記録を残し可視化して認定資格とすることで業務内容と勉強してきた研修や認定資格、待遇がセットになって保育士資格を階層化していくことができるのではないか。ワーク・ライフ・バランスがあっても良いし、いろいろな働き方があっても良い。ただ、勉強し、能力もつけた保育士とそうでない人との差異化を図られていないシステムが問題である。子どもにとってはいい貢献をしていますが、そこに社会的地位と待遇、責任があるのにそれが見えない状態をどうにかすべきだと思う。

待遇の改善や、資格の階層化は、必ずしも4年生大学や大学院へ行かなくとも、それ相当の研修を受けていたら大学院卒の専修資格相当とみなす、ということを保育士養成協議会のような組織が認定していけばいいのではないか。

##### 3) 保育士の専門性の向上・成長プロセスについて

1年目は現場を知、基本的なことを知る、倫理的なことを知る。3年目までは、一人で担任が持てるような力をつけていく。5年、8年、10年になると、自分の得意分野の開発やマネジメントの要素が入ってくる。経験年数と研修の蓄積と、任される仕事の階層化が必要である。保育教諭養成課程研究会の幼稚園教諭・保育教諭のための研修ガイドとも整合性をとっていけば良いのではないか。

現場の体験をいかにつけていくかについては、記録と計画を立てる時間、環境設営の時間、教材研究の時間をしっかり入れ込むべきで、最初の年からその時間を保証して勉強できるようにする。

現在の保育士は、7、8時間勤務で勤務時間の大半を子どもと関わっているが、記録、環境設営、教材研究の時間を保証すべきである。メンタルヘルスの観点からも、ノンコンタクトタイムを保証しなくてはならない。

採用当初は主任等とペアであったり複数担任制のクラスに入ったりするなど、フォローを明確にしたほうが良い。例えば、オーストラリアは、初任にチューター制を導入している。その内容は公立幼稚園がやってきた初任研修と同じようなものである。

#### 4) 保育士の待遇の改善やキャリアアップについて

対象とする子どもの年齢によって次世代育成の専門職の待遇がこんなに違っていいのか疑問を感じる。脳科学のいろいろな研究で、乳幼児期が大事ということが分かってきている。乳幼児期の教育の鍵を握るのはやはり人である。もちろん環境も大事だが、人と人の環境、人的環境は最も大事であるのに、待遇があまりにも悪い。命を預かる仕事に対する社会評価は本来高くあるべきである。幼い子どもの命を守る仕事であるのに、こんなに安く扱われている。もっとセンシティブにならなければならない。

そのために、何の研修をどれだけ受けて力量を向上してきたかを可視化することが必要である。人と接する専門職は実践知が大事であるので、勤続年数だけではなく実践知の蓄積状況でその質を測っていく必要がある。

#### 5) 現在の2年制養成を基盤とする保育士養成課程の養成のありかたについて

保育士の仕事は責任も重く、保護者対応、その他難しい問題も多いので、基礎資格は2年で出せたとしても責任を持ち、担任をもつことは難しいと考える。2年制卒業の場合、卒業後、研修と経験を積み、更に2年、合わせて4年程の時間があっても良いのではないか。そこを分ける意味でも、二種、一種、専修と資格を階層化したら良いと思う。二種に関しては、担任をすぐに持つのではなく、その育ちをサポートするような新任研修の制度と改正が必要である。いずれにしても国家試験は導入して欲しい。

### (15) O氏

#### 1) 現在、保育資格取得の方法が2つ（養成校・保育士試験）併存していることについて

単位認定を受けてその課程を出ていく学生と、保育士資格試験を受けるのとはギャップがあり過ぎるという気がする。本学の学生の場合、教養部卒資格の見込みで保育士試験を受けるので、2年生、3年生、4年生の3年間のチャンスがある。大体3分の1くらいは1回で通る。落としても2回か3回で大体取ってしまう。ただ、現場的に考えると、保育士資格試験による資格取得の場合と養成校を出ての資格取得の場合では、恐らく全然違う力量だと思われる。

保育士試験の2回方式については、1年に1回しか受けられないという、それなりの権威みたいなものもあるが、2回受けられるということは、一定の能力のある人はどんどん取れてしまう可能性がある。実際保育士が足りないわけだから、そういう人はどんどん必要だという現実と、それをすればするほど価値が下がってってしまうというものすごい矛盾の中に現制度がある。

#### 2) 現在の保育士資格について

基本的には2年間の養成でいいと思う。看護師の場合、専門看護師や認定看護師がある。専門看護師は大学院資格である。保育士においても、最終的には階層的な資格になってもいいと思う。例えば、2年くらいで保育士資格を出せるが、幼児に特化した保育の保育士と、医療に特化した医療保育士のような資格があってもいいだろう。領域や専門性によって、保育士資格そのものは変えられないかもしれないが、付加することはできるのではないか。

3年制とか4年制の課程がふえてきているということは、もう少し専門性を深めなくてはならないということではないか。その深めるところで各養成校が特徴づけて与えることができるのではないか。その認定は保養協のようなところでやってもらうのが一番いいと思う。臨床心理士や看護師のように、認定機関を想定すればいいのではないか。

待遇の問題については、医者は日本医師会を、看護師は日本看護協会という団体をつくって、毎年議員を出している。心理の場合は臨床心理士会というのをつくって主体的に待遇の改善に努めている。保育士も全国区組織をとおして、待遇改善とともにさらに専門家としてのアイデンティティを高め合うような機会を持つことがますます重要になる。



### 3) 保育士の専門性の向上・成長プロセスについて

成長プロセスの回答項目が5年でおしまいなのかと思った。教員であれば10年、20年も見る。「ああ、保育士って5年しかもたないと思われているのかな」と思いながら。平均的にそのくらいなのかもしれないが、本当はもっと働いて、きちんと根づいてほしい。その成長の過程を想定しておかないといけない。一方で、保育士は本当に大変だと思う。研修の時間がとれない。園内研もなかなかできない。そこを制度的にどういうふうに研修を保障するかというのは、法律的にきちんと決めなければいけない。制度的に保障しないと勉強にならない。

1年、3年、5年と、このスパンで考えると、勤務する前までにはきちんと知識を得ることが必要である。1年目は、現場になれるということ、コミュニケーション能力とか、ほかの職員とうまくやっていけるというチームワークみたいなもの、それをきちんと伝える力、あるいは受けとる力が必要。3年目ぐらいになったら、少し自分で保育を構成するとか、つくれるようになってほしい。何でもいいから工夫して、何か自分のほうから出せるようになってくれるといいのかなと思う。加えて、自分の園だけではなく、小学校や場合によっては児童相談所など、外部機関との連携にも目を向けられるようになってほしい。5年くらいになったら後輩を育てるなどの、ある種のリーダーシップみたいなものが必要になってくると思う。新陳代謝が激しい現場だと、5年くらいでもそういう役割が回ってくるのが予見されるが、本当にそれは大変なことである。

### 4) 保育士の待遇の改善やキャリアアップについてのお考えをお聞かせください。

とにかく給与を上げてほしい。政府が給与補填をしてもいいくらいの話だと思っている。

キャリアアップということについて言えば、基礎資格に対する専門資格みたいなものを考えるとすれば、上位資格を取ることをサポートしなくてはならない。取った場合には、それなりの給与加算みたいなものが必要である。しかし現実的には、例えば教育学部だってそうになっていない。教職大学院出て教職の修士号もらったからといって、給料上がったという話はあまり聞かない。学歴に見合うだけの何かをしるという話でもないが、実力がついたら、それに見合うだけの何かをすべきではないか。

### 5) 現在の2年制養成を基盤とする保育士養成課程の養成のあり方について

医師の国家試験もそうだし、看護師資格もそうだし、要するに養成校を出るということは、受験資格をもらえるということである。恐らく遠い将来は保育士もそうなるのだろうという気がする。そうならないと、資格として認められないのではないかな。先の話になるだろうが、養成課程を出てから国家試験というのが理想的だと思う。国家試験は難しいか易しいかは問わないが、制度的にそこに至るまでは遠いだろうと考える。今、現実こんなに保育士が足りない。足りないと言っているのに、そんなことしたら誰もなりたくないだろう。

養成校を出て、実習もして、その人たちの現場での力量と、実習はしなくて試験の成績がよかったですとか、試験だけ通りましたという人の現場での力量がもし変わらなければ、試験保育士でいいではないかということになってしまう。あるいは、変わらなければ、養成校でさらに与えられる付加価値って何かというのを考えなくてはならないかな。

養成校にいる身としては、そこで違うものがきちんと与えられているということを望みたい。難しいことであるが、何か努力はしなくてはならない。

### 6) その他、新制度での保育教諭など、新たな動きも含めて保育士養成のあり方について

もっと資格としての価値を上げなくてはならないというのが一方にあり、上げ過ぎると取る人がいなくなるかもしれないという現実もある。現状を考えると、ある程度緩くしなくてはならないのかもしれないが、この現実そのまま引張られると、ますます資格が安っぽくなってしまって、保育士資格なんか風みみたいなものになって、ふうっと飛んで行くようなものになってしまう。それは一番よくない。一遍ちょっと風雪に耐えてでも、看護師資格がそれなりにみんなから評価されるようになったのと同じようにしていく必要があるかもしれない。

恐らく2年間でやれることは、短大でも専門学校でもほとんどやっている。それが4年になったときに、そのとんがった部分を何にしていくかが問われる。本学の場合、恐らく最初の1年は教養の部分で、最後の1年は卒論などに時間をかけているのだから、実質は2年間ぐらいの養成課程と同じである。でも、ここ（1年次と4年次）に何か意味がないかというところというわけでもない。そこら辺って一体何だろうかというのをきちんと出していかないと、科目だけの話ではない何かがあるはずだ。それこそアクティブ・ラーニングではないけれど、自分で問題を見つけて、

自分で追求して、自分で解決していくような力をきちんと入学後 1 年目から養っておけば、現場に出て何が問題かを見つけて、そのためにどうすればいいかということ仲間と一緒に取り組んでいこうとする力を育むことができる。ただ、こうした力が活用できるかどうか、それは現場次第という面もある。でも、保育全体を変えていったり、今よりもよくしようと思ったら、絶対こうした力は必要だと思う。

## 第2章 保育士試験の実施方式及び内容に関する検証（I-2）資料

資料5 カードの空間配置・構造図

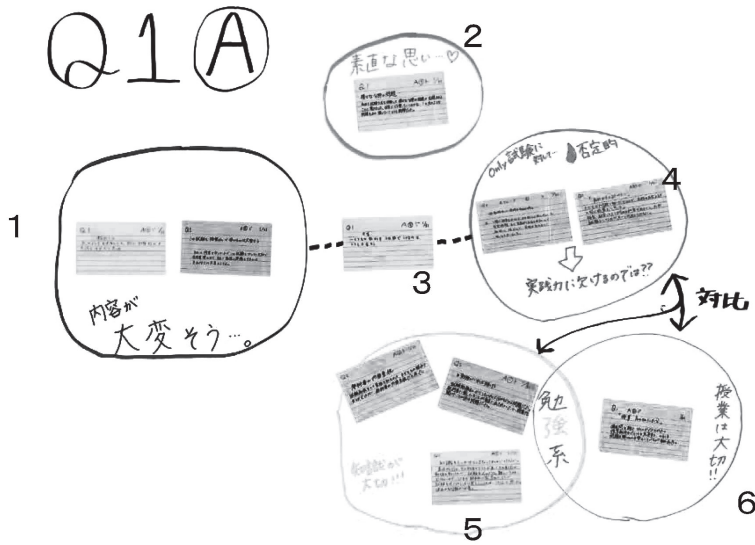
資料6 事後アンケート分析ワークシート



資料5 カードの空間配置・構造図

第1回 (2016年1月31日)

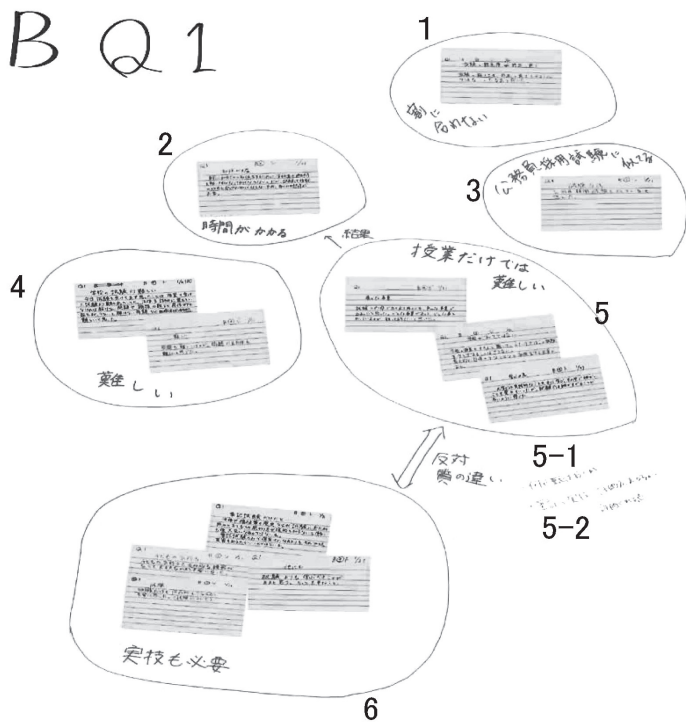
Q1	A	1	内容が大変そう...
Q1	A	2	素直な思い...♡
Q1	A	3	
Q1	A	4	only試験に対して...否定的
Q1	A	4	実践力に欠けるのでは？
Q1	A	5	知識が大切!!!
Q1	A	6	授業は大切!!



資料5 カードの空間配置・構造図

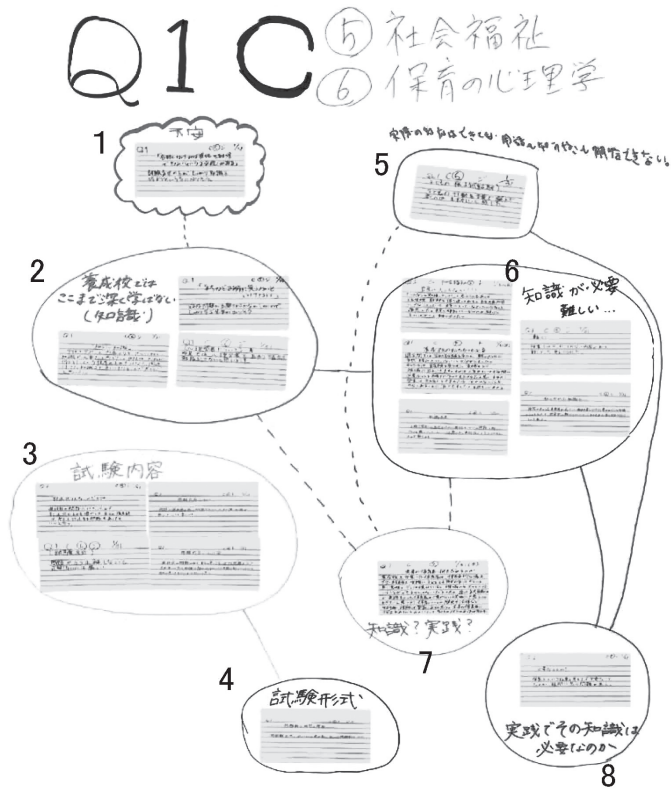
第1回 (2016年1月31日)

Q1	B	1	割に合わない
Q1	B	2	時間がかかる
Q1	B	3	公務員採用試験に似てる
Q1	B	4	難しい
Q1	B	5	授業だけでは難しい
Q1	B	6	実技も必要



資料5 カードの空間配置・構造図

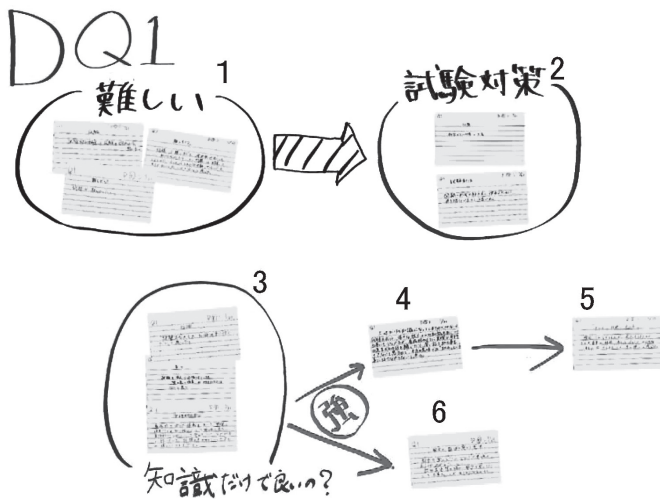
第1回 (2016年1月31日)



Q1	C	1	不安
Q1	C	2	養成校ではここまで深く学ばない(知識)
Q1	C	3	試験内容
Q1	C	4	試験形式
Q1	C	5	実際の対応はできて、用語を知らないと解答できない。
Q1	C	6	知識が必要 難しい...
Q1	C	7	知識? 実践?
Q1	C	8	実践でその知識は必要なのか

資料5 カードの空間配置・構造図

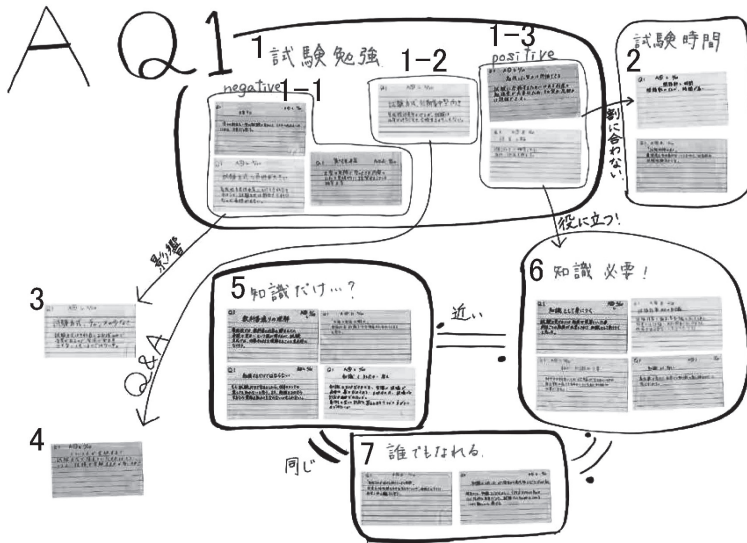
第1回 (2016年1月31日)



Q1	D	1	難しい
Q1	D	2	試験対策
Q1	D	3	知識だけで良いの?
Q1	D	4	
Q1	D	5	
Q1	D	6	

資料5 カードの空間配置・構造図

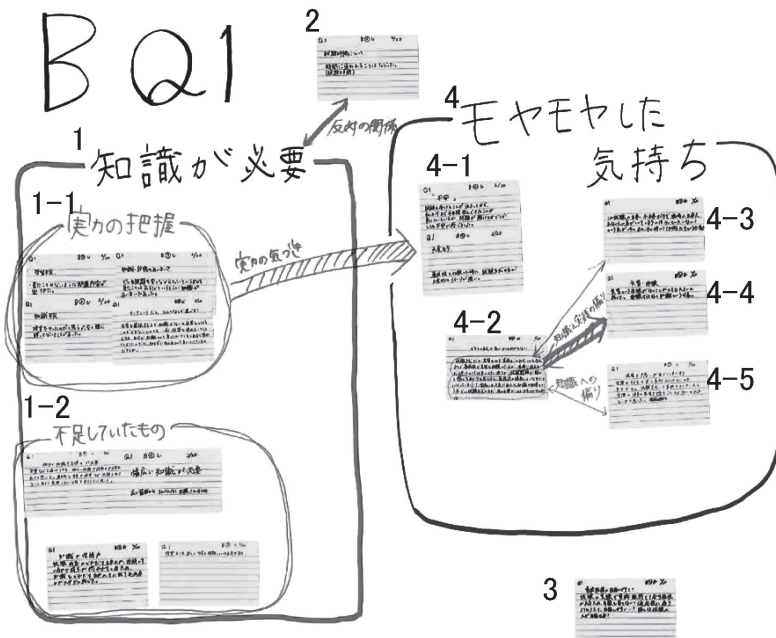
第2回 (2016年2月21日)



Q1	A	1	試験勉強
Q1	A	1-1	negative
Q1	A	1-2	
Q1	A	1-3	positive
Q1	A	2	試験時間
Q1	A	3	
Q1	A	4	
Q1	A	5	知識だけ...?
Q1	A	6	知識必要!
Q1	A	7	誰でもなれる

資料5 カードの空間配置・構造図

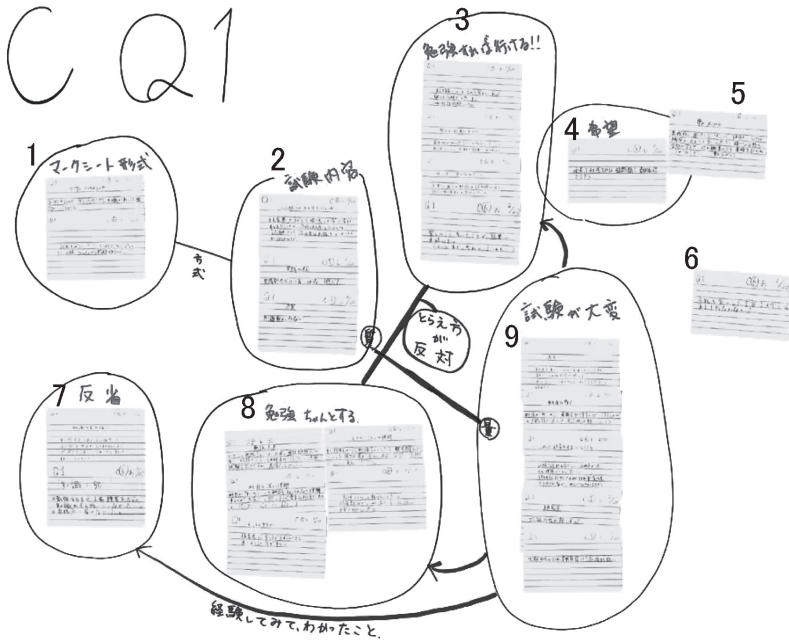
第2回 (2016年2月21日)



Q1	B	1	知識が必要
Q1	B	1-1	実力の把握
Q1	B	1-2	不足していたもの
Q1	B	2	
Q1	B	3	
Q1	B	4	モヤモヤした気持ち
Q1	B	4-1	
Q1	B	4-2	
Q1	B	4-3	
Q1	B	4-4	
Q1	B	4-5	

資料5 カードの空間配置・構造図

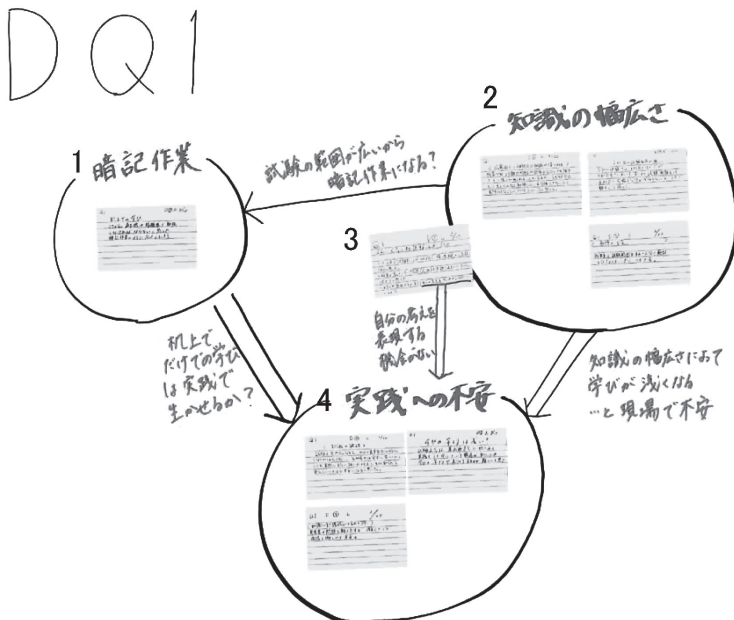
第2回 (2016年2月21日)



Q1	C	1	マークシート形式
Q1	C	2	試験内容
Q1	C	3	勉強すれば行ける!!
Q1	C	4	希望
Q1	C	5	
Q1	C	6	
Q1	C	7	反省
Q1	C	8	勉強ちゃんとする
Q1	C	9	試験が大変

資料5 カードの空間配置・構造図

第2回 (2016年2月21日)

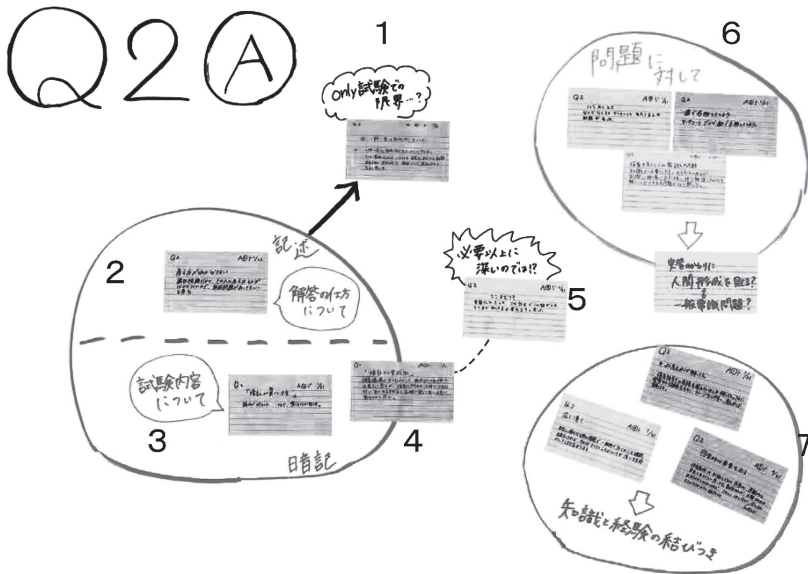


Q1	D	1	暗記作業
Q1	D	2	知識の幅広さ
Q1	D	3	
Q1	D	4	実践への不安



資料5 カードの空間配置・構造図

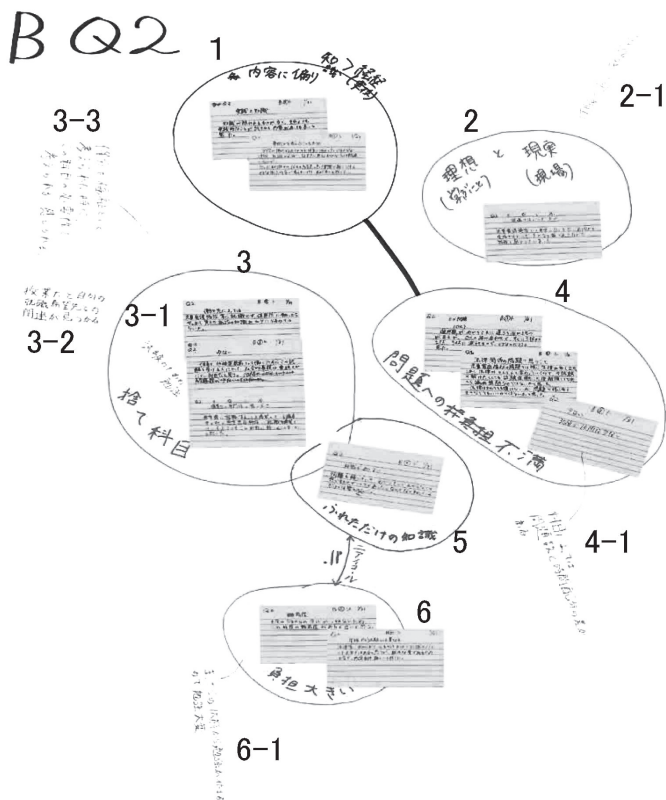
第1回 (2016年1月31日)



Q2	A	1	only試験での限界...?
Q2	A	2	記述 解答の仕方について
Q2	A	3	試験内容について 暗記
Q2	A	4	
Q2	A	5	必要以上に深いのでは!?
Q2	A	6	問題に対して
Q2	A	7	知識と経験の結びつき

資料5 カードの空間配置・構造図

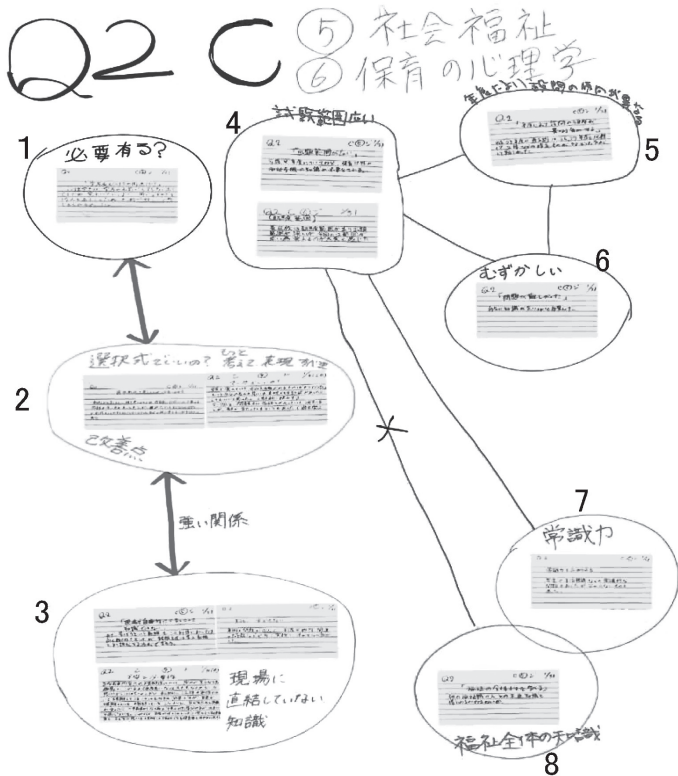
第1回 (2016年1月31日)



Q2	B	1	内容に偏り 知識 > 経験(実技)
Q2	B	2	理想(学ぶこと)と現実(現場)
Q2	B	3	捨て科目
Q2	B	4	問題への不満
Q2	B	5	ふれただけの知識
Q2	B	6	負担大きい

資料5 カードの空間配置・構造図

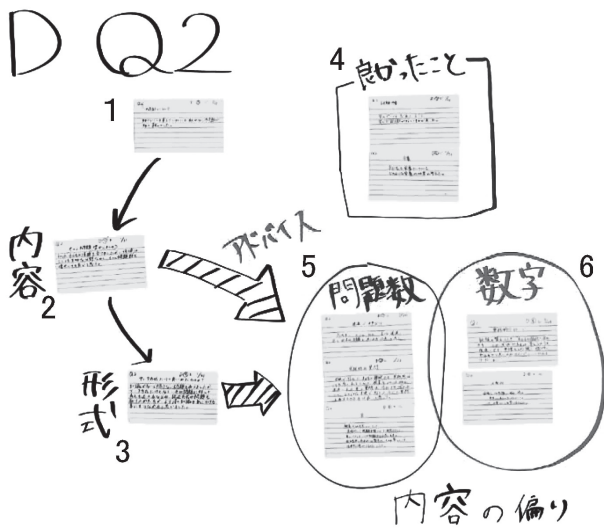
第1回 (2016年1月31日)



Q2	C	1	必要有る?
Q2	C	2	選択式でいいの? もっと考えて表現すべき改善点
Q2	C	3	現場に直結していない知識
Q2	C	4	試験範囲広い
Q2	C	5	年度により設問の傾向が異なる
Q2	C	6	むずかしい
Q2	C	7	常識力
Q2	C	8	福祉全体の知識

資料5 カードの空間配置・構造図

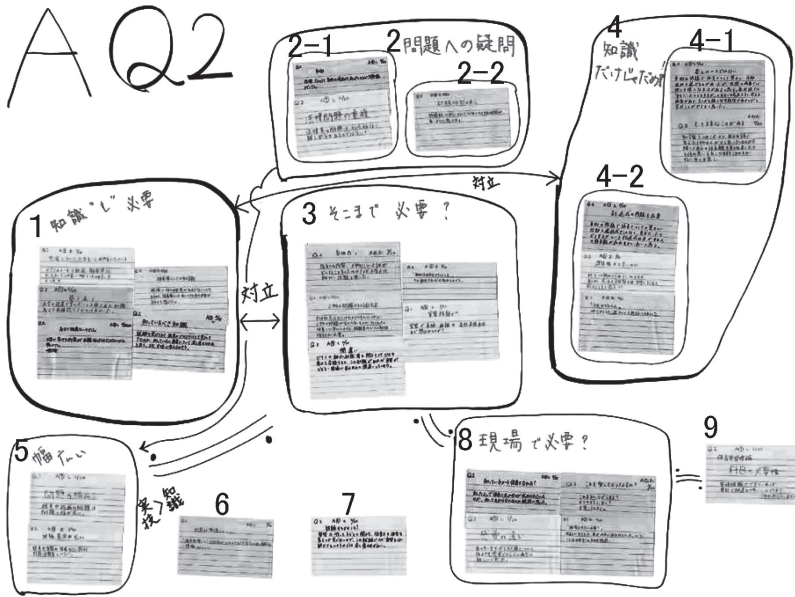
第1回 (2016年1月31日)



Q2	D	1	
Q2	D	2	内容
Q2	D	3	形式
Q2	D	4	良かったこと
Q2	D	5	問題数
Q2	D	6	数字

資料5 カードの空間配置・構造図

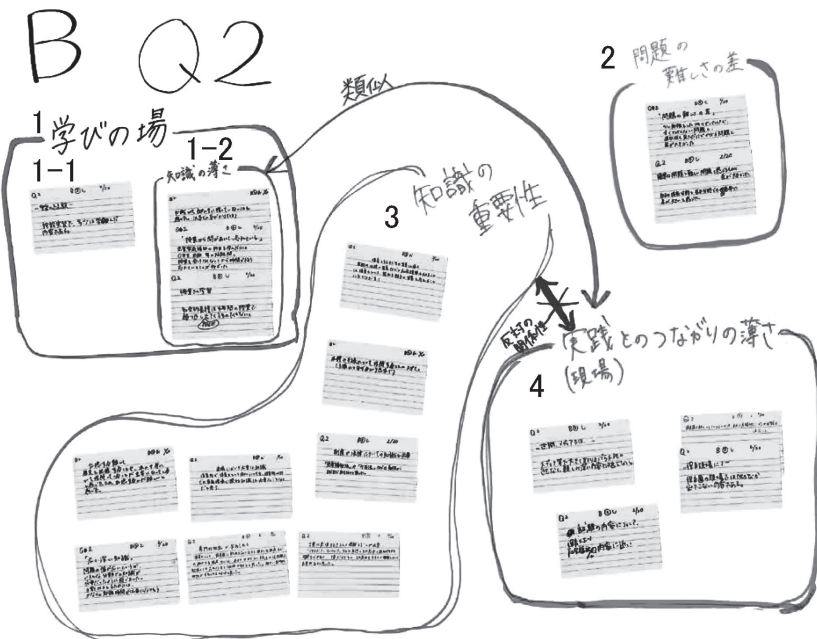
第2回 (2016年2月21日)



Q2	A	1	知識"も"必要
Q2	A	2	問題への疑問
Q2	A	2-1	
Q2	A	2-2	
Q2	A	3	そこまで必要?
Q2	A	4	知識だけじゃだめ!
Q2	A	4-1	
Q2	A	4-2	
Q2	A	5	幅広い
Q2	A	6	
Q2	A	7	
Q2	A	8	現場で必要?
Q2	A	9	

資料5 カードの空間配置・構造図

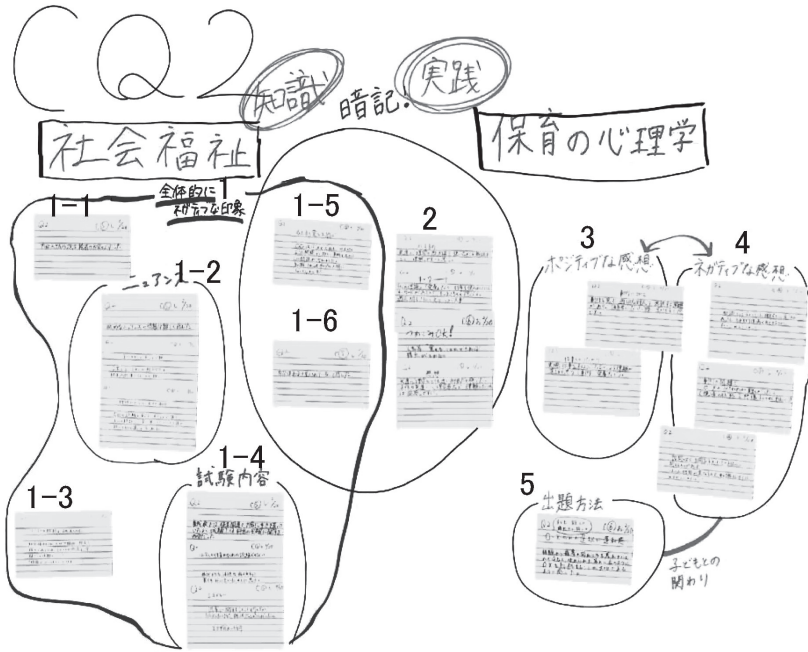
第2回 (2016年2月21日)



Q2	B	1	学びの場
Q2	B	1-1	
Q2	B	1-2	知識の薄さ
Q2	B	2	問題の難しさの差
Q2	B	3	知識の重要性
Q2	B	4	実践(現場)とのつながりの薄さ

資料5 カードの空間配置・構造図

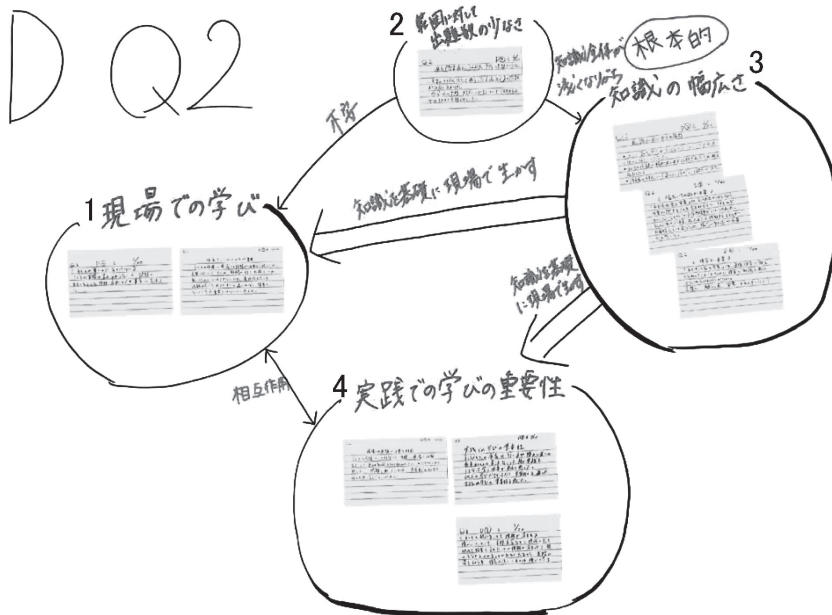
第2回 (2016年2月21日)



Q2	C	1	全体的にネガティブな印象
Q2	C	1-1	
Q2	C	1-2	ニュアンス
Q2	C	1-3	
Q2	C	1-4	試験内容
Q2	C	1-5	
Q2	C	1-6	
Q2	C	2	
Q2	C	3	ポジティブな感想
Q2	C	4	ネガティブな感想
Q2	C	5	出題方法

資料5 カードの空間配置・構造図

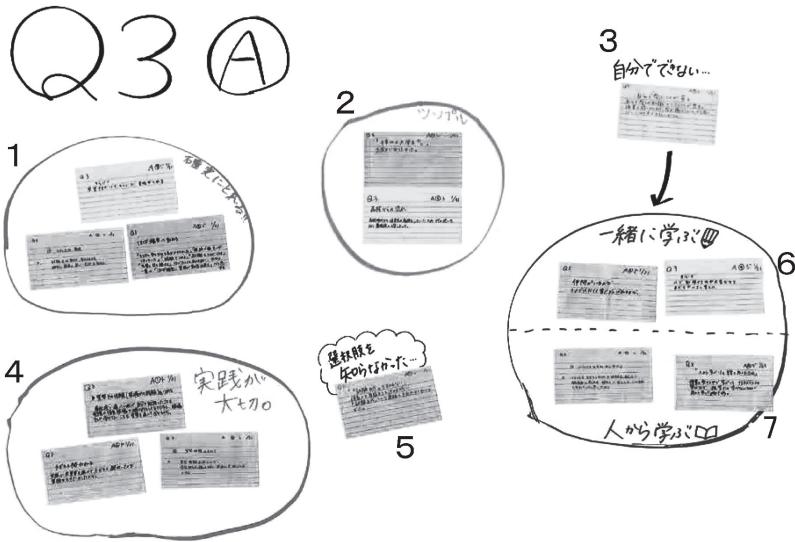
第2回 (2016年2月21日)



Q2	D	1	現場での学び
Q2	D	2	範囲に対して出題数の少なさ
Q2	D	3	知識の幅広さ
Q2	D	4	実践での学びの重要性

資料5 カードの空間配置・構造図

第1回 (2016年1月31日)

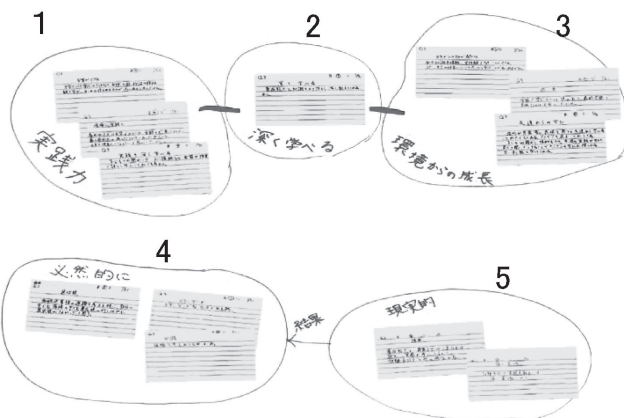


Q3	A	1	確実にとれる!!
Q3	A	2	シンプル
Q3	A	3	自分でできない...
Q3	A	4	実践が大切。
Q3	A	5	選択肢を知らなかった...
Q3	A	6	一緒に学ぶ
Q3	A	7	人から学ぶ

資料5 カードの空間配置・構造図

第1回 (2016年1月31日)

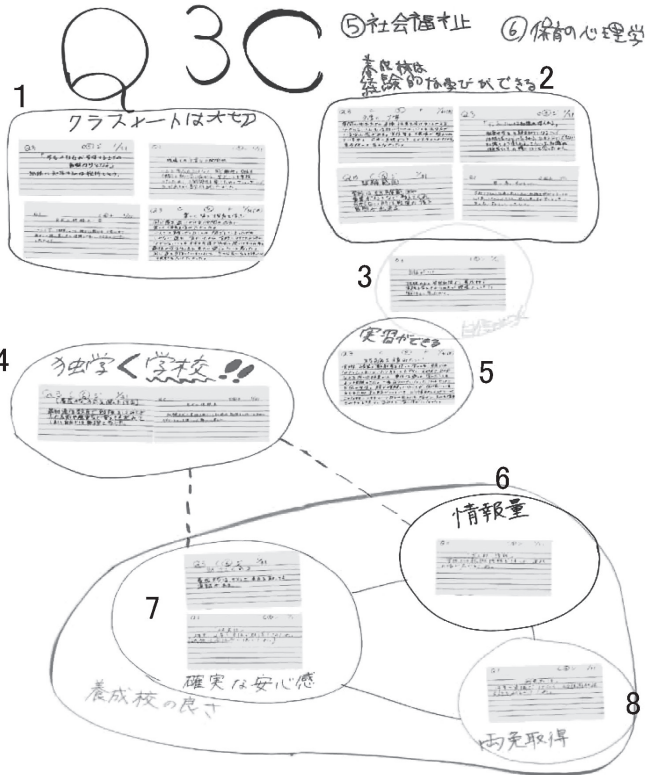
B Q3



Q3	B	1	実践力
Q3	B	2	深く学べる
Q3	B	3	環境からの成長
Q3	B	4	必然的に
Q3	B	5	現実的

資料5 カードの空間配置・構造図

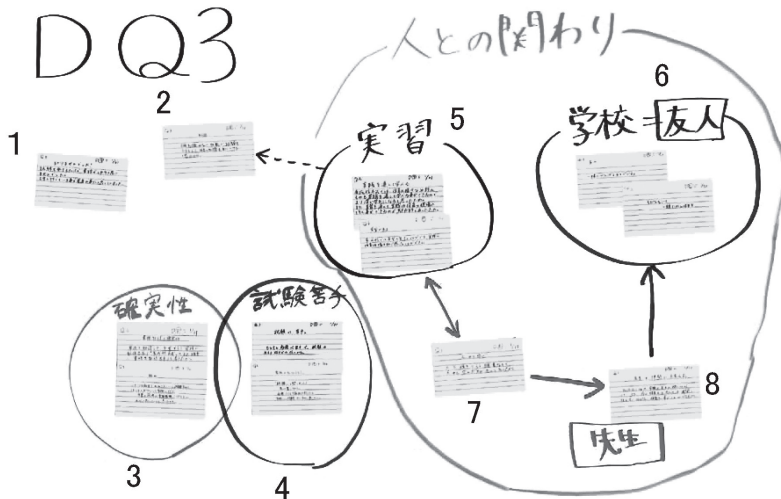
第1回 (2016年1月31日)



Q3	C	1	クラスメートは大切
Q3	C	2	養成校は経験的な学びができる
Q3	C	3	自信がつく
Q3	C	4	独学 < 学校!!
Q3	C	5	実習ができる
Q3	C	6	情報量
Q3	C	7	確実な安心感
Q3	C	8	両免取得

資料5 カードの空間配置・構造図

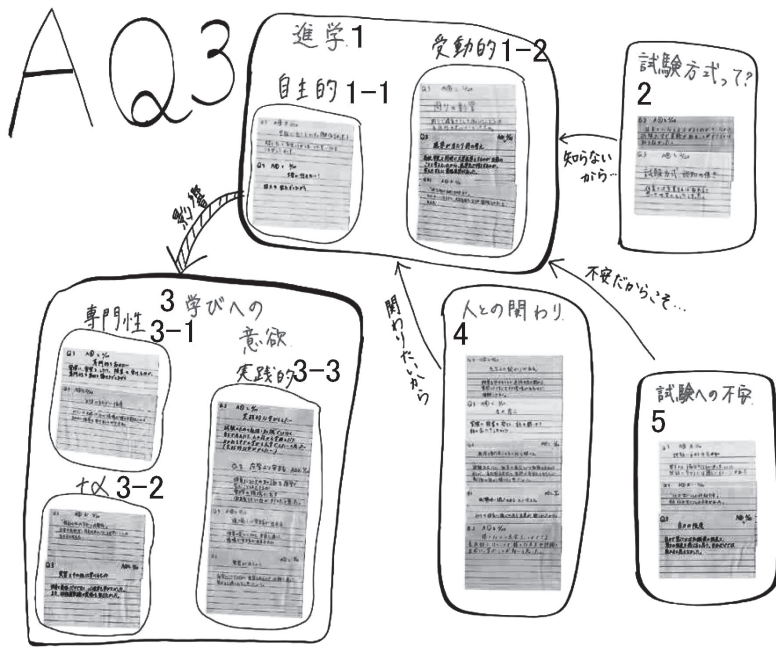
第1回 (2016年1月31日)



Q3	D	1	
Q3	D	2	
Q3	D	3	確実性
Q3	D	4	試験苦手
Q3	D	5	実習
Q3	D	6	学校=友人
Q3	D	7	
Q3	D	8	先生

資料5 カードの空間配置・構造図

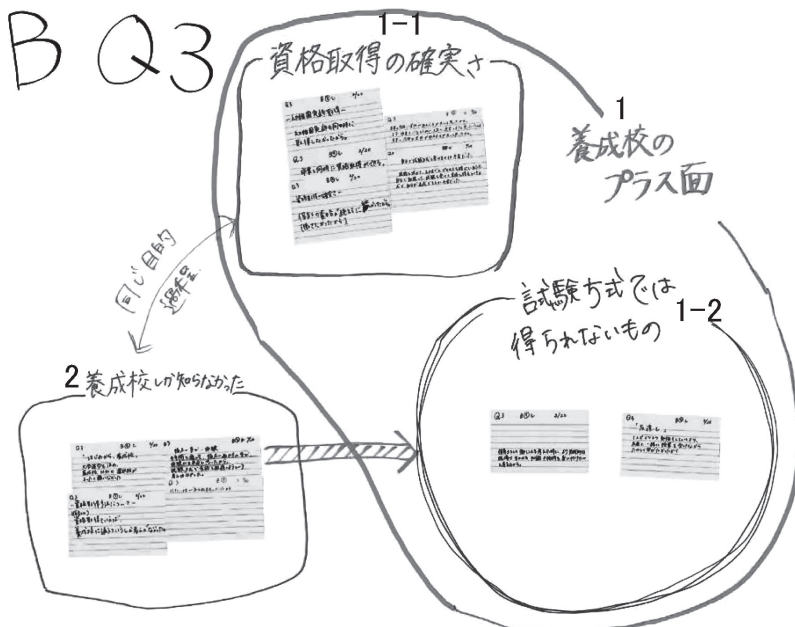
第2回 (2016年2月21日)



Q3	A	1	進学
Q3	A	1-1	自主的
Q3	A	1-2	受動的
Q3	A	2	試験方式って?
Q3	A	3	学びへの意欲
Q3	A	3-1	専門性
Q3	A	3-2	α
Q3	A	3-3	実践的
Q3	A	4	人との関わり
Q3	A	5	試験への不安

資料5 カードの空間配置・構造図

第2回 (2016年2月21日)

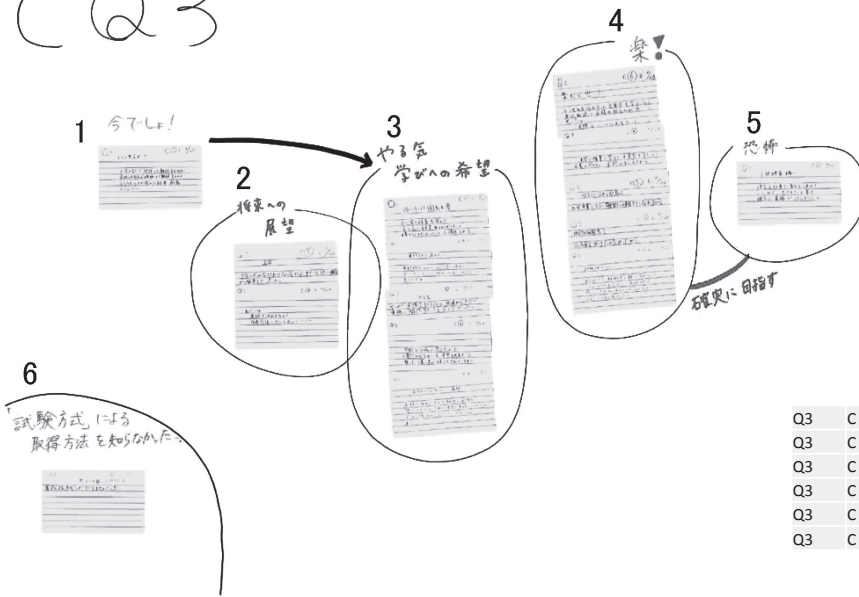


Q3	B	1	養成校のプラス面
Q3	B	1-1	資格取得の確実さ
Q3	B	1-2	試験方式では得られないもの
Q3	B	2	養成校しか知らなかった

資料5 カードの空間配置・構造図

第2回 (2016年2月21日)

CQ3

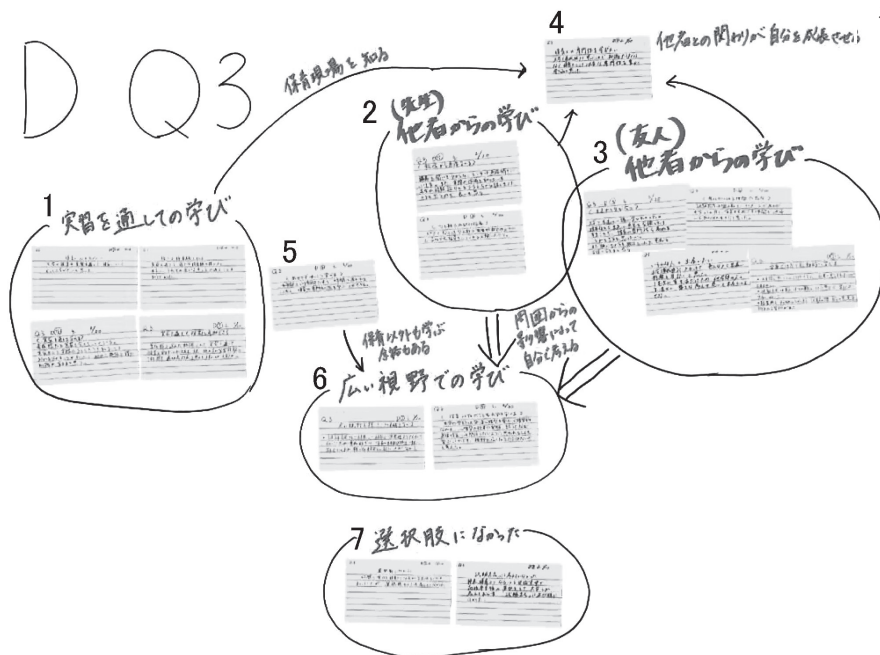


Q3	C	1	今でしょ!
Q3	C	2	将来への展望
Q3	C	3	やる気 学びへの希望
Q3	C	4	楽!
Q3	C	5	恐怖
Q3	C	6	「試験方式」による取得方法を知らなかった....

資料5 カードの空間配置・構造図

第2回 (2016年2月21日)

DQ3

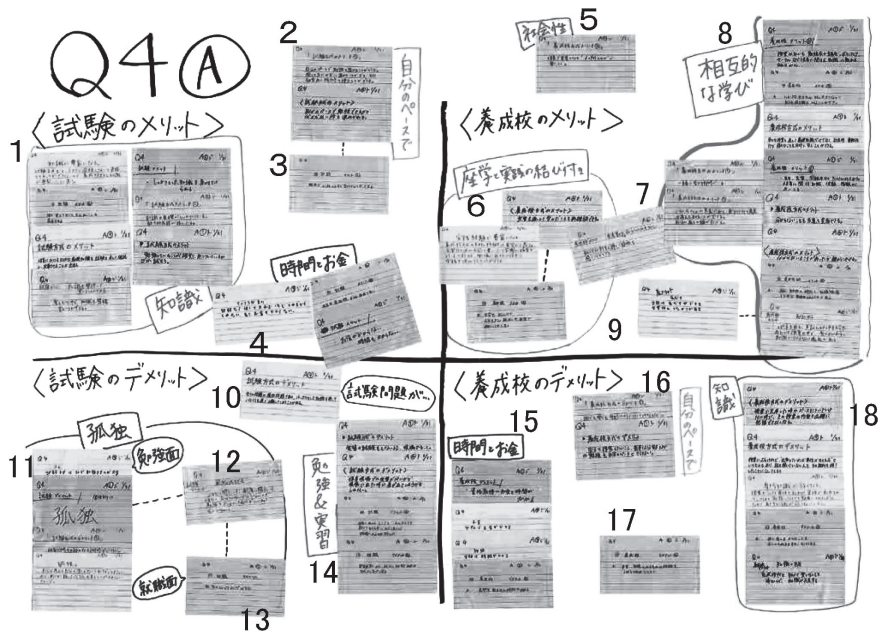


Q3	D	1	実習を通しての学び
Q3	D	2	(先生) 他者からの学び
Q3	D	3	(友人) 他者からの学び
Q3	D	4	他者との関わりが自分を成長させる
Q3	D	5	準備以外の学び 広げたい
Q3	D	6	広い視野での学び
Q3	D	7	選択肢になかった



資料5 カードの空間配置・構造図

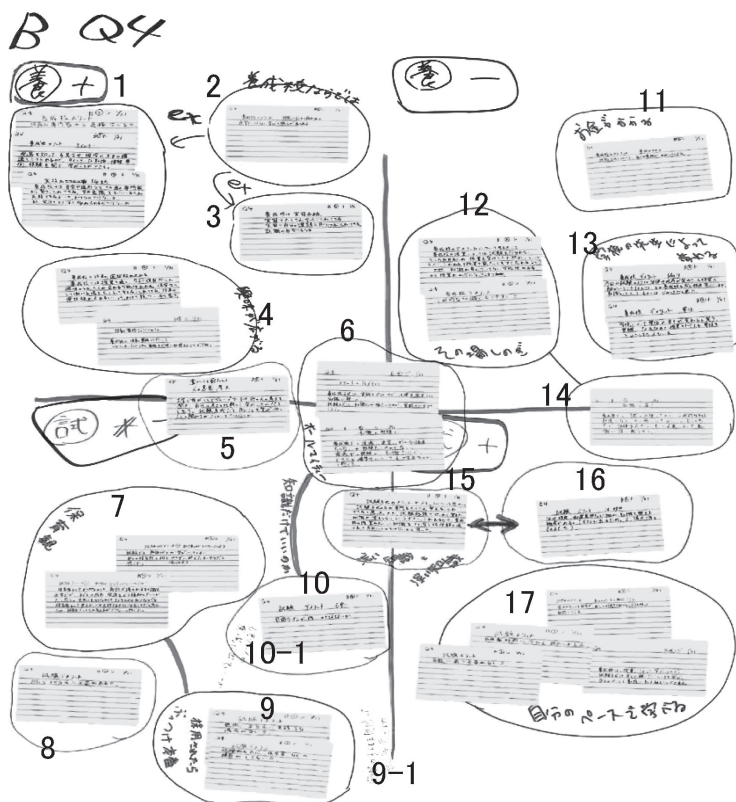
第1回 (2016年1月31日)



Q4	A	1	知識
Q4	A	2	自分のペースで
Q4	A	3	
Q4	A	4	時間とお金
Q4	A	5	社会性
Q4	A	6	座学と実践の結び付き
Q4	A	7	
Q4	A	8	相互的な学び
Q4	A	9	
Q4	A	10	試験問題が...
Q4	A	11	勉強面
Q4	A	12	
Q4	A	13	就職面
Q4	A	14	勉強&実習
Q4	A	15	時間とお金
Q4	A	16	自分のペースで
Q4	A	17	
Q4	A	18	知識

資料5 カードの空間配置・構造図

第1回 (2016年1月31日)



Q4	B	1	
Q4	B	2	養成校ならではの
Q4	B	3	
Q4	B	4	興味が広がる
Q4	B	5	
Q4	B	6	オールマイティー
Q4	B	7	保育観
Q4	B	8	
Q4	B	9	採用されたらぶつけ本番
Q4	B	10	
Q4	B	11	お金がかかる
Q4	B	12	その場しのぎ
Q4	B	13	学校の先生によって変わる
Q4	B	14	
Q4	B	15	浅い知識と深い知識
Q4	B	16	
Q4	B	17	自分のペースで学べる

資料5 カードの空間配置・構造図

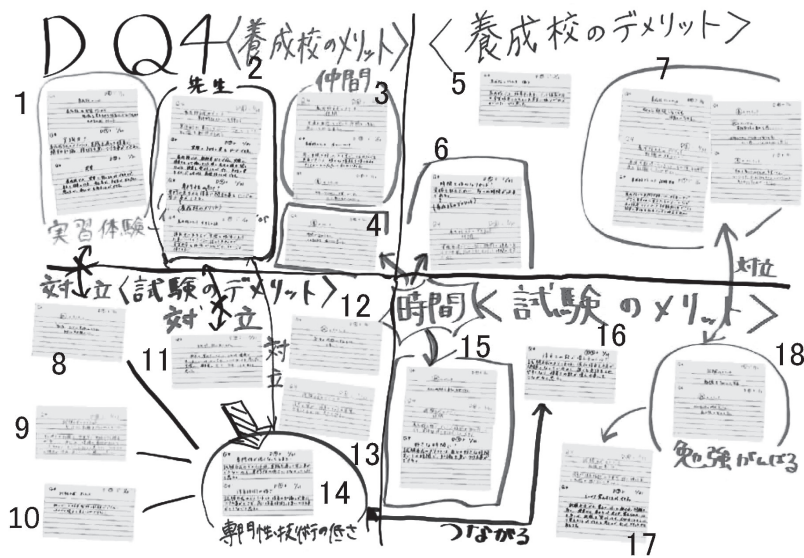
第1回 (2016年1月31日)



Q4	C	1	必要な単位をとれば資格が得られる
Q4	C	2	
Q4	C	3	人からの学び 人との出会い
Q4	C	4	実習録...指導案...やっておくべき!!!
Q4	C	5	実践できない!
Q4	C	6	方式内容と試験について(デメリット)
Q4	C	7	養メリット 実習・実践ができる!
Q4	C	8	試メリット お金
Q4	C	9	試メリット 時間
Q4	C	10	試メリット 知識
Q4	C	11	質のバラつき
Q4	C	12	養メリット 偏り
Q4	C	13	養メリット 知識の浅さ

資料5 カードの空間配置・構造図

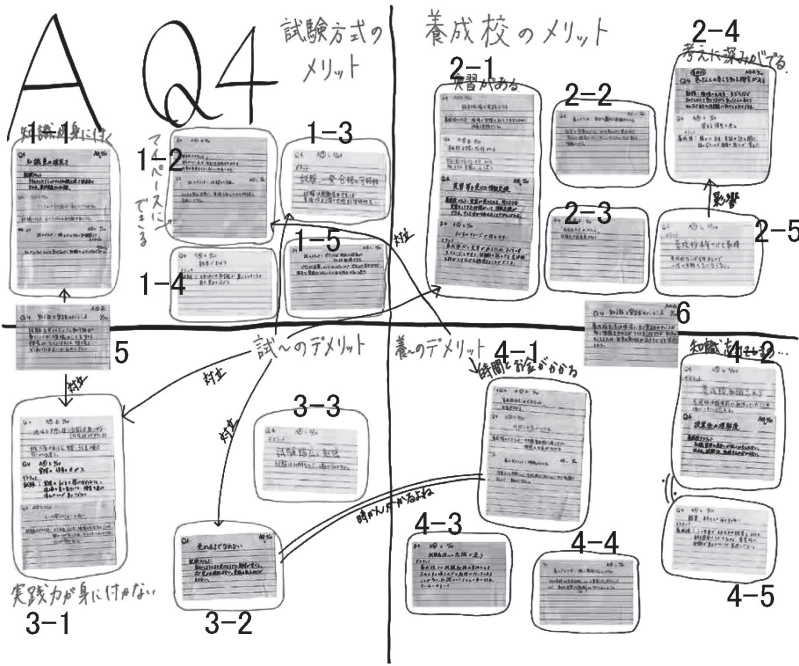
第1回 (2016年1月31日)



Q4	D	1	実習体験
Q4	D	2	先生
Q4	D	3	仲間
Q4	D	4	時間
Q4	D	5	
Q4	D	6	時間
Q4	D	7	
Q4	D	8	
Q4	D	9	
Q4	D	10	
Q4	D	11	
Q4	D	12	
Q4	D	13	
Q4	D	14	専門性・技術の低さ
Q4	D	15	時間
Q4	D	16	
Q4	D	17	
Q4	D	18	勉強がんばる

資料5 カードの空間配置・構造図

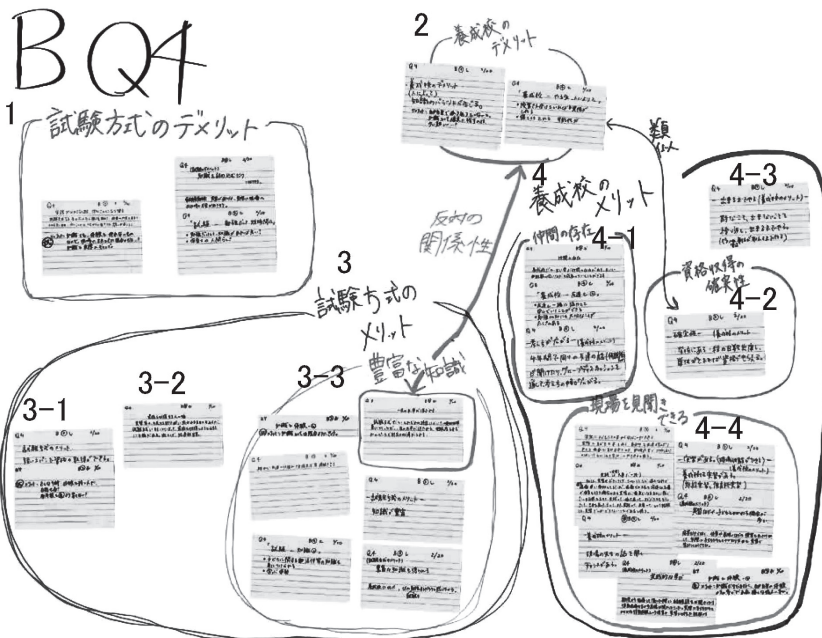
第2回 (2016年2月21日)



Q4	A	1-1	知識が身に付く
Q4	A	1-2	マイペースにできる
Q4	A	1-3	
Q4	A	1-4	
Q4	A	1-5	
Q4	A	2-1	実習がある
Q4	A	2-2	
Q4	A	2-3	
Q4	A	2-4	考えに深みができる
Q4	A	2-5	
Q4	A	3-1	実践力が身に付かない
Q4	A	3-2	
Q4	A	3-3	
Q4	A	4-1	時間とお金がかかる
Q4	A	4-2	知識忘れてしまう...
Q4	A	4-3	
Q4	A	4-4	
Q4	A	4-5	
Q4	A	5	
Q4	A	6	

資料5 カードの空間配置・構造図

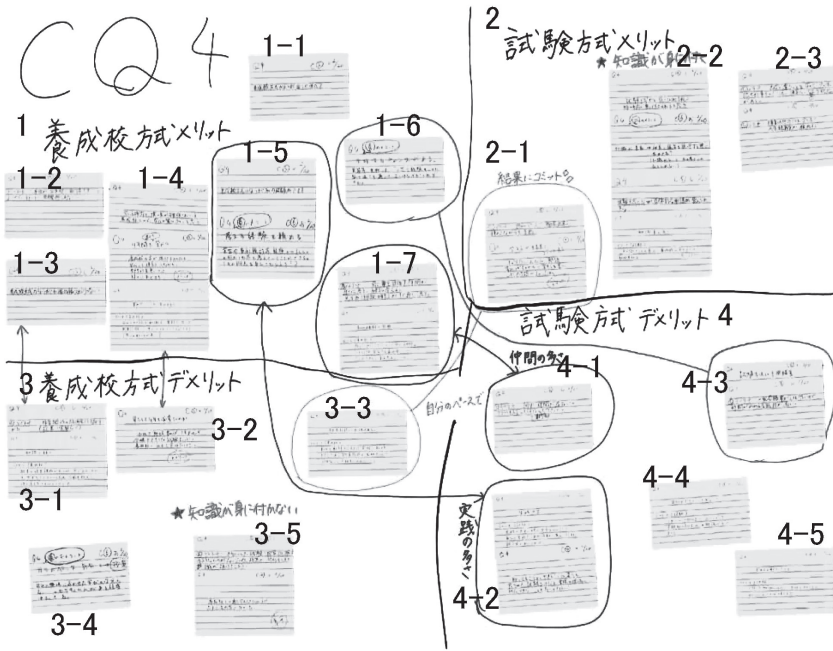
第2回 (2016年2月21日)



Q4	B	1	試験方式のデメリット
Q4	B	2	養成校のデメリット
Q4	B	3	試験方式のメリット
Q4	B	3-1	
Q4	B	3-2	
Q4	B	3-3	豊富な知識
Q4	B	4	養成校のメリット
Q4	B	4-1	仲間の存在
Q4	B	4-2	資格取得の確実性
Q4	B	4-3	
Q4	B	4-4	現場を見聞かせる

資料5 カードの空間配置・構造図

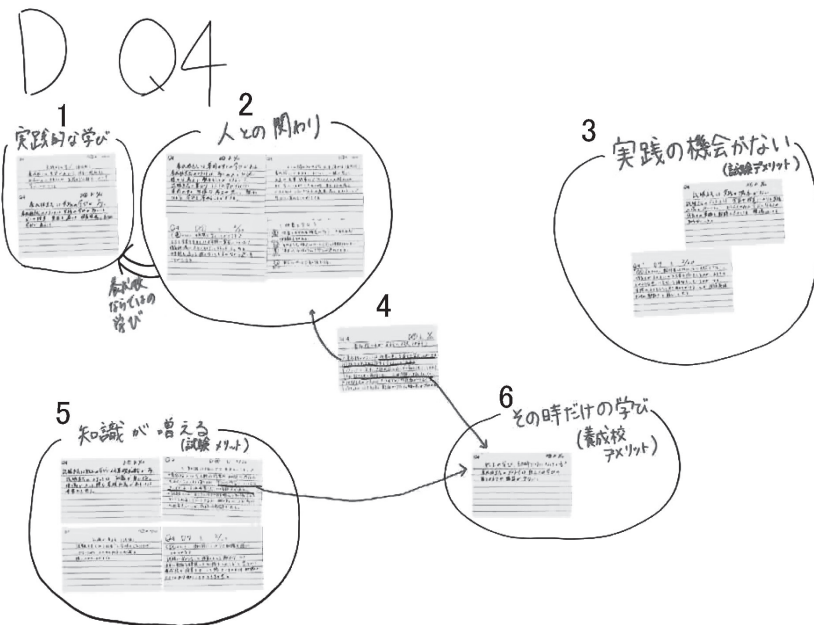
第2回 (2016年2月21日)



Q4	C	1	養成校方式メリット
Q4	C	1-1	
Q4	C	1-2	
Q4	C	1-3	
Q4	C	1-4	
Q4	C	1-5	
Q4	C	1-6	
Q4	C	1-7	
Q4	C	2	試験方式メリット
Q4	C	2-1	結果にコミット
Q4	C	2-2	知識が身に付く
Q4	C	2-3	
Q4	C	3	養成校方式デメリット
Q4	C	3-1	
Q4	C	3-2	
Q4	C	3-3	
Q4	C	3-4	
Q4	C	3-5	知識が身に付かない
Q4	C	4	試験方式デメリット
Q4	C	4-1	仲間の多さ
Q4	C	4-2	実践の多さ
Q4	C	4-3	
Q4	C	4-4	
Q4	C	4-5	

資料5 カードの空間配置・構造図

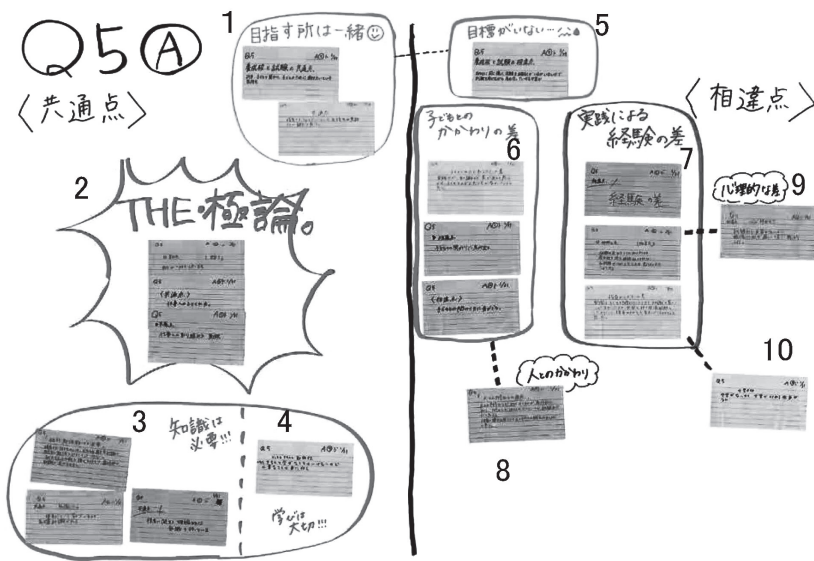
第2回 (2016年2月21日)



Q4	D	1	実践的な学び
Q4	D	2	人との関わり
Q4	D	3	実践の機会がない(試験デメリット)
Q4	D	4	
Q4	D	5	知識が増える(試験メリット)
Q4	D	6	その時だけの学び(養成校デメリット)

資料5 カードの空間配置・構造図

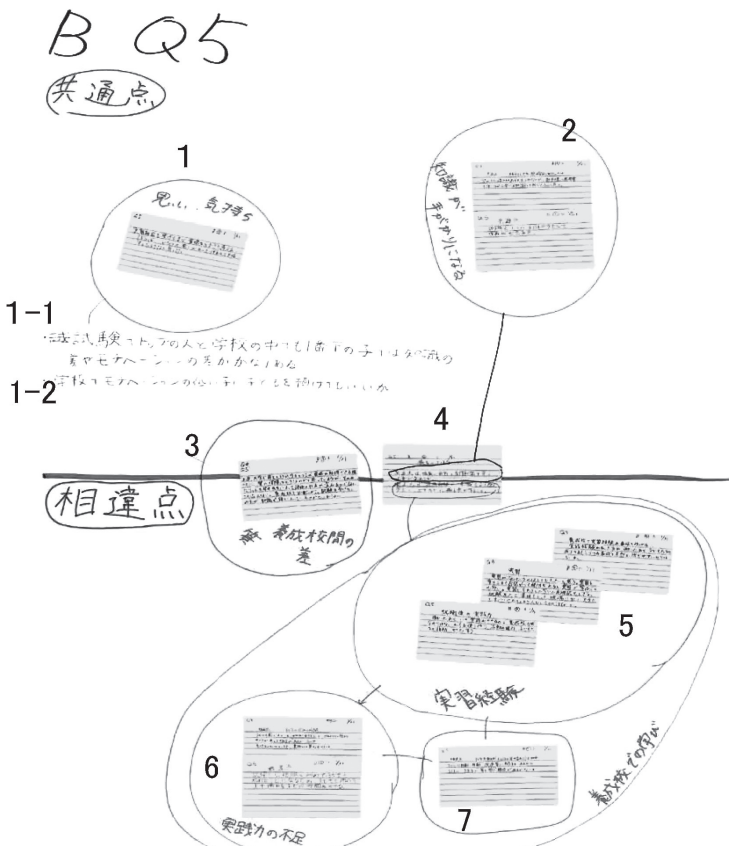
第1回 (2016年1月31日)



Q5	A	1	目指す所は一緒◎
Q5	A	2	THE・極論。
Q5	A	3	知識は必要!!!
Q5	A	4	学びは必要!!!
Q5	A	5	目標がない...
Q5	A	6	子どものかかわりの差
Q5	A	7	実践による経験の差
Q5	A	8	人のかかわり
Q5	A	9	心理的な差
Q5	A	10	

資料5 カードの空間配置・構造図

第1回 (2016年1月31日)

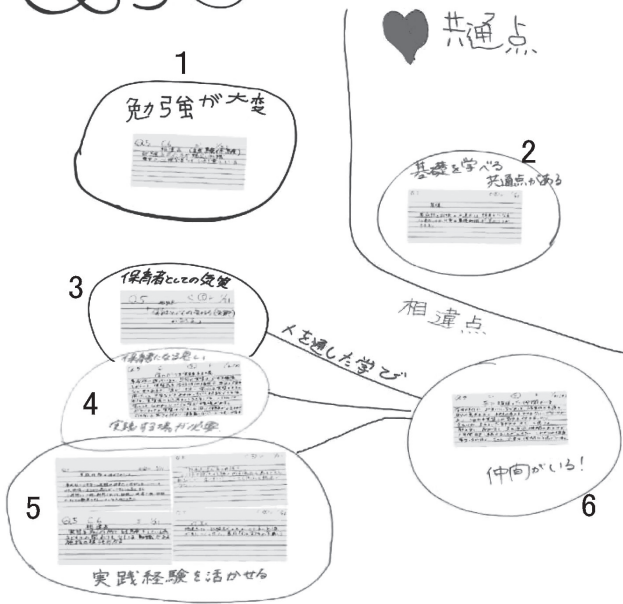


Q5	B	1	思い、気持ち
Q5	B	2	知識が手がかりになる
Q5	B	3	養成校間の差
Q5	B	4	
Q5	B	5	実習経験
Q5	B	6	実践力の不足
Q5	B	7	養成校での学び

資料5 カードの空間配置・構造図

第1回 (2016年1月31日)

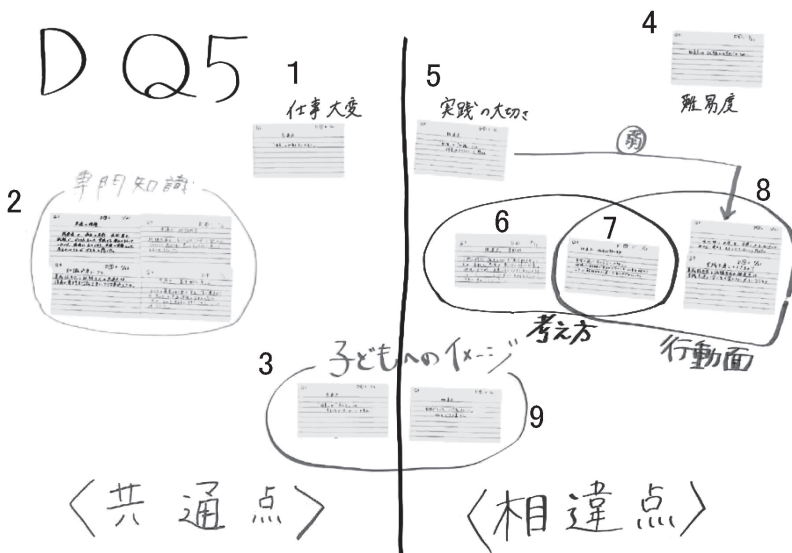
Q5C ⑤ 社会福祉 ⑥ 保育の心理学



Q5	C	1	勉強が大変
Q5	C	2	基礎を学べる 共通点がある
Q5	C	3	保育者としての気質
Q5	C	4	保育者になる思い
Q5	C	4	実践する場が必要
Q5	C	5	実践経験を活かせる
Q5	C	6	仲間がいる!

資料5 カードの空間配置・構造図

第1回 (2016年1月31日)

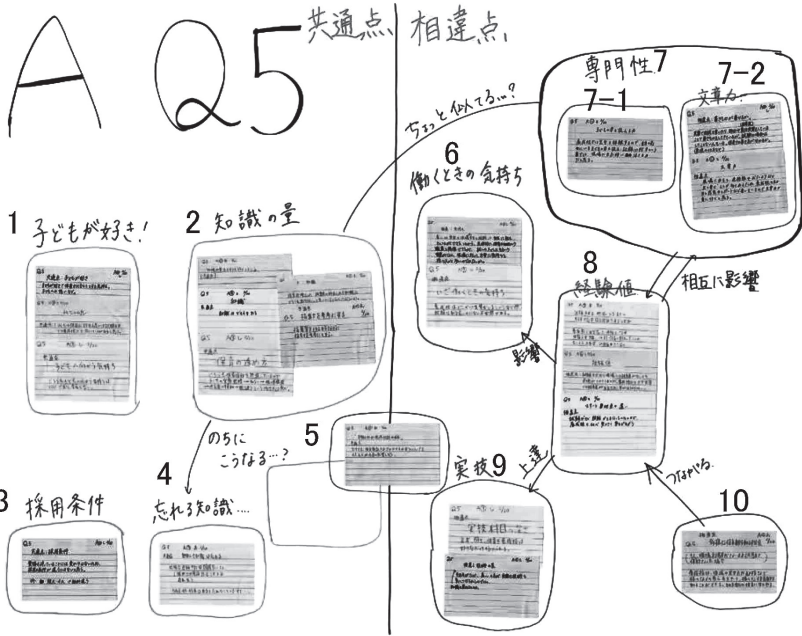


Q5	D	1	仕事大変
Q5	D	2	専門知識
Q5	D	3	子どもへのイメージ
Q5	D	4	難易度
Q5	D	5	実践の大切さ
Q5	D	6	考え方
Q5	D	7	考え方
Q5	D	8	行動面
Q5	D	9	子どもへのイメージ

資料5 カードの空間配置・構造図

第2回 (2016年2月21日)

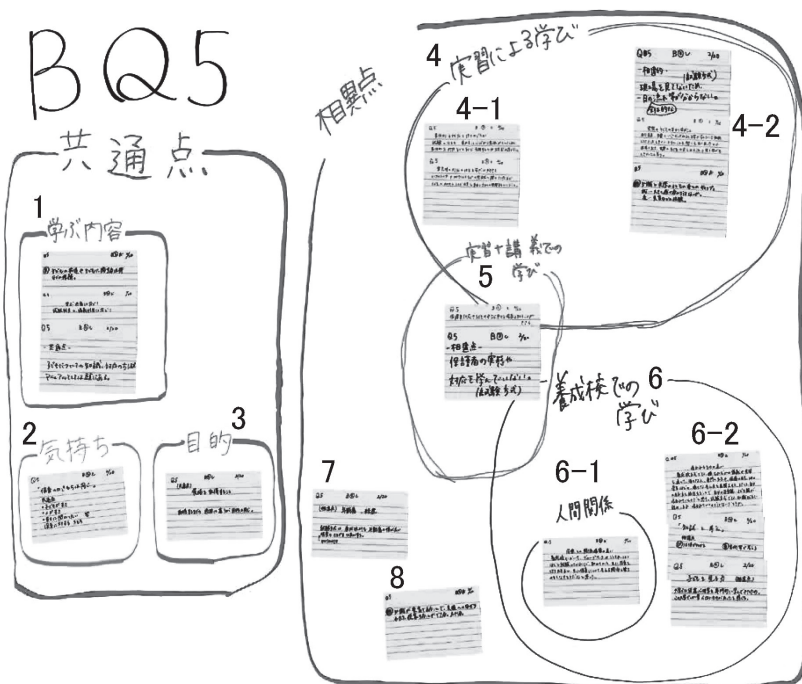
Q5	A	1	子どもが好き!
Q5	A	2	知識の量
Q5	A	3	採用条件
Q5	A	4	忘れる知識
Q5	A	5	
Q5	A	6	働くときの気持ち
Q5	A	7	専門性
Q5	A	7-1	
Q5	A	7-2	文章力
Q5	A	8	経験値
Q5	A	9	実技
Q5	A	10	



資料5 カードの空間配置・構造図

第2回 (2016年2月21日)

Q5	B	1	学ぶ内容
Q5	B	2	気持ち
Q5	B	3	目的
Q5	B	4	実習による学び
Q5	B	4-1	
Q5	B	4-2	
Q5	B	5	実習+講義での学び
Q5	B	6	養成校での学び
Q5	B	6-1	人間関係
Q5	B	6-2	
Q5	B	7	
Q5	B	8	



資料5 カードの空間配置・構造図

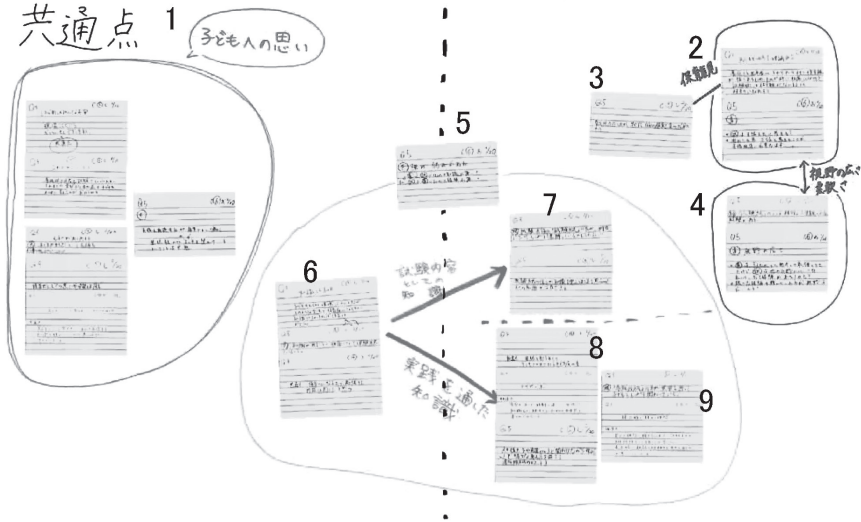
第2回 (2016年2月21日)

C Q5

共通点 1

子どもへの思い

相違点



Q5	C	1	子どもへの思い
Q5	C	2	保育親
Q5	C	3	保育親
Q5	C	4	
Q5	C	5	
Q5	C	6	
Q5	C	7	試験内容としての知識
Q5	C	8	実践を通じた知識
Q5	C	9	実践を通じた知識

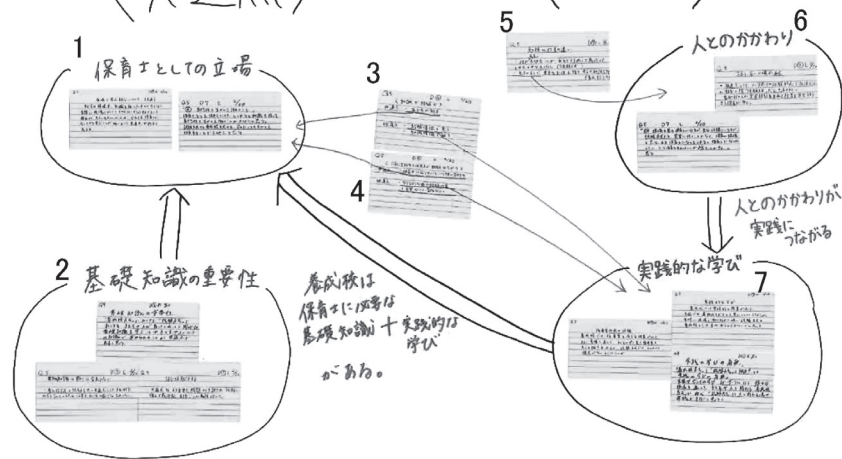
資料5 カードの空間配置・構造図

第2回 (2016年2月21日)

D Q5

<共通点>

<相違点>



Q5	D	1	保育士としての立場
Q5	D	2	基礎知識の重要性
Q5	D	3	
Q5	D	4	
Q5	D	5	
Q5	D	6	人とのかかわり
Q5	D	7	実践的な学び



2015 保養協【保育人士養成のあり方に関する研究】「事後アンケート」の分析  
作成日： 2016年 3月 8日(火)

## 「事後アンケート」 分析ワークシート1

概念名	試験問題の妥当性、現場に必要な知識なのか
定義	試験問題が現場に必要な知識なのか疑問を感じている
ヴァリエーション	29：しかし、試験内容に関しては、疑問を感じる内容も多くありました。子どもたちとの関わりは、正解は1つではないし、試験の内容全てが現場で役立つのかといえは私はそのとは思いませんでした。 31：しかし、内容は保育の歴史等であり、現場に出て必要な知識なのか、改めて疑問を感じました。 33：私は教育原理を受けたが、歴史の人物などは現場で使うことはないと思いた。しかし、保育者としてあるべき知識なのだと感じ、難しいなと感じた。 53：グループワークをして、それぞれの科目で似たような問題が別の科目で扱われているのではという意見がありました。その通りだと思いましたが、実際に現場で使用する知識、あまり関係しないことも問題に含まれているような気もしました。
理論的メモ	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体的に出題された知識が現場が必要かどうかという点について述べているが、3.3に関しては、保育者としてあるべき知識なのかもしれないという考えについての記述しており、揺らぎが読み取れる。</li> <li>試験問題の妥当性（現場に必要なのか）と範囲が広い（分析ワークシート7-0）をセットで述べている学生が2名（29,33）いた。</li> <li>29は、子どもの関わりに関する問題について正解は1つではない可能性を指摘し、問題の妥当性を問うような意見を述べている。</li> <li>29の子どもの関わりを問う問題の妥当性を指摘した点について、試験内容の検討が必要（分析ワークシート2）の16では、事例の問題をもっと出題すべきと反対の意見を述べている。</li> </ul>

2015 保養協【保育人士養成のあり方に関する研究】「事後アンケート」の分析  
作成日： 2016年 3月 8日(火)

## 「事後アンケート」 分析ワークシート2

概念名	試験内容を検討すべき
定義	問題が少ないため科目で学んだことが網羅されておらず簡単であること、実習がない等の問題点を感じ試験内容を検討すべきだと感じている
ヴァリエーション	44：また、試験自体の問題が少なすぎるといふ意見もありました。確かに20問は少ないかもしれませんが、合格率が低いということもお聞きしました。合格率が低いと、保育士不足につながる可能性もあると考えました。保育士不足には、もちろん他の原因もありますが、せつかく保育士を指そうと思う人たちが、させつしないではないと思います。ですが、問題がとてもしも簡単になると、誰でもなれてしまうので保育の質が下がるとはならないかと考えました。調節が難しいと感じました。 49：私が受けたのは「子どもの食と栄養」の科目でしたが、20問出題というのはなかなか少なく、科目で取り扱われる内容はほとんど網羅されていないような印象を受けました。子どもの食と栄養は保育するにあたって直接的に関係してくる部分であるので、試験を受けて保育士の資格を取得する人は養成校に通っている自分以上に不安になるのではないかと感じました。 52：保育士試験を体験して感じたことが2つある。 1つ目は、試験時間の長さである。私は1科目しか体験していないので、20問60分がとても長く感じた。しかし、実際受験する人は1日3~4科目なので、60分ギリギリまで力を振り絞るための必要時間かもしれない。 20：私が受けた保育の心理学は、好きな科目だった、ということもありませんが、少し内容が易しく、問題数が少ないと感じました。なので、国家資格を取得するための試験が、このボリュームでこの難易度で良いのか？という疑問を感じました。他の科目もありますし、時間が無い中勉強される方もいるので、私の考え方は安直なものなのかもしれませんが、特にこの科目については、学校で厳しい試験を受けているので、正直な感想は、このようになりました。 16：試験を受けてみて、社会福祉という科目は、年金、生活保護、人口問題など日本の社会問題に関する物もあり、保育士というよりは普通の常識問題であると感じた。また、事例の問題ももっと多くあった方が実践へつながると思った。 20：知識を頭に入れることはとても大切ですが、実際に現場で働くようになること、知識に加えて自分の頭で考えることが求められると思います。養成校は、学生同士や先生による保育観の共有ができるので、「考える」ということができず、独学では暗記の世界になりがちです。作文やグループディスカッションといった試験方式があっても、今後の現場でのコミュニケーション力や、臨機応変な柔軟な考え方を身につけるために良いのではないかと思っています。 21：試験は暗記物に必要なのかを感じた。保育実践に必要なテキストを多くすることでその人の保育の向きが分かるのではないかと。又実践をもとまらずに

	<p>ストだけで施設に入ってくると苦勞するのではないかと感じた。</p> <p>28：次に、試験を受けて一番思ったことは、現場では正解がほとんどないと思うので、試験の方式に少し疑問を持ちました。例えば、事例の問題で保育士がとるべき行動を選択肢として選ぶのではなく、「自分がどう感じ、考え、子どもにとって1番良い方法は何か」という考えの過程を記述して答えた方が、現場で活きる力になるのではないかと思います。大学の授業の中でもこのような事例のディスカッションが自分にとって大きな学びでした。そのため、試験方式の方にもそういう経験をしたいです。</p> <p>52：2つ目は、「保育実習理論」科目の必要性である。実技試験もあるのに、なぜ筆記でも問うのだろうか。頭で理論立てて認識していないことを、感覚でできる人も問うのではと考えた。特に転調は1音ずつ数えて弾くのではなく、大体の目星をつけて弾いている場合が多いのではないだろうか。</p> <p>53：選択方法の筆記と実技ではなく、実技中心、又は、試験で実際に子どもと関わる機会（試験前でも）があると、もっと現場で意味のある試験になるのかなと思います。</p>
理論的メモ	<ul style="list-style-type: none"> <li>資格取得方法を考え直すべき（分析ワークシート25）と似ているが、試験内容に特化した記述のみを本シートにまとめた。</li> <li>問題数やそれに関する試験時間の長さについて述べている（44,49,52）</li> <li>問題数が少ないために科目で学んだ内容が網羅されていないと述べている（49）は、分析ワークシート7-0の試験範囲の広さは反対の意味と捉えられる。</li> <li>国家資格を取得する試験としては、問題が簡単であることを述べている（20）</li> <li>問題の内容が常識問題であったと述べている（16）</li> <li>実習でグループワーク等の実技試験や事例を通して考える問題を多く取り入れる等実践に即した試験内容が必要ではないかと述べている（16,20,21,28,52,53）</li> <li>実習やグループワーク等の必要性を述べている中には、養成校で得られる実習の大切さについても触れている記述もあり、その点は、実習が大切であるという分析ワークシートとの関連性も深い。</li> </ul>

## 2015 保業協【保育士養成のあり方に関する研究】「事後アンケート」の分析

作成日： 2016年 3月 8日(火)

## 「事後アンケート」分析ワークシート3

概念名	試験だけでは判断できない部分がある
定義	試験では、人柄などその人の良さをみて判断できない。(保育士には人柄も重要な要素だと考えている)
ヴァリエーション	<p>16：試験だけでは、その人、人柄を見て判断できないというデメリットも感じた。</p> <p>41：試験の内容は難しい、わかりにくいと感じ、実際に点数が合格点まで達したとは思わないが、それでもその試験内容に載っていないなかつたことで知っていることはたくさんあると思うし、試験方式で保育士資格を取得する人でもそのような現象が起ると思う。保育士には様々な得意分野のある人がいることは良いことだと考え、また試験には表れないその人の保育者としての素晴らしい部分があると思うから試験だけでその人が保育士になれるかどうかは計れないと考える。</p>
理論的メモ	<ul style="list-style-type: none"> <li>試験だけで資格が取得できていいのかという記述は、養成課程では実習が重要（分析ワークシート8）にも多く取り上げられているが、本分析ワークシートでは、実習や授業でのグループワーク以外の人柄等の記述があるものを集めている。</li> </ul>

## 「事後アンケート」 分析ワークシート 4

概念名	保育士試験マークシート式回答法の欠
定義	問題がマークシート式であるため、運や勘で正解することも可能である
ヴァリエーション	20：また、試験形式が選択式であることは、消去法や勘で解き易いので、記述式は必要であると強く感じました。 31：また、試験形式が5択であったことから、もしわからない問題が出てきても運や勘で正解してしまうこともあるのではないだろうか。これらを考えると大学で多方面から総合的に学ぶ必要があると思います。 48：保育士試験を体験してみても、マーク式であるため、少し忘れていてもすぐに解答できる点が楽でした。
理論的メモ	・試験内容が簡単であるという記述は他にもあった（分析ワークシート2：試験内容を検討すべき内）が、ここでは、マークシート式回答法であるために、運や勘で正解することがあることを危惧した記述をグループとした。

## 「事後アンケート」 分析ワークシート 5

概念名	公立採用試験と試験内容が似ている
定義	試験内容は公立の採用試験と共通する内容だと感じた
ヴァリエーション	19：私は公務員試験を受けたので、今回の試験の内容や難しさは、保育士試験と共通するものが多かったのです。しかし、保育士試験の方が、より深い知識が必要だと感じました。 31：私が受けた「教育原理」は保育士採用試験と似ていたこともあり、解答しやすかったです。 35：また試験の内容については、私は公立の勉強でやっていた科目と変わらなかったため、授業での学びとのギャップは今日は感じなかったが、もし自分がその勉強をしていないなら4年間の授業で聞き、学んだ内容だけではおぎなうことができな部分がたくさんあるなと思った。 53：公立保育士採用とさほど変わらない印象でした。
理論的メモ	・3.5は、公務員試験と似ているというだけでなく、4年間の授業内容+試験に向けた勉強が必要だと感じた点も記述している。



## 「事後アンケート」 分析ワークシート 8

概念名	保育士試験の試験問題の難しさ
定義	保育士試験の試験問題は範囲が広く細かい知識を問う点もあり、難しいと感じた。
ヴァリエーション	22：今回、保育士試験を体験して、感じたことは、問題がとても難しいなと感じました。今回は、体験として、受けたので、難しいなと思っただけでしたが、本当に受けることになったら、相当なストレスにもなるし、保育士になることさえ、辞めてしまいうるようになります。 24： 養成校で受ける試験とは、難易度に差があると感じました。養成校での試験では、持ち込み可能な試験だったり、試験範囲について詳しく知ることができる場合があるので、保育士試験と比較すると合格しやすいと思います。保育士試験の問題形式は、oxの組み合わせや正誤を1つ1つ問う問題だったので細かいところまで正確に覚えなければ、解くことができないのではないかと思います。 27： 保育士試験がけっこうむずかしく、授業でならなかったことあるやつでも、むずかしく質問されるのもつとむずかしく感じました。いつもの授業のテストでは、重点に勉強すれば良いけど試験は、山が広く覚えるのがすごきたいへんだったって思った。 38： 試験は少し難しく感じました。担当科目が自分の苦手科目だったということもありましたが、過去問と授業のプリントやノートという少ない勉強道具では足りなかったと感じています。
理論的メモ	<ul style="list-style-type: none"> <li>このシートは、試験問題が難しいという点を中心にグルーピングした。難しい背景には、範囲の広さや細かい知識が問われるという点が含まれていると考えられるが、難しさに触れていない記述は別の分析ワークシートにまとめられた(7-1 試験範囲の広さと内容の細かさ)</li> <li>養成校での授業や授業内での試験と比較した記述をしている学生が3名いる(24,27,38)</li> <li>22の記述は、保育士試験の内容の難しさが保育士の道をあきらめてしまう等の壁にもなりうることに触れている。問題の難易度の高さが保育士不足に繋がっているのではないかとコメントは、取得方法再考の提案(ワークシート25)の中の保育士不足問題に触れている記述に類似している(23と40の記述)</li> </ul>

## 「事後アンケート」 分析ワークシート 9

概念名	9教科分の試験勉強の大きさ
定義	保育士試験体験は1教科のみだが、保育士試験では幅広く詳細な知識を9教科で求められるため、試験勉強が大変だろうと感じている。
ヴァリエーション	12：今回1つの科目だけの受験を体験させていただいたのですが、これを全科目受験するとすごい難易度が高いものであると実感しました。 34：他の大学で別の勉強をして、別の資格の勉強をしても保育士資格はとれるし、その方が幅広く学習できて良いのではないかと考えたが、私たちは勉強をきたため、今日のテストは身近に感じたがゼロからのスタートで9科目を全て勉強することは厳しいことだろうと感じた。合格率が2割なこととはとても疑問があったが、3年間に独学で9科目の知識をつけることは難しいことなのだと分かった。 38：資格試験合格のために、今回の試験体験では1科目で済みましたが、9科目のすべてを6割として実技試験とかなり勉強をしておかないと、自信をもって試験にのぞむことができないのではないかと感じました。 40：今回、一科目のみ体験したが、本来は他にも多くの科目を受けなければならぬと考えると、当日はもちろぬ、事前の試験勉強が大変だと思った 42：今回は、1教科のみの受験であったため(全ての教科についてのことは分からないが)1つの教科を集中して勉強することができたが、この全ての教科を勉強して試験となると負担も大きいのではないかと感じる。 48：試験方式は幅広く知識を詰め込んでいくイメージがあるため大変さを感じました 43：まず、一科目だけだったけど、保育士試験を受けてみて、試験の難しさ何科目も受ける大変さがわかった。
理論的メモ	<ul style="list-style-type: none"> <li>試験勉強の大きさの背景には、求められる知識の広さと詳細さがあると解釈できるため、試験問題の難しさ(分析ワークシート7-2)と試験範囲の広さと内容の細かさ(分析ワークシート7-1)の深い関連性があると考えられる。</li> <li>34は、養成校で授業を受けたベースがある自分たちと、ゼロから専門科目を勉強しなければならぬ違いについても述べている。</li> </ul>

2015 保業協【保育士養成のあり方に関する研究】「事後アンケート」の分析  
作成日： 2016 年 3 月 8 日(火)

## 「事後アンケート」 分析ワークシート 10

概念名	試験方式で保育士資格を取得することの大変さ
定義	試験方式で保育士資格を取得することの大変さを感じた
ヴァリエーション	<p>5：保育士試験を体験して、養成校方式だけでなく、試験方式で資格を取るのも大変だなと思いました。</p> <p>29：4年間の総復習が詰まった内容を全てクリアするという事になると、試験に合格するのは相当大変だろうと思います。</p> <p>35：まず「試験方式」の試験を実際に受けてみて、今回は1科目のみだったのでもそこまで負担は感じなかったが、全科目を受けて6割取り、その後実技試験を受けるという事を想像すると、保育士という資格を「試験方式」で取得することの大変さを感じた。</p>
理論的メモ	<ul style="list-style-type: none"> <li>試験方式で保育士資格を取得することの難しさを感じる背景には、試験範囲の広さと内容の細かさ（分析ワークシート7-1）と試験問題の難しさ（分析ワークシート7-2）と9科目の試験勉強の大変さ（分析ワークシート7-3）があると感じられるため、4つのワークシートの関連性は高いと考えた。</li> <li>5は養成校方式と試験方式どちらでも資格取得は難しいと述べているため、保育士は取りやすい資格（ワークシート27）と反対の関係になる。</li> </ul>

2015 保業協【保育士養成のあり方に関する研究】「事後アンケート」の分析  
作成日： 2016 年 3 月 8 日(火)

## 「事後アンケート」 分析ワークシート 11

概念名	保育士取得課程の実習の学びは重要
定義	試験方式には実習がないことの問題点について
ヴァリエーション	<p>2：試験があることを知り、まず思ったことは現場での経験を積まずに保育士になれる事にびっくりしたりと同時にそれでいいののか？という疑問も多くありました。試験勉強はとて大切だし、保育士になる上で基礎的な知識は当然必要ではありますが、やはり実体験が大事なのではないかと思います。経験を通して座学だけでは学べないこと・考えや思いなどが豊かになるのではと考えます。</p> <p>5：今日、皆と話し合いをする中で沢山の意見が出ましたが、やはり実習を通しての学びが大切であると感じました。試験勉強を通して基礎的な知識を得ることも大切だと思います。しかし、保育士は人と関わる仕事なので、実習を通して子どもや保育者、保護者との関わりから学びを深めることがより大切であると思います。試験方式で資格を取るという方法を否定するわけではなく、養成校に通うことで、沢山の知識を得るだけではなく、実習を通して自信をつけることもできると思いました。</p> <p>10：保育は人を育てる仕事であるため、保育を学びながら子どもから高齢者まで幅広い世代の人と関わる経験を積んだ方が良く考えると、実習では現場に実際に入って学ぶことができると、自分が将来どのように働くのか、また働いていきたいかを考えることができる。</p> <p>11：今回、保育士試験を体験して、大学で学んできたものとは少しちがうなと感じる部分が多かった。大学では実践的なことが多いのに対して、試験では細かいところが多く、必要だが他に大切なことがあると思っ。</p> <p>23：実際に試験方式で勉強する人は、どのように勉強をしているのか、実技試験はどのように行われているのかは、わかりませんが、やはり実践を通してまうのではないかと、思いました。</p> <p>25：養成校に通いながら、本来にこのまま保育士資格をもらって、現場に出て子どもの命をあずかる仕事に就いても大丈夫だろうかと不安になることがある。今回保育士試験を体験してみて、もし自分が試験方式で保育士になったら、この不安が更に大きなものになるのではないかと、思った。養成校に通ってきても、不安もあるが実習等を通して、保育の手応えを感じる等自信につながる体験もしてきたからである。</p> <p>28：私の場合、大学に行って学びながら資格が取れるというメリットにひかれて入学したので、試験だけで資格を取る人に対して、すごいなと思うと同時に大丈夫かな...と不安な気持ちもあります。やはり、大学に入って知識も大切ですが、実習などでの現場からの学びは本当に大きいので、現場での経験は資格を取る前に必要なものだと思います。</p> <p>33：話し合いをしても感じましたが、試験方式だと知識だけでいいの、現場に出た時にもっと必要なのではないかと、現場に出る前に現場での経験が必要なのではないかという意見が多く、私自身もそう感じてしまう。もし実習なしで現場に出ることを考えると、私は怖いくらい実習での経験は大きなものだと感じる。</p>

	<p>実際に子どもや現場の先生と関わってみると、想定外のこともとたくさん起きってくる。そこでの対応力や現場で失敗する経験から身につく精神力など知識だけでは分からないことがたくさんあるように思う。</p> <p>42：その反面、実践的な経験に対しては、どうしても養成校での実習があるため、試験方式の人に比べたら社会に出てからの不安感は少ないように今回感じた。</p> <p>46：試験をしてみて、基本的な知識は問われていることは分かるけれど、この基本的な知識を実際の現場では実践していかなければならず、実際に子どもたちの姿が分からないと生かされてこないのではないかと思いました。</p> <p>53：大きな違いとして実習や経験値が挙げられました。実習に行っても経験不足だと感じています。</p>
理論的メモ	<ul style="list-style-type: none"> <li>53は、試験方式と養成校方式の大きな違いは実習等の経験値である指摘しているのも、このグループに分類したが、養成校で実習に行ったとしても、経験不足と感じている点は、他の意見とは異なる</li> <li>試験内容を見直すべき(分析ワークシート2)は、実習等実践を通して得た学びの重要性を感じているからこそ、実習が必要であるという記述へつながったと解釈できるため、関連性があると考えられる。</li> <li>養成校に通ったことに関する肯定感(分析ワークシート17)にも実習で得た学びの重要性を述べている学生が6名いた(3,9,13,29,33,47)</li> <li>養成校で得られる学び(分析ワークシート18)の中にも実習を挙げている学生が3名いた(18,29,48)</li> <li>つまり、保育士養成課程において実習など現場での体験から得られる学びの重要性を感じている学生が多いと言える。</li> <li>分析ワークシート32：試験方式と養成校方式では身につけている質が違うの中に、養成校では実践面から得られた学びが多いことと記述している学生がいた(17,34) 養成校では実習など実践を通じた学びが印象に残っていると考えられる。</li> <li>実習の有無による身につく内容の差(分析ワークシート33)でも、実習の重要性は述べられており、本分析ワークシートとの関連も深い</li> <li>分析ワークシート35では、実習に行ったからこそ知識と経験が結びついたことが記されており、本ワークシートとも関連が深い</li> </ul>

2015 保養協【保育士養成のあり方に関する研究】「事後アンケート」の分析  
作成日：2016年3月8日(火)

## 「事後アンケート」分析ワークシート12

概念名	試験方式を体験して感じたこと
定義	試験方式を体験して感じたこと
ヴァリエーション	<p>48：養成校に比べ、話し合う機会が少なく、ひたすら今回のような問題を解いて試験に励むのは、少し孤独であると感じました。</p> <p>27：他の教科を見ているのでわからないけど、食と栄養のテスト以外も少しだけ経験できたら良かったって思いました。保育実習理論の教科も少し気になったので受けてみたいという気持ちがありました。</p> <p>44：他の教科も、どのような問題が出たのか気になりました。</p> <p>30：試験等を受けたことがなかったので、今回受けてみて新鮮だった。</p> <p>48：一方で、応用問題等のように少し難しい問題を解くことができ、新鮮な面もありました。</p>
理論的メモ	<ul style="list-style-type: none"> <li>試験体験をして感じたことは、以下の3つのグループに分けられるだろう。</li> <li>試験方式の学びの課程が孤独である(48)、他の科目についても気になった(27,44)、試験体験を行ったことが新鮮だった(30,48)</li> <li></li> </ul>

## 「事後アンケート」 分析ワークシート 13

概念名	試験方式で資格取得できると知った
定義	養成校方式しか知らず、試験方式で保育士資格を取得できなかった。
ヴァリエーション	32：今回の試験を受けて、養成校で資格を取ることしか知らず試験方式の方がいることや、その方法などのことを知ることができて良かったと思う。保育をするにあたって知って知っておいて良いことだと思った。 46：今まで、保育士試験についてあまり考えたことがなく、私と同じようにどこかしらの学校を出て保育士になっているのだからと漠然と思っていました。 51：また、試験方式を詳しく知らなかったもので、そういういった経緯で働く人がいるということが分かって良かった。
理論的メモ	

## 「事後アンケート」 分析ワークシート 14

概念名	試験方式の内容を知ることができた
定義	試験方式を体験でき、どのようなものか知れて良かった
ヴァリエーション	7：自分は養成校だが、経験することのない試験方式を受けることができ、貴重な経験になったと思う。2つの方式を比べることで、今まで考えたことのないことも考えることができた。 8：今まで全く知らなかった「試験方法」について今日は実際に体験し、それについて興味出来たので本当に良い経験をさせて頂きました。 23：保育士試験を体験して、養成校と試験方式で資格を取得する人の違いを少し知る事ができました。 25：試験方式がどんなものか体験できて良かった。 26：試験方式について、今まで全く考えてこなかったもので、今回のこの試験に参加して試験方式がどのようなものか知ることができ、グループディスカッションで養成校方式と試験方式を比べることができて、良かったです。 同じ「保育士」の資格取得の方法が2種類あること、自分は養成校方式を選び、取得間近であることを改めて考えるきっかけになりました。 28：まず、保育士の資格を取るための試験がどういう仕組みになっているのかわらなかつたため、今回の経験で初めて知ることができました。 36：今回の体験を通して、自らの養成校での学びを振り返ると共に、試験のみで保育士になるとはどういうことか、またその相違点はどのような点にあるのかなど、考えることの出来る機会となった。また、自分の考えの偏り、想像することの難しさ、保育士資格取得について、様々なことを感じられた。 38：私自身、養成校しか経験していないので、他の方法で資格を取得する方法やどんな試験をしているのか知ることができて、良かったです。 42：自分自身は、養成校での資格取得を選択していたため、今回のような試験方式での取得方法に対する知識はほとんどなく、また経験することになるとは思っていません。とても貴重な経験であった。 44：養成校に通って見れば、関係がなかったはずの試験を体験出来、貴重な体験になりました。 49：自分自身は保育士養成校に通っているのですが、保育士試験を受けることは一生ないだろうと思っていました。今回このような機会があり、1科目のみではありましたが試験を受けることができ、貴重な良い機会であったと思います。 53：保育士試験を体験することができ、試験がどのようなものか知れてよかったです。
理論的メモ	・ 保育士試験を体験し、少しでも試験方式のことを知ることができたという記述をグループビングした。



2015 保養協【保育士養成のあり方に関する研究】

「事後アンケート」の分析

作成日： 2016 年 3 月 8 日(火)

## 「事後アンケート」 分析ワークシート 15

概念名	養成校でも試験方式の問題は知っておく必要あり
定義	養成校方式の人も試験方式で問われる内容を知っておく必要があるかもしれない
ヴァリエーション	22：今回、体験してみて、今までは、試験は、自分とは関係ないと思っていたけど、同じ保育現場に出る者として、試験の大変さや、難しさを知り、どのような問題が出るのか等を知っておく必要もあるのかもしれないと思えました。
理論的メモ	<ul style="list-style-type: none"> <li>養成校卒業後に試験を受けることについて（分析ワークシート24）で卒業後に試験を受けることについて賛成しているコメント（18,19,34）に似ている</li> </ul>

2015 保養協【保育士養成のあり方に関する研究】

「事後アンケート」の分析

作成日： 2016 年 3 月 8 日(火)

## 「事後アンケート」 分析ワークシート 16

概念名	知識が身に付いているかどうかの確認
定義	試験体験で知識が身に付いているか確認することができ、理解も深まった。
ヴァリエーション	<p>8：試験に関しては保育に関する基礎知識はもちろん、常識問題も含まれていて自分自身のこれまでの学びを確認する良い機会になりました。</p> <p>32：また、実際に試験を受けたことによって知識的に学んできたことが知識として身に付いているのかわからないのが知ることができた。</p> <p>37：保育士試験受けるのは初めての体験でしたが、これをきっかけに「児童家庭福祉」(科目)の理解を深めることができ、</p>
理論的メモ	<ul style="list-style-type: none"> <li>試験を通して知識が身に付いているか確認できたと思える背景には、試験内容が学校で学んだことの一部であるという意識があると考えれば、(分析ワークシート6)と関係性があるといえる。</li> </ul>

2015 保養協【保育士養成のあり方に関する研究】 「事後アンケート」の分析  
作成日： 2016 年 3 月 8 日(火)

### 「事後アンケート」 分析ワークシート 17

概念名	試験内容に関する知識の欠如
定義	保育士試験体験後に自分自身の知識のなさを自覚する
ヴァリエーション	<p>1：今回試験を受けてみて、やはり、知識力は自分はまだあまりないと感じてしまいました</p> <p>4：試験自体は、難しく全然解けなかった。今の自分の知識の浅さを痛感した。</p> <p>6：保育士試験は知っていたが、過去問を解いたこともなかったもので、今回の体験は貴重な体験となった。試験準備として、テキストを読み返し、自分自身の不足も知ることができた。</p> <p>14：前半の試験は私的に少し難しく感じ、選択肢が簡単という意見を聞いて驚いた。</p> <p>15：今回、保育士試験を体験して、自分の知識の少なさと試験勉強をしている人の知識の多さを実感しました。なんとなくわかるけど、似た文やそれらしいことを書かれると、知識への理解が浅いため、ハッキリとした答えを出せないことがあったように感じました。授業を聞いていただけ、板書をしてるだけ、ビデオを見ているだけといった普段の勉強の姿勢がここに出でしまっただけ、ビデオを頂いて、過去問を聞いてみて、本当に自分に身についていないんだのかもかもしれません。(～だけと極たんに書きましたが、極たんなら例です。)</p> <p>17：お話を聞いて、過去問を聞いてみて、本当に自分に身についていないんだなと痛感しました。たった一教科だけでも感じたので、9教科となると今の私では受からないと思うし、このまま保育者として現場に立つことに不安を感じます。</p> <p>26：養成校の私は知識が不足している... 知識への自信は少ないです。</p> <p>44：「保育の心理学」を体験し、授業で学んだことが沢山抜けていることに気がつきました。</p> <p>51：改めて試験を受けたことで、学びが浅かった分野が自分で明らかになった。</p>
理論的メモ	・ 知識不足を感じ、現場に出るまでの課題を再認識する記述が多い。

2015 保養協【保育士養成のあり方に関する研究】 「事後アンケート」の分析  
作成日： 2016 年 3 月 8 日(火)

### 「事後アンケート」 分析ワークシート 18

概念名	グループワーク、グループディスカッションが有意義だった(仲間)
定義	保育士という同じ夢を目指す仲間と意見を交わせたことは貴重な経験となり、仲間の大切さを感じた
ヴァリエーション	<p>12：また、みんな保育士を志す者同士で、保育のことや保育士という資格について意見を交わすことができ、とても貴重な経験となりました。</p> <p>17：同じ夢を目指す仲間がいることは、今後の保育者としての生活の中で必ず大切な存在になると思います。大事にしていきたいです。</p>
理論的メモ	・ ワークシート15は、グループディスカッションが有意義だったということの分類である。定義名が1,2,3,4あり、分けた。

## 「事後アンケート」分析ワークシート 19

概念名	グループワーク、グループディスカッションが有意義だった（自由な発言）
定義	グループで意見を出し合うことがとても勉強になり貴重な経験になった
ヴァリエーション	<p>1：グループディスカッションでは、自分の思っていること、保育についての考え方、これからの保育士資格についてのことを、みんなで議論したことにより、改めて、どうしていいのかわか、そして、みなさんの熱い思いから、保育士として、これから働くにあたり、さらに楽しくなってきました。このようにみんなで議論することによって、保育士について考える機会があるので、もっとも話していきたいと思いました。</p> <p>2：グループでディスカッションをしている間、それぞれが発言が絶えず、有意義な時間を過ごせたと思います。自分が思っていることを相手に伝えることは私たち大人でも難しいと感じることもありました。だから保育現場で子どもと関わるのに、いかに「伝わる言葉」が難しいのかわかりました。自分にとっても良い学びになりましたし、メンバーのみんなの保育に対する思いや考え方も知れて、参加できて嬉しかったです。これから数カ月後には、社会人として働くのですが、このようなコミュニケーション力はとても重要でこれからも大切にしていきたいです。</p> <p>7：試験をうけることが今回の一番のメインだと思っていたが、その後のディスカッションが一番大きかったんだなと思った。テストを受けたことで、普段話すことのないとても内容の濃いディスカッションに発展して勉強になった。同じ目標を持った、近々同業者になる人たちと、1つの話題についてこんなにも沢山話すことができたのは、すごいと思うし、良い機会だったと思う。また、初対面にも関わらず、みんな自分の意見をしっかりと発言できていて、話も盛り上がったし、とてもたのしかった。とても充実した時間になったと思う。</p> <p>14：良い意見を聞けて非常に勉強になった。</p> <p>17：グループワークは、新しい考えにたくさん触れることができ、刺激のあるいい機会でした。</p> <p>19：また、グループディスカッションは初めこそ戸惑いや遠慮がグループ内であったものの、たくさんの意見や多角的な指摘があり、最終的には楽しく有意義な時間となりました。</p> <p>21：今日のグループディスカッションは皆さんの考えを聞く事が出来ました。</p> <p>24：他校の学生と話す機会はほとんどなかったたので良い経験になりました。ディスカッションでは他の人の色々な意見を聞くことができ良かったです。全体的に養成校の方がメリットが多いし、養成校でこれまで学んできて良かったと改めて思いました。</p> <p>27：ディスカッションもとても勉強になることができよかったです。他の学校の人たちとの関わりをもて、しげきにもなった良かったです。</p> <p>32：科目ごとにわかれていたため、他のグループではどのような意見や考えが話し合われていたのかも気になった。きつと人が違えば意見なども違ったりうし、そういった他の人の意見は貴重だし、この機会にもっと話し合ってみた</p>

	<p>いと思えた。</p> <p>37：そして他大学の保育士過程を取っている方々と意見交換することができたのは私にとっても良い経験になりました。</p> <p>50：今回参加させていただいたことで他大学の方と意見を交換し、様々な考えや思いに触れることができ、また保育士資格や保育士について考えることができました。これから保育士として現場で働く者として今回の機会は大変勉強になりました。ありがとうございます。</p>
理論的メモ	<p>・32は、他の科目を受けたグループの話も聞いてみたかったとして、グループディスカッションの意義が感じられる。</p>

2015 保業協【保育士養成のあり方に関する研究】 「事後アンケート」の分析  
作成日： 2016 年 3 月 8 日(火)

### 「事後アンケート」 分析ワークシート 20

概念名	グループワーク、グループディスカッションが有意義だった(発見・学び)
定義	<p>まとめていく難しさ、面白さを感じた</p> <p>20: メモに自分の思いを書き出して分類することで、全体の傾向を知ったり、頭の中を整理することができたこととはとても良かったです。</p> <p>28: また、グループワークで様々な人の意見を聞き、それをグループ化したり関連性を考えることで、複雑な青紙、現状があるのだと思います。対立しあうものもありましたが、それぞれの思い・理由がどちらも納得できるので、これをまとめるとなるととても難しいことだと感じました。</p> <p>35: 実際に書いたカードを模造紙に貼っていくと自分では浮かばなかった点が多くあり、自分自身の学びの場ともなった。そして同じカテゴリーに分け、関係性をみていくということが思った以上に時間がかかり大変であったが、役割を分担しながらつくっていくという経験を、いつもの大学の仲間だけでなく他大の方たちとできたことで、新しい発見や学びができ、とても貴重な時間となったと思う。</p> <p>39: 他校の学生とのグループワークを通して、様々な意見を聞いたり、他者と違う視点で考えようとしたり、それぞれの意見の関係性を考えたりすることで、試験方式の方への考え、理解も深めることができたように感じる。そして、グループの仲間と共に、試行錯誤しながら、まとめていき、一枚の関係図を完成させていくこととはとても面白い経験だった。</p> <p>43: はじめて会った他大の子とも、話し合い、同じように考えていることが分かったし、みんなであつものをつくることができてたのしかった。今回みんなで試験の在り方について、考えることができて良い経験となった。</p>
理論的メモ	

2015 保業協【保育士養成のあり方に関する研究】 「事後アンケート」の分析  
作成日： 2016 年 3 月 8 日(火)

### 「事後アンケート」 分析ワークシート 21

概念名	グループワーク、グループディスカッションが有意義だった(多様な意見・考え)
定義	<p>新たな気付きがあったり、自分の意見や考えが広がったりした</p> <p>4: 試験後のディスカッションでは、始めはどうかと思ったが、だんだんと全員が意見を言い合い様々な意見を聞くことができた。共感できる意見が多い中、自分とは違った意見を持つ人もいてとても勉強になった。保育現場に出る前に、初対面にもかかわらず保育士資格に対する意見交換ができ、自分の意見や考えの幅を広げ、違う視点から保育について考えることができて良かった。</p> <p>6: 試験後のディスカッションでは、いろいろな意見が聞け、考えを新たにしたり、気づきもあった。また初対面の人たちと一緒に作業をすすめていくことも普段できない経験がすることができた。</p> <p>8: グループディスカッションでは3つの試験を受けた人達と話し合い、本当に充実した時間でした。ただ紙にまとめるだけではなく、1人1人の意見をよく理解した上で更に一緒に考えを深めていけたのでとても勉強になりました。</p> <p>12: グループディスカッションを他の養成校の方々と行うことで、それぞれの保育士という資格に対する思いや価値観を知ることができ、今までにない学びができました。</p> <p>16: グループディスカッションを行ってみて、他の人の違った意見やみんなが共通に感じていることなどを知ることができて面白かった。養成校は阿免取得ができた、情報量が多いという自分では思いつかなかった視点を知ることができた。</p> <p>22: グループディスカッションは、あまり経験がなく、緊張しましたが、やっといううちに、他の人の考えや意見を聞くことができ、保育の学校に通っている人と、同じ質問に答えることで、"こういう考え方もあるのか"と同じ意見だ、と知ることができました。</p> <p>23: グループディスカッションでは、皆の意見や考えを聞いて、保育に関しての様々な考え方を知ることができて良かったです。</p> <p>24: カード作成では、Q1やQ4、Q5の様な今まで考えることのなかった事柄について考えたり、これまでの学生生活を振り返ることにつながりました。</p> <p>31: グループワークでは、何人もの意見をきき、自分の考え方の甘さを感じたり、新しい考え方に気がつくことができたと思います。</p> <p>33: 自分達が考えた意見を元にディスカッションをして、たくさん意見があること、同じように考える人もいれば全く違う考え方をしている人もいて、色々知ることができた。保育者として現場に出るためには、何が大切か・必要か、改めて考え直せたことで自分の意欲向上につながった。</p> <p>33: カードを作り、考えることで、今まで考えたことがなかったことや、実習なしで保育士資格とれることに対してじっくり考えることが出来た。また、みんなでカードを出し合い分類しながら話し合うことで、同じ意見、異なる意見、自分では考えが浮かばなかった意見が出てきて、学びにつながったと思</p>

	<p>う。</p> <p>37: とくに、昼食の時間から後半にかけて行われたグループワークでは様々な考えが出されました。それぞれの考えを知るのと同時に自分の中にあつた考えが少しずつ変化し、改めて考え直すきっかけにもなりました。全体を通して感じたことは、何となく考えが似ているなということでした。</p> <p>38: 特に印象的だったのは、Q4 か Q5 で「経済的に養成校に通うことが難しくても、試験ならば資格を取得できるのではないか」という考えでした。私は「絶対養成校のほうがいい」という偏った考えをもっていたことに気づき、また学校に通わせてくれている親にも感謝しなければ...と感じました。</p> <p>44: 試験後のグループワークでも、とても刺激をもらえませんでした。違う大学の初対面の人と、意見を交わすことは少し緊張しましたが、楽しむことが出来ました。同じ試験を受けても、私と似たような意見や、全く違う意見が出たことに驚きました。私が受けた科目は、特定の子どもについての事例がいくつかあり、意見がわかれました。</p> <p>51: 今回、他大の方とも意見を出し合い、養成校・試験についての考えをまとめたことで、考えがクリアになった。</p> <p>52: また、グループワークを通しては2つのことを感じた。1つ目は、自分の考えを新たに知ったことである。少し考えただけでは思い付かないことも、充分な時間と1質問3つ以上という制約があると、気付かなかつたことに気付けた。</p>
理論的メモ	<p>・ここでは、グループワークを通して、何が自分にとって有意義だったか、具体的にを明記している記述を分類した。</p>

2015 保養協【保育士養成のあり方に関する研究】「事後アンケート」の分析  
作成日：2016年3月8日(火)

## 「事後アンケート」分析ワークシート 22

概念名	今後の自分自身の課題
定義	保育士試験体験を通して、今後保育者として働く自分の課題として見えてきたこと
ヴァリエーション	<p>1: 今日、話したことや新しい視点をこれから活かしてがんばっていききたいと思います。</p> <p>12: 最後に、やっぱり保育士という職業に誇りを持って頑張っていこうと感じました。</p> <p>39: これから保育者として保育の現場に出て、また、保育士として現場で保育をする可能性がある立場として、今回の経験も参考にしながら、よりよい保育現場をつくっていくことができるよう考えていきたいと思った。</p> <p>1: 大切な所はもう少し見直したりして、4月から現場にでたいと思います。</p> <p>4: あと2ヶ月、実際に現場で働き始める前にもう一度知識を復習し、自分のものにする必要があると感じた。</p> <p>12: また、学校の授業で学んだかな?という内容のものもあったので、授業以外でも自主的に勉強しなければならぬなあと感じました。</p> <p>15: そういったことを痛感すると共に、試験の問題を解いて、学びたい幅が広がったなと思います。様々な事業があることや法律など、改めて勉強しようと感じました。</p> <p>26: それを今回さらに感じる事ができたので、実際に現場に出る前により知識を身に付けられるように努力したいです。</p> <p>30: 最後に、保育士資格取得のための勉強だけではなと、今後も保育について学び続けることが大切だと感じ、身の引き締まる思いだった。</p> <p>39: 実際に、試験を一科目だけでも受験してみたことで、自分の今までの単位取得の過程とのギャップや、自分自身の現在身についている専門性などに少しばかり不安を覚えたことも踏まえ、養成校での実習経験などにおこることなく、改めて気をひききめて学びの姿勢を保っていかなければならないなと感じた。</p> <p>44: 就職前に見直すことが出来てよかったです。足りないと感じたところは、これから就職までの間に確認し、仕事に生かします。</p> <p>47: 今回、子どもの保健について試験勉強をして、このような科目は現場に出てからの学びが重要であると改めて感じることができ、4月から保育者として働くにあたり、日々学んでいかなければならないと気付くことができました。</p> <p>53: 養成校でも試験でも、知識も大切であるけど実践して経験を積むことが保育において重要であると思うため、資格を取って働くための勉強で終わるのではなく、働きながらも学んで経験を積んでいけば良いのかなと思います。</p> <p>23: 今回の経験を通して、専門性と技術の高い素敵な保育士になりたいと思います</p>

	<p>した。</p> <p>46：基礎的な知識＋実践力のある保育士にならなければと改めて感じました。4月から現場に出るので、知識を覚えなおしたりとできていることをしていきたいと今日の試験体験を通して思いました。</p>
理論的メモ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後現場に出る自分自身に照らし合わせて、感想の文末に書いている傾向があらった。</li> <li>・漠然と頑張りたいという記述 (1, 12, 39)</li> <li>・知識編 (1, 4, 12, 15, 26, 30, 39, 44, 47, 53)</li> <li>・知識と技術 (23, 46)</li> </ul>

## 2015 保養協【保育士養成のあり方に関する研究】 「事後アンケート」の分析

作成日： 2016 年 3 月 8 日(火)

## 「事後アンケート」 分析ワークシート 23

概念名	養成校に通ったことに関する肯定感
定義	試験方式を体験した後、養成校の良さを再認識する
ヴァリエーション	<p>24：全体的に養成校の方がメリツトが多いし、養成校でこれまで学んできて良かったと改めて思いました。</p> <p>25：私は養成校方式を選択し、4年間大学に通ったのですが、後悔はしていません。この4年間で経験したこと、考えたことは、全て自分の糧になります。</p> <p>42：今回の経験も踏まえて、私は養成校での取得を選択するだろうと思った。</p> <p>46：日の保育士試験体験やディスカッションをしてみて、改めて、私は養成校で学ぶことができて良かったと感じました。</p> <p>53：養成校に通うか、試験を受けるか、どちらかの方法もメリツトデメリットがあります。やはり養成校に通う方がメリツトは大きいのかと思います。私自身、大学に進学して良かったと感じています。</p> <p>3：今回の保育士試験体験は実際の試験よりも限定的なものだと思います。上智社専は社会人を経験し、その中で保育士試験を受けたことのある人も来ているので、試験のことは割と身近に聞いていました。仕事をしながらなかなか受からない、あきらめようかな...という人や、社会教育主事の国家資格を取りながら同時に取れた人、いろいろな人がいると思います。私自身は養成校に通いながら資格を取ることに關して、卒業間近の今、本当にこちらを選んで良かったなと思います。(試験で取る、という発想や選択肢はありませんでした)。何故なら、資格に対する知識の他に、経験、実践を積めただけでなく、保育に關する人生観や人間性についても学校で学ぶなかで身に付けることが出来たと思うからです。</p> <p>9：また、夜間の学校で、昼に働きながら実務経験を積み、夜に学ぶことのできる上智社会福祉専門学校に入って良かったな、と思うことができました。13：私は社会人入試で白梅短大に入り、2年間学んできました。白梅への受験を決める前は、試験を受けることも考えたことありませんでした。ただ、私は自分の性格上、1人で参考書等を使って勉強し続けることが上手く出来ず、また実践経験がまったくないまま現場にでる不安感もあり、学校へ通うことになりました。</p> <p>13：私は社会人入試で白梅短大に入り、2年間学んできました。白梅への受験を決める前は、試験を受けることも考えたことありませんでした。ただ、私は自分の性格上、1人で参考書等を使って勉強し続けることが上手く出来ず、また実践経験がまったくないまま現場にでる不安感もあり、学校へ通うことになりました。養成校に通い、感じたことは、私は子どもに対してどんな願いを持ってかわつていきたいのだろう・どのような援助をしていきたいのだろう・私の保育観で何だろう...と考える時が沢山あったということです。このことにより、子どもに対すかかわり方・思い・願い・保育する立場としてのあり方について、より思いが強くなったと感じています。また、より深い学びに繋がったきっかけは、実習での体験があったからでした。保育所だけでなく幼稚園・児童養護施設・障害者施設</p>

	<p>へ行くことでより深い学びになったと実感しています。とても大変だったけれど、行っただけからそこ多くの学びとなりました。普通に試験を受けただけでは、この考え方はできなかつたと感じています。たしかに試験合格は大変だけけれど、保 育者としての知識を深めるために学ぶというよりは、合格するために必死に勉強 することが現状ではあるのでは...?と強く思いました。また、友だちと保育につ いて話し意見を交わす機会があることは、より考えを深められることに繋がりが 良いと感じています。</p> <p>26：他校の学生の方々と交流することやディスカッションすることで、実習での 貴重な経験の重み、単位を修得するために努力したことなどを振り返り、試験 方式と養成校方式では、後者の方が良い、「専門性が高い」と感じました。</p> <p>29：本日のように他大学の学生の方と保育について考える機会が初めて で、とても刺激をもらいました。在学中にこういう機会がもつとたくさんあれ ば良かったとも思いました。やはり、1人で知識だけを詰め込む勉強をこなす よりも考えた話し合ったり実習をしたりと、多様な経験を通して学びを深め られる養成校方式で資格がとれて良かったと私は思います。</p> <p>33：今回実際に試験を受けてみて、試験の大変さ、試験を受けることで身につく 知識量の多さとはとても感じられたけれど、養成校での試験の必要さも改めて感じ、 養成校が良いという考えは変わらなかった。</p> <p>47：養成校で保育士資格を取得する身として、養成校にして良かったと思う点 は、共に学ぶ仲間がいたことや実習や部活を通して実践的な部分を学べたこと です。この点においては一人で試験勉強をするよりも良いのではないかと思います。</p>
理論的メモ	<ul style="list-style-type: none"> <li>試験方式を体験した上で、養成校が良い、養成校で良かったという記述である。</li> <li>自分にとって良かったというシンプルな記述 (24, 25, 37, 42, 46, 53)</li> <li>ディスカッション、実習などがあるから自分にとって良かったという記述 (3, 9, 13, 26, 29, 33, 47)</li> <li>上智社会福祉専門学校に通っている3, 9に関しては、自身が社会人学生だった り、身近に社会人学生が居ること、試験方式について、まったく無知 ではない様子が感じられる。特に9はどちらの方式も知っていないながら、養成校 方式を選んだことが感じられる。</li> <li>13は、試験方式も検討したが、養成校方式を選んだ理由が書かれていた。そ して、結果的に良かったと記述がある。</li> <li>分析ワークシート36に類似している。</li> </ul>

2015 保業協【保育士養成のあり方に関する研究】「事後アンケート」の分析  
作成日：2016年3月8日(火)

## 「事後アンケート」分析ワークシート24

概念名	養成校で得られる学び
定義	養成校では試験だけでは得られない学びがある
ヴァリエーション	<p>16：保育士資格の取得は知識だけではだめで、実践や自分の保育観を考えること が大切であり、養成校で取得することの良さを改めて感じた。</p> <p>34：また、養成校では、周りの意見を聞く機会があったり、現場に行ったりする ため、自分の保育観をしっかりと考え、作りあげていけるなど改めて考え た。</p> <p>46：養成校では、学んだ知識を生かした実習があり、実習を通してさらに学びを 深めることができます。</p> <p>46：実習だけではなく、同じ大学の友達からや教授など様々な人と関わること で自分では考えつかないうようなことを学ぶことができ、考えの幅が広がって くと思います。これは、「孤独な勉強・知識のつめ込み」になってしまいが ちな保育士試験からは得られないことだと思います。私は、養成校で学ぶこ とでより専門性の高い保育士になることができるのではないかと思います。</p> <p>18：今回の様な、人と意見交換しながらの学びができることが、養成校のメリッ トだと思います。</p> <p>29：現場に出て経験を積んだり、本日のワークのように先生方や友だちの考えを 指す段階にやはり必要なのではないかかと思えました。</p> <p>48：改めて養成校での人とのディスカッションの良さや、心理学等の様々な角度 からの学びの良さに気づきました。</p>
理論的メモ	<ul style="list-style-type: none"> <li>養成校ならではの良さを改めて感じて感じたという記述になっている。</li> <li>分析ワークシート17との違いは、「自分の選択」に触れるのではなく、「客観 的に判断して」養成校ならではの得られる学びがあり、それが保育士になるには 必要だということに記述している。</li> <li>具体的には、実習からの学び (16, 34, 46)、孤独な知識の詰め込みでは得られな い学び (46)、ディスカッション(養成校での)等の考えの広がり、深まり (18, 29, 48) などである。</li> </ul>

2015 保業協【保育士養成のあり方に関する研究】 「事後アンケート」の分析  
作成日：2016年3月8日(火)

## 「事後アンケート」分析ワークシート 25

概念名 定義	養成校方式、試験方式どちらが良いとも言えない 養成校方式と試験方式はどちらにもメリットデメリットがあるため、一概にどちらが良いとは言えない
ヴァリエーション	<p>9：今までは、学校に通って保育士になる、という考えしかなかったもので、試験を受けてみて、試験方式も良かったかとも思いました。試験の内容については、ディスカッションでも話しましたが、良い所があったり、悪い所があったりだと思います。学校でも試験でもそれぞれにメリットデメリットがあることを共有できたので、これから保育士を取りたいと考えている人がいると、その人のライフスタイルとか、考え方とかで、どちらで取るのかえらびやすいと思います。</p> <p>11：養成校と試験、どちらが良いとは言えないが、どちらを経験資格をとつても同じように学べるように、子どもの育ちを保障できるようになれば良いと思う。</p> <p>28：これから現場で保育者として働きますが、子どもにとつてはどのような過程で保育者になっているのかは関係ありません。保育者になったら子どもとしっかり向き合っって子どもの育ちを支えていくことが大切だと思います。</p> <p>29：どちらが良い・悪いとは言いませんが、このように考えられる機会を与えて頂けて良かったです。</p> <p>31：保育士資格を取得する為に養成校と試験方法の2種類があり、それぞれメリットデメリットがありました。今回のグループワークをうけ、取得する過程は、個人の状況に合った方法で良いのではないかと思いました。</p> <p>36：養成校での資格取得と試験方式での資格取得、どちらが決定的に良いということはないと思う。</p> <p>41：自分が養成校に通っているため、試験方式を取る人の気持ちや実態が見えにくかったが、実際の試験と同じような経験を想像すると保育士資格を取得するときの意気込みは違うところがあるのだと感じた。養成校に通う人は大学に行きたい、子どもが好きだから、などと様々な理由があるのだと思うが、保育士試験を受験する人は「保育士になりたい」という1つの理由だけだと考えた。養成校へ行っても他の業界に進路を決める人がいるからである。</p> <p>42：しかし、このように多様な方法であるからこそ、様々な状況の人が自分の意思によって取得することができるかと考えると、どちらが良いとは言えないというところも感じた。</p> <p>42：どちらにもメリット、デメリットがあるということをきちんと理解して、自分の進む道を決めなければならぬ。</p> <p>47：保育士試験を受けるという選択肢がなかったため、今までは全ての科目について勉強し、合格しなければいけないのは大変そうだな、でも実習がなくて保育士になれるのか、という漠然とした印象しか持っていませんでした。しかし、今回の体験を通して、養成校と試験のそれぞれのメリット・デメリットがあることを強く感じました。正直、養成校では、学んだ知識が期末試験後にもすっかり残っていると自信は全く何度も復習をして頭に入れておく必要はなかったと感じます。その点で試験方式では資格を取得するために幅広く</p>

<p>い知識を学ぶが、応用できるのかという点で不安があるように思います。</p> <p>52：2つ目は、自分と異なる周りの考え方が面白かったことである。相違点と共通点に類似なことが書かれていて、視点を変えると逆になるとわかった。メリットとデメリットは紙一重ということにも繋がる。</p> <p>53：学び方に違いがあっても、知識技術を活かすのか、忘れるのかは、自分自身次第だと思いました。</p>	<p>理論的メモ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループワークなどを通して、メリット・デメリットについて検討したこと</li> <li>・11と28は、どちらが良いとは言えないという意見が出た。</li> <li>・9、31は、試験方式、養成校方式、どちらにもメリット・デメリットがあるのだから、保育士資格を取得したい人は、個人のライフスタイルに合わせて選択できる前向きな記述であった。42,53は、どちらが良いとは言えないので、結局自分次第、自分で選択することが大切だということに特徴がある。</li> </ul>
--	---



2015 保養協【保育士養成のあり方に関する研究】「事後アンケート」の分析  
作成日： 2016 年 3 月 8 日(火)

### 「事後アンケート」 分析ワークシート 26

概念名	養成校方式、試験方式 どちらにも足りないものがある
定義	養成校方式と試験方式にはどちらにも足りないものがある
ヴァリエーション	32：また、デメリット・メリットを考えてみただで、お互いが相互的に何か足りないものがあると感じた。 36：実際に今日、養成校を出ていても知識の不足、偏りが生じてしまうというのを感じた。足りない部分は、どちらにも出てくるのではないかと思う。保育士資格の取得しやすさ、また一方で保育士になるものの中身、考えや学びの深まり、実際に現場に出て働くことなど、様々な面から考えていく必要がある、とても難しい問題であると感じた。
理論的メモ	・分析ワークシート20の「養成方式と試験方式、どちらが良いとは言えない」と類似しているが、ここでは、どちらにも足りないものがある点として点に違いがある。

2015 保養協【保育士養成のあり方に関する研究】「事後アンケート」の分析  
作成日： 2016 年 3 月 8 日(火)

### 「事後アンケート」 分析ワークシート 27

概念名	保育の質の向上には、知識・実践どちらも必要
定義	保育の質を上げるためには、知識と実践をバランス良く身に付けていることが大切
ヴァリエーション	20：ですが、養成校の中にも、学生の意識の高さにバラつきがあるのが事実です。試験方式の良さ、養成校の良さは今日のディスプレイションにもあったように様々なですが、保育の質を上げるためには必要なことは知識、実践どちらも偏りなく向上心をもった保育者が現場に多く出ることが、何よりも大切なことだとも思いました。また、今日はそのことに気がつく良いきっかけとなったと思います。 26：しかし、今、自分1人で冷静に考えると、試験を受けて合格をして資格を得る方が、知識面での専門性は高いかもしれないと思います。知識だけあれば良い保育をすることができるのかと考えれば、そうではないと思います。 30：一方で、知識より実技が重要で、知識は必要なのか？というような意見も出たことには驚いた。確かに、目の前の子どもとかかわる、保育をするという点では、実技の方が目に見えて役立ち、成果も出やすいが、自身の保育や園全体の保育など、より俯瞰して保育を振り返る時に、試験で出題されるような知識は重要になってくると考える。目の前の子どもや保育に囚われすぎない視点も忘れないようにしたいと思った。 31：保育はある程度の知識は必要ですが、現場での経験も必要なことであると考えます。保育について総合的に学び、実習で保育現場の経験をするのは、保育士として現場に出る上で、通るべきことだと思います。 32：保育者になることは知識量なのか現場での実技量なのか、議論を繰り返していったが、私が思うに両方ともほどよく必要になっていないかと思う。えんぴつ2本より、1本シャープペンの方が助かります。 41：反対に養成校では知識が身に付かないといったデメリットの意見も。この両方のメリットやデメリットが協働してより良い保育をすることが一番良い道なのではないかと考える。 43：そうは思ったが、今回試験を受け、グループで話し合うことで、養成校方式のあり方と試験方式のあり方を考えることができた。養成校では、授業や実習の環境が保障されているが、長い時間をかけて様々なことを学んでいくので、忘れてしまう知識も多い。しかし、試験だと短時間で様々な知識が身に付けられ、現場で生かせることもあると思う。また、子どもと関わる経験では、やはり養成校の方が多い。この2つの方法をうまく組み合わせられれば、より質の高い保育者になれるのではないだろうか考える。 48：知識もまだまだ勉強し続けていくことが大切ですが、同時に実践を重んじていくことも重要になってくると考えます。

- ・32の後半の「えんびつ2本よりシャーパーペン1本の方が助かります」が、知識がいっぱいあるよりもパフォーマンスが良い方が良いという例えなのか、試験体験当日に配られた筆記用具の希望なのか読み取れなかった。
- ・分析ワークシート20と類似している

作成日：2016年3月8日(火)

## 「事後アンケート」分析ワークシート28

概念名	保育士養成は一定の質が保たれている
定義	大学は違っても厚労省で定められているから養成校を出た保育士の質は保たれていると今回の体験で感じた
ヴァリエーション	30：今回、他の学生と時間をかけて話せたことはよい経験になったと思う。話し合いをしていて、たとえ大学は違っても授業の内容などは大きく変わらないうのだからと感じた。厚労省で定められていることで、保育士の質はある程度は保たれているのだからと感じた。
理論的メモ	・30の記述をした学生は、ディスカッションで他大学の同じ保育過程に通う学生と話し、自分と似ていると感じたのかもしれない。

## 「事後アンケート」 分析ワークシート 29

概念名	養成校卒業後、資格取得試験をうけることについて賛成
定義	養成校卒業後、資格取得試験をうけることについて賛成、その中のメリットとデメリット
ヴァリエーション	<p>18：保育士資格を取得するにあたり、試験を実施することについては、皆が（多くの人）が賛成していた。その理由は、試験の実施は、養成校と試験方式の良いところが合わさったかたちになるからであると、私も考えた。</p> <p>19：この知識を試験受験者には求めるのに、養成校出身者には数字という形では求められない点に疑問を感じます。私は国家試験を養成校にも導入して他の国家資格と同等にすべきだと思います。実習や生の先生方の講義を聞き、さらにその集大成として学びを出す国家試験を受ける、この流れを保育士もすべきです。ただ入学さえしてしまえばそれでよいという考えもなくなり、より授業や経験を大切にすることは可能です。そして、社会的な地位も今とは少し違ったものになったり、すぐに辞めてしまいう潜在保育士の問題も改善されたりすると思います。そういうった（そういった？）面も踏まえ、これからこの制度を見直していく必要があると思います。</p> <p>34：「養成校じゃないとテストが不安」という意見もあったが、私は、保育士資格も他の国家資格と同じように、最後に試験を受けるべきなのではないかと考える。振り返りの勉強をして、試験を受けたら、養成校だからといって知識が極端に低いということはないのではいかと、試験を体験してみても感じた。</p> <p>37：保育士資格を、養成校を卒業した後を受験して得るという方式については、養成校連学者が減少するのではないかとという心配がある一方で、確実に保育士の質を高めるには効果的だろうと考えられます。</p> <p>47：今回、参加させていただいて、それぞれの良さがあるとわかり、質問項目のQ6にもありましたが、他の職種と同じように養成校と卒業後、試験を受けるというの案なのかなと思います。これをするということによって保育士として働こうという人が減ってしまう可能性もあると思うので、質も数も上がるためにはどうすればよいかを考えなければいけないと思います。</p> <p>49：しかし、養成校を卒業してからでないで保育士の試験が受けられないような方式にしても、保育士自体の知識はより深くなるかもしれないませんが、子育て経験がある方が資格の取得を諦めてしまったり、学生もすぐに現場にでられないからと諦めてしまいう人が出てくるのではないかとも思います。</p>

理論的メモ	賛成意見に多様性あり 養成校方式、試験方式の良いところが合わさる(18) 学生の質も向上(18) 他の国家資格と同等にすべき(19) 地位の向上(19) 知識、質の向上(34, 37) しかし、受験する人が減るかもしれない意見もある。
-------	---

## 「事後アンケート」 分析ワークシート 30

概念名	資格取得方法再考の提案
定義	資格取得方法について考え直す必要がある
ヴァリエーション	<p>3：最近無資格でも保育が出来るとか、そんなうわさも聞きますが、保育についての専門知識を持った、人間性もしっかりした保育士がたくさん世に出られるような資格取得方法、そしてバックアップがあつて欲しいなあ、と行政に対して、思います。</p> <p>11：保育士不足の今、資格を取得しやすい環境を作ることより、働いている人への待遇を改善した方が絶対だと思う。資格のレベルを下げることは質の低下につながるし、人数を確保するだけ、圖をつくるだけでは保育の質や子どもの育ちの保障もどうなのだろう。待遇が悪いことが保育士不足の原因だと思う。資格が取得しにくくなると、なりたいたいと思う人も減るだろうが質はあがるかもしれないと考えたと、難しい。</p> <p>16：また、保育士不足・保育士の質の向上が求められている世の中で、資格取得の方法はよく検討する必要があると実感した。</p> <p>22：問題を簡単にすれば良いわけではないけれど、保育士不足の今、もう少し、問題方法や実践について、考えていく必要があるのかかもしれないと思ってしまう。</p> <p>23：現在、保育士不足が問題となっているため、多くの保育士が必要となってくると思いますが、それと同時に保育に関する質や専門性・技術の低さも問題として拳がつてくると思うので、試験方式での免許取得に関しては、今後見直していく必要があると強く思いました。</p> <p>31：しかし、保育現場や育児経験の有無によって資格のレベルを変えすることも必要なのではないでしょうか。同じように働くのではなく、幼稚園教諭免許のように第1種・第2種とわけると、ひとつの方法だと思えます。</p> <p>40：「ただ、資格をとろう」という意識なのか、「保育士になろう」という意識なのかで、試験への取りくみ方は違ってくると思うが、保育士として働く中で、必ずしも必要ではないのでは？と思えるレベルの問題は難しすぎてしまいい、合格率を下げていたり、本当に子どもが好きで、保育者になりたい人の意欲を落としてしまうのでは、と感じた。</p> <p>49：保育士資格の取得にあたっては考えるべき点が多くあり、どうしていくのが良いかこれからも議論を重ねていくことが大切なのではないかと思えました。</p> <p>50：また、それと同時に他の国家資格と同じような資格取得の方法ではないことも疑問に感じました。それはカード作成やグループワークを通して、養成校方式にも試験方式にもメリットとデメリットがあると考えられたからです。両方メリット・デメリットがあるならば、どちらの方式かという二択ではなく、違う方式も考えていかなければならないと思うからです。自身は養成校で、その学び以外の実習、ゼミなど実職での学びを多くしてきたので、その学びにおける人と人の関わりが今後保育士として働く上で生きてくると思っています。だからこそ養成校方式も含め保育士の資格の取得の仕方は考え直す必要があると感じます。</p> <p>52：私の参加は微々たるものだが、今回の調査で今後保育士を目指す人にとつ</p>

て、試験を受けやすくなり夢をかなえられる人が1人でも増えるよう心から願っている。

## 理論的メモ

- ・11は保育士の待遇について触れているので、分析ワークシート30にも近いが、資格取得方法の迷いが述べられているからこの分析ワークシートにした。
- ・50はワークシート24の他の国家資格と同じではないことに対する意見も含んでいる。

2015 保養協【保育士養成のあり方に関する研究】「事後アンケート」の分析  
作成日：2016年3月8日(火)

### 「事後アンケート」 分析ワークシート 31

概念名	資格取得方法の多様性の提案
定義	資格取得方法の多様性があってもいい
ヴァリエーション	<p>17： グループワークでも出たように、経済・時間的な理由で学校に通うことはできないが、保育者になりたいと思ってる人も多いいと思います。どちらかに一本化するのではなく、お互いの良い点を見合い補いながら、保育者になる道を聞いていきたいと思いいと思います。保育者不足で、小学校の先生など、資格を持たなくても現場に立てるようになるなどの話も聞くようになりました。それよりは試験を受けて資格を取った人々がたくさんいるのは心強いと思います。</p> <p>21： 保育士のテストは幅広い為、保育園で働きたい人等の試験問題、養護施設など入りたいたい所に分けた試験があると良いのではないかと感じました。</p>
理論的メモ	・分析ワークシート25と関連性がある。

2015 保養協【保育士養成のあり方に関する研究】「事後アンケート」の分析  
作成日：2016年3月8日(火)

### 「事後アンケート」 分析ワークシート 32

概念名	保育士資格は取得しやすい
定義	保育士資格は他の国家資格と比べて資格取得しやすくまれである。
ヴァリエーション	<p>9：今回個人的に思ったのは、どちらにしても保育士は、わりと取りやすい資格だなと思いいました。だからお金が安いのかどうか、命をあずかるのに安すぎとか、ちがうことまで考えてしまいいました。</p> <p>36：保育士資格は他の国家資格と比べて、養成校を卒業すると同時に資格が取得できるといいう面で、まれなものである。</p>
理論的メモ	<p>・9は、保育士は子どもの命も預かるのに、給与が安いことについても述べている。</p> <p>・分析ワークシート7-3のヴァリエーション3と反対の意見</p>

2015 保養協【保育士養成のあり方に関する研究】 「事後アンケート」の分析  
作成日：2016年3月8日(火)

### 「事後アンケート」 分析ワークシート 33

概念名	合格率、合格ボーダーライン正答率に対する気づき
定義	合格者2割、合格ボーダーライン6割が気になる
ヴァリエーション	11：また、合格者は2割だが、合格のボーダーラインが6割というの 気になった。
理論的メモ	・11の記述は、前後の文脈にかかってこないため、単独の分析ワークシートと した

2015 保養協【保育士養成のあり方に関する研究】 「事後アンケート」の分析  
作成日：2016年3月8日(火)

### 「事後アンケート」 分析ワークシート 34

概念名	保育士の労働環境の改善希望
定義	今回の話し合いにより保育士労働環境が改善することへの希望
ヴァリエーション	1：今回の話し合いにより、今後保育士の労働環境や職場環境がもっと もっと良くなっただけだと思いません。
理論的メモ	

2015 保養協【保育士養成のあり方に関する研究】「事後アンケート」の分析  
作成日：2016年3月8日(火)

### 「事後アンケート」 分析ワークシート 35

概念名	試験方式選択者への疑問
定義	試験を選択し受験する人への疑問
ヴァリエーション	12：正直、保育士が不足しているという現状において、わざわざこんな難しい試験を受けてまで保育士の資格を取得しようとする人がいるのかなあと感じました。
理論的Xモ	

2015 保養協【保育士養成のあり方に関する研究】「事後アンケート」の分析  
作成日：2016年3月8日(火)

### 「事後アンケート」 分析ワークシート 36

概念名	試験方式、養成校方式それぞれ自身についている力や質の差異
定義	試験方式は知識面に強く、養成校は実習により実践面に強い
ヴァリエーション	6：方式が違いうことで、同資格を持ちながらも、質にばらつきが出るのではないか。 17：試験の内容も「これって必要なの？」「勉強したことより深い！」「子どもにも関係してる？」と思う点もあり、知っていればもちろん良いですが、もつと実践的な面で大切なことがあると思います。今のままだと、養成校から来る保育者は実践面・経験、試験の保育者は、知識・理解といったように両極端だと強く感じます。この人たちが同じ現場に立つことで、お互いに学び合える点もあると思います。一人の保育者が両面を持っていければもつと良いと思います。だからこそ、養成校組は、1年生の前期に学んだことなんて、もう一度振り返る必要があるし、試験組は、もつと実習的な機会を作らなければいけないと考えます。 30：日常的に授業で聞いてきた内容だったけど、試験勉強として得る知識と考えるとその科目や内容への意識や感覚は異なるのだらうと考えた。養成校の学生は、保育士になるにあたり、試験で多く問われる知識だけでは足りず、むしろ現場では実技など別の能力が求められていると考えている人が多いように感じた。一方で、試験方式で保育士資格を持つ人は、知識は重要だとする人も多いのだらうと考える。 34：今回、初めて保育士試験を解くということ、4年間勉強したものの、1年生の頃のものが出題されたらどうしようという不安などもあり、あまり自信がなかった。しかし、過去問を見てみたり、解いてみたりすると、4年間、自然と耳にしていた内容であるものも多く、試験方式の人とかなり差がついているのだらうなと思っていたが、養成校でも自然と力がついているのだと感じた。 37：養成校方式も試験方式も、得られる資格は同じですが、中身、質は違ってくるのではないだろうか。 42：今回、試験を受けてみて感じたことは、私たち養成校の人たちの知識は偏りがあることであつた。もちろん、自ら学ぼうとすればカバーできる部分ではあるが、担当教員の重要だと考える部分が厚くやり、触れない部分に対する知識が少ない。その点は試験方式の人の方が全体をまんべんなく知っていないければ取得にはつながらないため、知識面は強いのではないか。 45：養成校で、資格取得のために必要となる力と、試験に合格するために必要となる力は、若干違っているように感じました(大学でも、単位取得のために“試験”を受けることはありましたが、本日体験したような、選択方式のものではなく、記述式のものが多かつたように思います。) 51：しかし、そういった経験がないまま、勉強だけで保育士になつて現場で働いたら、その人自身も他の養成校で学んできたことを現場で学び始めるので、大変であるが、一緒に働いている保育士も子どももや仕事で精一杯なのに、その人の指導・フォローをしないでいけないとなると、現場も酷ただしくなつてしまふ。結果、子どもへの配慮が行き届きづらくなつてしまふかと思つと、全体の保育の質が下がつてしまふことにもつながらないかと思

	う。
理論的メモ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分析ワークシート33に関連している。</li> <li>・51は他の記述に比べて、保育現場でのことを想定した意見をのべている。</li> </ul>

## 「事後アンケート」分析ワークシート 37

概念名	実習の有無による身につく内容の差
定義	実習の有無によって身につく内容に差がある
ヴァリエーション	<p>6：特に実習なしでもよいという試験方式は疑問が残る。もちろん限られた経験しか実習ではできないが、その体験のあるなしの違いは大きいと、ディスカッションでも出た。</p> <p>11：ただ一つ言えることは、試験方式では実習経験がないというのはすごく大きな差があると思うことだ。</p> <p>18：試験が難しかった。試験は知識重視であり、養成校を卒業して経験的な学びを隔た人との間には、同じ保育士でありながら質的な差異が生じるのではないかとも思う。</p>
理論的メモ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分析ワークシート32に関連性がある。</li> </ul>



2015 保養協【保育士養成のあり方に関する研究】 「事後アンケート」の分析  
作成日：2016年3月8日(火)

### 「事後アンケート」 分析ワークシート 38

概念名	資格取得方法の違いに対する疑問、違和感、不満
定義	同じ保育士資格でも違う方式で取得できることへの疑問、違和感、不満
ヴァリエーション	<p>2：今日、試験を受けてみて暗記すれば解ける問題もあったので、余計に養成校に通っている私からすれば、ずるいと思ってしまう。</p> <p>5：最初、試験方式について話を聞いたときは、試験を受け、合格するだけで保育士になれてしまうことに驚いたし、本当に試験を受けるだけで良いのかと思いました。</p> <p>6：試験、ディスカッションを終えて思ったことは、同じ保育士資格を得るために、異なる方式で同資格が取れるのかという疑問がわいた。</p> <p>10：ペーパー試験だけで国家資格（保育士資格）が得られること、本当にそれでもいいのか不安になった。</p> <p>40：しかし一方で、我々養成校出身者が4年間の実践と座学から学ぶ知識を、1度の試験で問うとなると、この程度の内容が必要になるのだろうかとも思う。問題を解きながら、その法律の背景や子どもを想像することが出来た。試験方式で保育士になる方々は、養成校の学生が実習等で得る子どもへの想いや保育感を、問題を解き解説を読むことで得ているのだと推測できた。</p> <p>とはいえ、養成校を選んで入学し、学んできた身としてはやはり試験方式に対する疑問や違和感はまだ多く残っている。</p> <p>42：同じ保育士の資格取得の方法ではあるけれど、自身が全く違うため、少し不思議な感覚もあった。</p> <p>45：養成校で資格取得を目指してきましたが、その立場として“保育士試験”を体験してみて、同じ“保育士資格”を取得するための方法であると思うと、不思議な感覚でした。</p> <p>50：今回保育士試験を体験し、あらためて養成校での実践に特化した学びの重要性を感じました。試験方式であっても養成校方式であっても同じ資格として保育士資格をとり、現場で働いてしまうことに対しての違和感も感じました。</p>
理論的メモ	・疑問、違和感、不満だけでなく不思議な感覚を持った意見もある(42, 45)

2015 保養協【保育士養成のあり方に関する研究】 「事後アンケート」の分析  
作成日：2016年3月8日(火)

### 「事後アンケート」 分析ワークシート 39

概念名	養成校での講義と実習結びつき
定義	実習に行ったら講義の内容と経験が結びついた学びを感じる
ヴァリエーション	<p>8：私は養成校で2年間学んだ上で試験を受けたので実践と結びつけて考えることができましたが、現場での経験が全くない人の場合は同じ問題を同じように解いているだけでは単なる知識になってしまうので、子どもを保育する上でどのような場面で必要になってくるのかを考え結びつけながら学んでいくことが大切であると考えている。</p> <p>34：実際に実習に行ったからこそ、講義での内容と経験が結びついたということも多かったです4年間を振り返ると感じる。</p> <p>43：その中でも、試験をすることで、子どもの保健や栄養の知識はすぐに生かせるように思った。しかし、心理学や実習理論などは、知識だけでは補えない部分も多いような気がした。子どもとかわかって、保育士の姿を見たり、話をきくことで、はじめて理解できることや、知識と実践が結びつくと思うからだ。養成校では実習という短い期間ではあるが、その経験があるから学んだり、感じたりすることが、多いし私自身そうであった。何らかの方法で子どもとかわかわる機会が必要だと思った。</p>
理論的メモ	・43は試験科目の内容によっては、試験の知識が現場で生かせることにも触れている。

## 「事後アンケート」 分析ワークシート 40

概念名	自身が養成校の学生だから感じる養成校の優位点
定義	養成校の学生だから養成校のほうがいいと偏った見方をする
ヴァリエーション	<p>33：具体的に考えていくと、自分が養成校ということも多く出てきた。</p> <p>35：また、私自身が「養成校方式」ということもあり、考えが養成校のメリットに偏るようにも感じた。</p> <p>36：保育士試験の一部を受けてみて、またその後グループワークやカード作成を通して、自分の考えが偏ったものであることを感じた。自分自身は養成校で4年間学んできており、試験方式で資格を取得するということが想像でしか分かっていない。養成校でのメリットやデメリット、実情について分かっている人も、試験方式のそれらを考えることは難しかった。試験に受ける人は様々であり、私の考えが及んでいないメリットやデメリットがあるのだから感じるが、どうしても養成校での学びを肯定的に考えている自分がいるということに気づけた。</p> <p>39：養成校の学生として、一科目受験を体験したとはいえ、試験方式による資格取得を想定して比較するのは難しかった。また、自分自身が養成校の学生であることで、養成校の方にメリットや優位点を多く感じていたが、</p> <p>45：また、試験を体験した後に、体験を通して考えたことを書き出してみた時に、私自身が養成校に所属しているため、考えにも偏りがあつたように思いました。</p>
理論的メモ	<ul style="list-style-type: none"> <li>分析ワークシート37との関連しているが、こちらは、今回の試験体験の学生視点の限界については触れていない。</li> <li>また、自身の偏見を自覚している。</li> </ul>

## 「事後アンケート」 分析ワークシート 41

概念名	養成校の学生として今回の試験体験の視点の限界（対 試験方式）
定義	自身とは対峙する試験方式の人の考えが気になる。
ヴァリエーション	<p>18：グループディスカッションを通して感じて感じたことは、皆の価値観や感じていることが、かなり共通していたということ。やはり、試験方式ではなく、養成校を選んだ者の集まりだからか、養成校方式に肯定的な意見が全体的に多かった。試験方式の人達と語り合う機会があつたとしたら、それも興味深そうですね。</p> <p>21：養成校の人が集まったのでその良さを話し合う事が出来ましたが、試験方式の方はどう思っているのかが気になりました。</p> <p>30：今回の調査の主旨とは異なるかもしれないが、試験方式で保育士資格を取得した人の話も聞いてみたいと感じた。質問項目で、養成校方式と試験方式を比べる内容の回答が想像になってしまい、内容に偏りが出たものでないかと不安になってしまった。試験方式の回答もあつたことで、結果が変わる可能性もあると思つた。</p> <p>32：養成校方式が当たり前のようになつてきたが、試験方式もあるし、それによって受かつた人がどのようになつて働いていくのか知りたくなつた。</p> <p>35：「試験方式」となると、自分と同年代の人だけではなく、子育てを終えた方なども受けていると思う。そう考えると「試験方式」のメリット・デメリットとして一概に「現場の経験がないため戸惑う」ということは言えず、想像で書いている項目があつた。</p> <p>45：本日は、養成校に所属している学生同士でのグループワークでしたが、試験方式で資格を取得した人たちから見ると、養成校での講義や実習等の学びがどのように見えるのかということも気になりました</p>
理論的メモ	<ul style="list-style-type: none"> <li>分析ワークシート36と関連しているが、この分析ワークシートは自身とは対峙する試験方式の人への考えもプラスされている。</li> </ul>

2015 保養協【保育士養成のあり方に関する研究】「事後アンケート」の分析  
作成日：2016年3月8日(火)

### 「事後アンケート」分析ワークシート 42

概念名	養成校の学生として今回の試験体験の視点の限界 (対 保育現場)
定義	学生なので実際の保育現場のことはわからないから実際の現場の声を知りたい。
ヴァリエーション	<p>39：それでも、自分はまだ学生であり、実際に、保育の現場で試験方式での資格取得者との違いを感じたことがあるわけではない。</p> <p>39：今回は、養成校の学生同士での体験で、戸惑いや、わからないことも多かったが、実際に保育現場で保育士として働く経験を持つ者同士での体験による結果は、また全く違うものになるのかもしれないなと思った。</p> <p>40：養成校の学生の意見を知ることが面白かったが、実際の現場での保育士の姿を知りたいと思う。</p> <p>48：実際、養成校出身と、試験を受けた人とは現場に出て、どのようなメリット、デメリットを感じるかについて気になりました。今回のデイスカッションでは、予想に過ぎないため、実際に働く保育者の生の声を知りたいと思いました。</p>
理論的メモ	

2015 保養協【保育士養成のあり方に関する研究】「事後アンケート」の分析  
作成日：2016年3月8日(火)

### 「事後アンケート」分析ワークシート 43

概念名	保育士試験体験の実施方法に対する意見
定義	保育士試験体験の実施方法に対する意見
ヴァリエーション	<p>7：1つだけ、作業をしている時に説明を追加されると、その時に盛り上がり過ぎていたデイスカッションが途切れてしまったので、周りに話そうとしているのかわからなくなりましたので、周りに先生もいまして、説明は1回で終わらせてほしいなと思って。</p> <p>8：“保育士試験を体験する”と聞いたときは勉強したことの成果を出さなければ、これでボロボロだったらどうしよう...と不安になっていました。朝、試験を受けた時は久しぶりにマークシートをして、試験会場の雰囲気味わって少し緊張しました。午後のグループワークでは初対面の人とデイスカッションをすると聞いて、更に緊張しました。</p> <p>14：グルーピングしたカードの関係性を考えるのに時間がかかり、難しさを感じた。エコマップの方が簡単だと感じてしまいうくらいだっただけ。矢印の太さや向きも少し考え過ぎたため、時間を有効活用できてなかったと思う。しかし、徐々に慣れてきて早く関係付けさせることができた。</p> <p>14：デイスカッションでは1時間半はとても長いと思ったら時間が少なかった。問4から一気にバツバツと決めてしまい、深く話し合ったのに話し合えず残念に思った。皆それぞれ素敵な意見を言っており、もっと深く話を聞きたかった。</p> <p>14：カードを書くのに時間がかかり、話し合いが短く感じた。もっと話し合いの時間を作ってほしいと思った。</p> <p>20：ですが、もっと自分の考えを話し合うような、入り混ざった討論だと思っていたので、分類だけで終わってしまったことは少し残念に感じています。グルーピングをして、壁に貼り出された紙を見ながら、もっとじっくりと意見を話し合えたら良かった、と思いました。</p> <p>45：また、グループワークでは、様々な意見をグループ分けすることに時間がかかってしまいました。1つ1つの意見にじっくり目を向けたり、1つ1つのカードについて、グループ内の他の人の意見を聞けるような時間があったら良かったなあ...と思います (方法に慣れるまでに時間がかかりました...)</p> <p>35：次に試験を受けてからのグループワークについて、質問に答えていく際にどの質問にも当てはまるものがあり難しかった。</p>

- 理論的メモ
- ・ 試験体験の具体的な進め方やもつと話し合いたかったという意見(7, 14, 45)
  - ・ 問いが他の問いと似ていて答えにくいという意見(35)
  - ・ 他、意見ではなく、試験やディスカッションに対する不安やディスカッションの時間配分の難しさに対する感想についても述べられていた。

2015 保葉協【保育士養成のあり方に関する研究】 「事後アンケート」の分析

作成日：2016年3月8日(火)

## 「事後アンケート」 分析ワークシート 44

概念名	保育士試験を体験して (感謝、貴重な体験)
定義	保育士試験体験に参加しての感謝の言葉や貴重な体験ができたことへの思い
ヴァリエーション	<p>3：今日は貴重な体験をさせて頂きました。ありがとうございました。</p> <p>8：ありがとうございます。</p> <p>22：貴重な体験、ありがとうございます。</p> <p>29：ありがとうございます。</p> <p>38：今日一日、色んなことを考えて疲れましたが、楽しく、また貴重な体験ができました。参加して良かったです！</p> <p>42：今回は、貴重な体験がありました。</p> <p>44：本日はありがとうございます。</p> <p>45：貴重な体験となりました。ありがとうございます。</p> <p>46：今日は貴重な体験をさせていただき、ありがとうございます。</p> <p>47：今回は貴重な体験がありました。</p>
理論的メモ	

---

平成 27 年度 子ども・子育て支援推進調査研究事業（厚生労働省）

保育士養成のあり方に関する研究

研究報告書

平成 28（2016）年 4 月  
一般社団法人 全国保育士養成協議会

---

